現代社会学部履修要項

2026年度

同志社女子大学

主　要　目　次

修学上の基本事項

カリキュラム（社会システム学科2025～）

カリキュラム（社会システム学科2024）

カリキュラム（社会システム学科2018～2023）

カリキュラム（現代こども学科2025～）

カリキュラム（現代こども学科2024）

カリキュラム（現代こども学科2022～2023）

カリキュラム（DWCLA データサイエンス・AI プログラム）

カリキュラム（女性アクティベーションプログラム）

他学科科目一覧

研究教育活動

諸規程

その他

目次

学年暦……7
専任教員名簿……8

授業

授業時間…… 12
教室…… 12
学科略号…… 12
授業科目の種別…… 13
科目の属性表示…… 13
授業計画（シラバス）…… 13
教科書…… 14
欠席…… 14
休講…… 14
補講…… 14
学内の周知方法…… 15
単位と学習時間…… 15
校外授業…… 15
ゼミ合宿…… 15
FLT ナンバー …… 16
ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー…… 17
カリキュラム・マップ…… 17
授業に関するアンケート…… 17

学籍

修業年限…… 19
学位…… 19
学籍番号…… 19
学生証…… 20
休学…… 20
留学…… 20
復学…… 20
退学…… 21
再入学…… 21
除籍…… 21
転学部・転学科・転専攻…… 22
進級判定制度（薬学部 6 年制課程適用）…… 22
卒業査定…… 22

単位認定

1．本学の授業科目の単位 …… 23
2．入学前に本学以外の大学等で修得した単位等の認定 …… 23
3．本学在学中に他大学等で修得した単位等の認定 …… 23
　a．同志社大学との単位互換協定に基づく認定 …… 23
　b．金城学院大学との単位互換協定に基づく認定 …… 23
　c．奈良県立医科大学との単位互換協定に基づく認定…… 23
　d．大学コンソーシアム京都単位互換協定に基づく認定 …… 23
　e．放送大学との単位互換協定に基づく認定 …… 24
　f．文部科学大臣が定める学修等による単位認定 …… 24
　g．海外及び国内協定大学等で修得した単位等の認定…… 26
4．本学入学前に本学で修得した単位について …… 26

履修登録［登録制度・登録ルール］

登録単位数の上限…… 27
履修可能科目・履修年次…… 27
クラス指定…… 27
予備登録…… 27
セット登録…… 27
他キャンパス科目…… 28
複数クラス登録…… 28
再登録…… 28
二重登録…… 28
他大学単位互換科目…… 28
登録の許可・不許可…… 28
登録修正期間終了後の登録取消…… 28
卒業年次生の履修登録について…… 28

試験・レポート

平常試験…… 29
定期試験…… 29
追試験…… 30
レポート…… 30
レジュメの印刷…… 30

成績

成績…… 31
GPA 制度について …… 31
証明書…… 33

カリキュラム

同志社女子大学　ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針），
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）… 36
同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい
10の力…… 47
現代社会学部　社会システム学科（2025～）…… 49
現代社会学部　社会システム学科（2024）…… 61
現代社会学部　社会システム学科（2018～2023）…… 73
現代社会学部　現代こども学科（2025～）…… 85
現代社会学部　現代こども学科（2024）…… 97
現代社会学部　現代こども学科（2022～2023）……109
DWCLA データサイエンス・AI プログラム ……121
女性アクティベーションプログラム……125
他学科科目一覧……127

研究教育活動

教職課程センター……130
学会……130

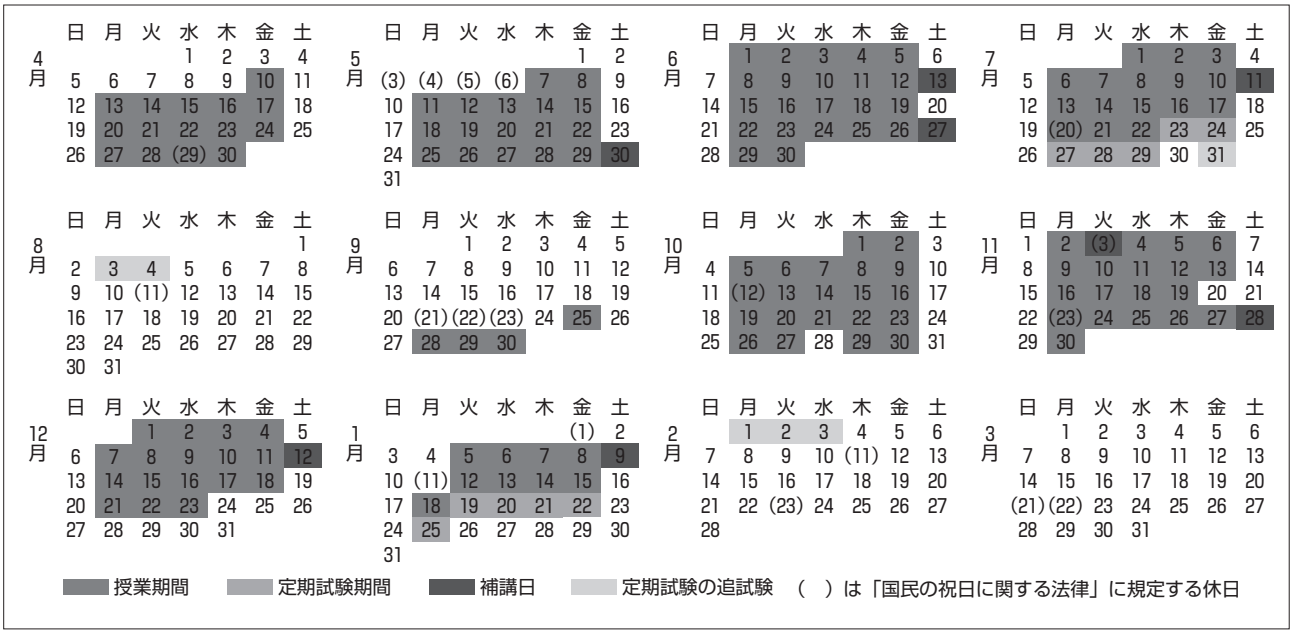
諸規程

同志社女子大学学則……132
同志社女子大学学位規則……144

その他

同志社女子大学組織……148
事務室一覧……149
キャンパスガイド……150
交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講について
……154

2026年度 同志社女子大学学年暦



授業日程関係

春学期

2026年

4月2日(木)	入学式
4月3日(金)～9日(木)	新入生オリエンテーション期間
4月10日(金)	春学期授業開始
4月20日(月)～24日(金)	春の宗教教育強調週間(I・II講時のみ短縮授業)
4月29日(水) 休日	授業日
5月1日(金)	休日
5月30日(土)	補講日
6月13日(土)	補講日
6月27日(土)	補講日
7月11日(土)	補講日
7月20日(月) 休日	授業日
7月22日(水)	春学期授業最終日
7月23日(木)～7月29日(水)	定期試験
7月18日(土)、25日(土)、30日(木)	定期試験予備日
7月31日(金)、8月3日(月)、4日(火)	追試験
8月25日(火)～9月7日(月)	春学期集中講義期間
9月26日(土)	春学期卒業式・修了式・学位授与式

秋学期

9月25日(金)	秋学期授業開始
10月5日(月)～9日(金)	秋の宗教教育強調週間(I・II講時のみ短縮授業)
10月12日(月) 休日	授業日
10月28日(水)	スポーツフェスティバル(全日休講)
11月3日(火) 休日	補講日
11月20日(金)～22日(日)	同志社創立記念週間(全日休講)
11月23日(月) 休日	授業日
11月28日(土)	補講日
11月29日(日)	同志社創立記念日
12月7日(月)	クリスマス礼拝(今出川キャンパスのみII講時のみ休講)
12月10日(木)	クリスマス礼拝(京田辺キャンパスのみII講時のみ休講)
12月12日(土)	補講日
12月24日(木)	冬期休暇開始

2027年

1月5日(火)	授業再開
1月9日(土)	補講日
1月18日(月)	秋学期授業最終日
1月19日(火)～25日(月)	定期試験
1月23日(土)	定期試験予備日
2月1日(月)～3日(水)	追試験
2月8日(月)～22日(月)	秋学期集中講義期間
3月18日(木)	卒業式・修了式・学位授与式

行事日程関係

春学期

2026年

4月6日(月)	定期健康診断(今出川キャンパス)
4月8日(水)、9日(木)	定期健康診断(京田辺キャンパス)
4月24日(金)	春学期学生納付金納入最終日
5月23日(土)～24日(日)	春季リトリート
6月12日(金)	医療薬学科薬学研究発表会
6月28日(日)	音楽学科吹奏楽サマーコンサート
7月12日(日)	音楽学科オーケストラコンサート
7月18日(土)	英語英文学科ポスターセッション
9月1日(火)	薬学共用試験(CBT)体験受験
9月中旬	会津若松・安中・函館ツアー

秋学期

10月19日(月)～23日(金)	同志社女子大学創立記念週間
10月23日(金)	秋学期学生納付金納入最終日
10月24日(土)	同志社女子大学創立記念日
10月31日(土)～11月1日(日)	秋季リトリート
11月6日(金)、7日(土)	The 76th Shakespeare Production公演
11月20日(金)	同志社創立記念礼拝
12月6日(日)	薬学共用試験(OSCE)
12月13日(日)	音楽学科定期演奏会
12月19日(土)	薬学共用試験(CBT)
12月24日(木)	食物栄養科学科卒業論文発表会
12月25日(金)	クリスマス

2027年

1月9日(土)	英語英文学科卒業研究発表会
1月中旬	国際教養学科卒業研究発表会
	医療薬学科白衣授与式
1月23日(土)	創立者永眠記念日
1月30日(土)	現代こども学科卒業研究発表会
2月上旬	メディア創造学科卒業演習・制作発表会
2月3日(水)	日本語日本文学科卒業論文発表会
2月4日(木)	社会システム学科卒業研究発表会
2月5日(金)	人間生活学科卒業論文発表会
2月20日(土)	音楽学科オペラ公演
3月11日(木)	音楽学科卒業演奏会、音楽専攻科修了演奏会
3月17日(水)	卒業礼拝

同志社女子大学　専任教員　名簿

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
学芸学部			
音楽学科			
教授	河江　優	K406	8713
教授	牛渡　克之	K402	8527
教授	山本　裕樹	K404	8511
准教授	北脇　歩	K353	8526
准教授	小味渕　彦之	K343	8518
准教授	筒井　はる香	K352	8704
准教授	佐原　洸	K350	8521
助教（有期）	鈴木　琴栄	K351	8499
特任教授	R. Besalyan	K403	8706
特任教授	井上　敏典	K407	8517
特任教授	松下　悦子	K408	8705
特任教授	成田　和子	K347	8524
特任教授	椎名　亮輔	K349	8515
メディア創造学科			
教授	影山　貴彦	C250	8668
教授	川田　隆雄	C248	8682
教授	関口　英里	C247	8662
教授	白井　良成	C245	8684
教授	髙木　毬子	C251	8698
教授	和氣　早苗	C241	8683
准教授	松井　信之	C252	8674
准教授	村木　美紀	C255	8732
准教授	尾関　基行	C246	8667
特任教授	森　公一	C244	8686
国際教養学科			
教授	A. C. Elliott	T504	8605
教授	潟山　健一	T507	8551
教授	佐伯　林規江	T508	8718
准教授	M. L. Correa	T604	8567
准教授	沖　キャサリン	T610	8603
助教（有期）	J. Kalapong	T606	8606
助教（有期）	J. M. Kobayashi	T614	8617
助教（有期）	C. Tat	T608	8725
特任教授	飯田　毅	T602	8578

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
現代社会学部			
社会システム学科			
教授	天野　太郎	C354	8580
教授	記虎　優子	C303	8572
教授	倉持　史朗	C347	8573
教授	日下　菜穂子	C353	8659
教授	大倉　真人	C301	8562
教授	大西　秀之	T502	8598
教授	L. Rogers	T506	8560
教授	佐々木　保孝	C351	8665
教授	谷　直之	C346	8773
教授	山下　智子	C357	8574
准教授	張　瑋容	C348	8765
准教授	金子　雄太	C341	8766
准教授	竹治　ふみ香	C350	8647
准教授	鳥潟　優子	C349	8553
助教（有期）	岩元　美由紀	C343	8556
助教（有期）	金　明柱	C355	8681
特任教授	加藤　敦	C344	8767
特任教授	長岡　延孝	C356	8769
特任教授	大津　正和	C345	8566
特任教授	朱　捷	C305	8661
特任教授	山田　邦和	C359	8717
現代こども学科			
教授	岩坂　泰子	C459	8596
教授	勝浦　眞仁	C455	8774
教授	真宮　美奈子	C451	8664
教授	椎名　美穂子	C443	8707
教授	梅垣　明美	C453	8657
教授	吉永　紀子	C457	8568
准教授	森川　拓也	C441	8557
准教授	新谷　龍太朗	C447	8709
准教授	吉澤　樹理	C452	8708
助教（有期）	中村　愛	C450	8729
特任教授	竹井　史	C445	8613
特任教授	塘　利枝子	C449	8710
特任教授	安田　志津香	C456	8696

建物名　C: 知徳館　K: 頌啓館　T: 聡恵館

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
薬学部			
医療薬学科			
教授	藤井　健志	W602	8672
教授	川崎　清史	W402	8588
教授	喜里山　暁子	W206	8505
教授	前川　京子	W504	8653
教授	松元　加奈	W202	8494
教授	松本　健次郎	W606	8689
教授	中澤　洋介	W306	8537
教授	成橋　和正	H112	8495
教授	根木　滋	W502	8650
教授	尾﨑　恵一	W406	8611
教授	芝田　信人	W204	8497
教授	當銘　一文	W304	8545
教授	塚本　仁	H108	8627
教授	和田　戈虹	W404	8612
教授	山本　康友	W507	8658
教授	吉川　清次	W604	8579
准教授	山内　雄二	W508	8547
特任教授	岩田　和実	W610a	8628
特任教授	岸本　歩	H110	8593
特任教授	小谷　晶子	W611	8793
特任教授	桑原　淳	W501	8648
特任教授	関本　裕美	H109	8768
特任教授	白井　隆一	W302	8510
《特別任用助教》			
	赤塚　亮太	W305	8534
	知名　秀泰	W506	8663
	藤井　愛理	W603	8619
	菅野　陽介	W407	8629
	小橋川　新子	W405	8616
	野田　佳苗	W405	8614
	野村　篤生	W603	8716
	佐藤　慈子	W403	8618
	髙橋　知里	W505	8655
	竹田　晃輝	W205	8628
	渡邊　賢司	W506	8652
《特別任用助手》			
	大木　萌花	W607	8675
	白井　克子	W303	8513
	田中　拓実	W207	8506
	辻花　愛那	W605	8688

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
看護学部			
看護学科			
教授	和泉　美枝	H510	8856
教授	小松　光代	H504	8850
教授	眞鍋　えみ子	H511	8563
教授	南　妙子	H515	8591
教授	光木　幸子	H519	8840
教授	杉原　百合子	H503	8849
教授	高城　智圭	H508	8656
准教授	萩本　明子	H524	8845
准教授	橋本　秀実	H506	8852
准教授	葉山　有香	H517	8838
准教授	片山　由加里	H516	8837
准教授	木村　静	H525	8836
准教授	木村　洋子	H522	8843
准教授	宮川　幸代	H509	8857
准教授	村田　尚子	H505	8564
准教授	小笠　美春	H518	8839
准教授	山縣　恵美	H502	8848
専任講師	川崎　友絵	H523	8844
特任教授	當目　雅代	H520	8841
《実習助教》			
	神原　祐美	H407	8828
	真鍋　知香	H514	8835
	岡﨑　和子	H407	8828
	杉岡　敦子	H407	8828
	鈴木　佑典	H407	8828
	髙橋　花子	H407	8828
	吉田　陽子	H407	8828
	中川　智恵	H407	8828
《実習助手》			
	池田　知穂	H407	8828
	元生　有紀子	H407	8828
	仲　ゆか	H407	8828
	野村　知弘	H407	8828
	吉田　香保里	H407	8828

建物名　C: 知徳館　W: 憩水館　H: 蒼苑館

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
表象文化学部			
英語英文学科			
教授	今井　由美子	D308	4197
教授	﨑　ミチ・アン	D305	4180
教授	鈴木　健司	D302	4189
准教授	浮網　佳苗	D316	4213
准教授	福島　祥一郎	D303	4930
准教授	木島　菜菜子	D315	4246
准教授	T. L. Medlock	D306	4242
准教授	山下　壮起	D307	4208
助教（有期）	M. Rakhshandehroo	D312	4229
助教（有期）	山本　由実	D313	4239
特任教授	若本　夏美	D311	4205
日本語日本文学科			
教授	宮腰　直人	D215	4933
教授	森山　由紀子	D206	4298
教授	中井　精一	D204	4233
教授	生井　知子	D217	4937
教授	大津　直子	D207	4172
教授	高橋　幸平	D213	4283
教授	山本　由紀子	D210	4936
准教授	宮本　明子	D208	4932
准教授	中岡　樹里	D202	4279
助教（有期）	陰山　涼	D209	4299
特任教授	大島　中正	D205	4934

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
生活科学部			
人間生活学科			
教授	麻生　美希	R335	4273
教授	土井　幸輝	R337	4216
教授	藤本　純子	R338	4232
教授	平光　睦子	R332	4282
教授	奥田　紫乃	R331	4254
教授	齋藤　朱未	R336	4244
准教授	村井　陽平	R339	4234
准教授	塚田　由佳里	R334	4221
食物栄養科学科			
教授	今井　具子	U114b	4266
教授	片井　加奈子	U216a	4235
教授	川﨑　祐子	U312b	4231
教授	神田　知子	U115b	4258
教授	小切間　美保	U115a	4227
教授	真部　真里子	U314b	4226
教授	森　紀之	U213b	4287
教授	村上　恵	U116b	4217
教授	奥西　智哉	U211b	4214
教授	杉浦　実	U316b	4228
教授	鈴木　拓史	U212b	4164
准教授	倉橋　優子	U311b	4173
准教授	奥村　仙示	U215b	4247
准教授	髙田　大輔	U215a	4271
准教授	米田　祐子	U216b	4256
特任教授	山本　寿	U315b	4215
特任教授	吉田　香	U313b	4224

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
教務部			
教職課程センター			
特任教授	小林　元気	C448	8429
特任教授	水本　徳明	C446	8419
特任教授	中川　美保子	C444	8626
特任教授	佐藤　光友	C454	8594

建物名　D: デントン館　R: 楽真館　U: 新心館　C: 知徳館

修学上の基本事項

授業

学籍

単位認定

履修登録

試験・レポート

成績

授　業

授業時間

1回あたりの授業時間は90分を基本としています。

通常授業は V 講時までです。特別な場合を除いて，土曜日には正規科目は開講していません。

■平常授業

Ⅰ講時	礼拝	Ⅱ講時	Ⅲ講時	Ⅳ講時	Ⅴ講時
9:00～10:30	10:35～10:55	11:00～12:30	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

■春と秋の宗教教育強調週間（学年暦参照）

Ⅰ講時	礼拝	Ⅱ講時
9:00～10:25	10:30～11:00	11:05～12:30

Ⅰ～Ⅱ講時が短縮授業となります。

Ⅲ～Ⅴ講時の授業時間は変更ありません。

各科目の授業時間については，45分を1時間として計算します。したがって，週1回90分行われる授業科目の週当たりの時間数は2時間となります。カリキュラム表などで，期間・時間が「春2」と表示されている科目は，春学期に毎週，週2時間（90分）の授業が行われる科目であることを示します。

＊授業開始のチャイムはDOSHISHA COLLEGE SONG，授業終了のチャイムは同志社女子大学大学歌です。

教　室

授業が実施される教室，実験室等は，略号で表示されます。

遠隔授業として実施される場合は，OLと表示されます。

京田辺キャンパス

A……恵愛館　C……知徳館　G……恵真館
H……蒼苑館　K……頌啓館　M……新島記念講堂
T……聡恵館　V……オリーブ館　W……憩水館
Y……友和館

例　C（各館略号）　1（階数）　8（号棟）　3（教室番号）

今出川キャンパス

B……頌美館　D……デントン館　E……栄光館
J……ジェームズ館　N……心和館　R……楽真館
S……純正館　U……新心館

例　S（各館略号）　3（階数）　01（教室番号）

学科略号

学　部	学 科 等	略号	略称
学芸学部	音楽学科演奏専攻	OE	音演
	音楽学科音楽文化専攻	OB	音文
	メディア創造学科	MS	メディア
	国際教養学科	K	国際
現代社会学部	社会システム学科	GS	社会
	現代こども学科	GK	子供
薬学部	医療薬学科	Y	薬学
看護学部	看護学科	KG	看護
表象文化学部	英語英文学科	E	英文
	日本語日本文学科	N	日学
生活科学部	人間生活学科	L	生活
	食物栄養科学科食物科学専攻	S	食物
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	SK	食管

授業科目の種別

本学の授業科目には，次のような種別があります。

1．履修方法によるもの

必 修 科 目……必ず単位を修得しなければならない科目。必修科目はクラス指定がされていて，履修しなければならない年次，曜日，講時等が指定されています。

選択必修科目……一定の科目群の中から指定された方法で選択して履修しなければならない科目。一定の科目群から一定の単位を修得する必要があります。

選 択 科 目……一定の科目群の中から自由に選択して履修する科目。

自由選択科目……卒業必要単位に含まれない科目。

2．授業実施時期によるもの

春 学 期 科 目……春学期に授業が行われる科目。

秋 学 期 科 目……秋学期に授業が行われる科目。

半 期 科 目……春学期又は秋学期に授業が行われる科目。

通 年 科 目……一年を通じて授業が行われる科目。

集 中 科 目……半期又は通年のいずれかの科目ではあるが，特別に一定の時期に集中して授業が行われる科目。実施時期は科目により異なります。
（９月卒業予定者は，９月に実施される集中科目を履修することはできません。）

3．授業実施形態によるもの

対面授業科目……キャンパス内の教室において対面形式で授業が行われる科目。

遠隔授業科目……オンラインにてオンデマンド（動画配信）型または双方向オンライン型の授業が行われる科目。

２校地遠隔接続科目……京田辺もしくは今出川いずれかのキャンパスで実施している対面授業をもう一方のキャンパスに配信し，同時に授業が行われる科目。



遠隔授業科目は，授業計画（シラバス）に明記されていますので，確認してください。遠隔授業科目を受講する際は，パソコン等が必要となります。また，自宅等のネットワーク環境も整える必要がありますので，ご注意ください。

4．その他の種別

自 学 科 科 目……在籍する学科・専攻に設置されている科目。

他 学 科 科 目……他学部，他学科又は他専攻に設置されている科目の内，履修が可能な科目。

単位互換科目

a. **同 志 社 大 学 互 換 科 目**……履修可能な同志社大学科目。

b. **金 城 学 院 大 学 互 換 科 目**……履修可能な金城学院大学科目。

c. **奈 良 県 立 医 科 大 学 互 換 科 目**……履修可能な奈良県立医科大学科目。

d. **大学コンソーシアム京都互換科目**……大学コンソーシアム京都加盟各大学・短大から提供されている科目。大学コンソーシアム京都単位互換協定により，本学の学生はこれらの科目を履修することができます。

e. **放送大学科目**……履修可能な放送大学科目。

科目の属性表示

科目名の最後につく英数字は，以下の内容を表します。英数字までが科目名称です。

・A，B，C，……は種類の違いを表します。

・Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，……はグレードの別を表します。

授業計画（シラバス）

「授業計画（シラバス）」は，本年度に開講される科目の次の項目について要点をまとめたものです。

授業テーマ／授業の概要／到達目標／授業方法／講義形式／アクティブ・ラーニング要素／各回の授業内容及び準備学習等の内容とそれに必要な目安の時間／遠隔授業／遠隔授業プラス／受講者へのメッセージやアドバイス／フィードバックの方法／成績評価方法・成績評価基準／教科書／参考文献等／獲得が期待される基礎的・汎用的能力（DWCLA 10）／教員との連絡方法／ FLTナンバー

原則として各科目につき担当教員ごとに掲載されていますが，外国語科目や体育実技科目，音楽実技科目等は，科目ごとの統一内容として掲載されている場合もあります。また，英語で表記された授業計画（シラバス）は原則，英語のみで授業が行われます。（その他，使用言語に関する特記事項がある場合は，「授業方法」の項目に記載されます。）

履修科目登録前に熟読する必要があることはいうまでもありませんが，授業開始以降も必要に応じて参照してください。「授業計画（シラバス）」は，D-Passから確認できます。

遠隔授業プラス

2026年度より，15回の授業回のうち，１回分の授業を遠隔授業（オンデマンド型）として実施し，この１回分の授業のことを「遠隔授業プラス」とします。１回分相当の遠隔授業（オンデマンド型）の実施方法，実施タイミングは授業担当者により異なります。詳細はシラバスで確認してください。

教 科 書

年度始めには，一定期間教科書特設販売会場を設けます。会場や販売日時に関しては，登録書類公開時にご案内します。科目，担当者，クラス，学期等を確認の上，間違いのないように購入してください。参考文献と表示されている場合は，購入は自由です。


注意

任意の登録変更の場合だけでなく，登録者多数により登録が認められなくなった場合でも，返品はできません。選択科目の教科書を購入する場合は特に注意してください。

欠　　席

授業には毎回出席することが原則ですが，出欠の取扱いは各科目担当教員に任されています。具体的には授業計画（シラバス）や教室での指示が，科目ごとの出欠に関する取扱いとなります。

本学で公欠としているものは，具体的には以下のとおりです。

■公欠事由

１．以下の免許・資格課程正規科目の学外実習による欠席

⑴ 教育実習　⑵ 管理栄養士校外実習及び臨地実習　⑶「博物館実習」
⑷「図書館実習」　⑸ 音楽療法学外実習　⑹「保育学実習」
⑺ 保育士学外実習　⑻ 看護師学外実習及び臨地実習　⑼ 保健師学外実習

２．介護等体験による欠席

３．裁判員制度による欠席

手　　続　上記１，２については免許・資格課で，３については教務課で「公欠届」を記入して確認を受けた上で，科目担当教員に事前に提出してください。（上記１の学外実習に関する事前オリエンテーションも公欠事由に含みます。）
なお，３については，裁判所が発行する証明書を持って，教務課窓口へ来てください。また，公欠の対象となるのは次の事由の該当日となります。
⑴ 裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加
⑵ 裁判員又は補充裁判員としての職務に従事


注意

上記１．～３．以外の場合は，いかなる理由による欠席も原則として同じ取扱いとなりますが，病気，その他やむを得ない事情により授業を欠席した場合は，担当教員に申し出てください。
欠席が長期にわたる場合は，各学部・研究科事務室で相談してください。

なお，インフルエンザ等，学校保健安全法施行規則第18条の感染症による授業欠席の取扱いについては，以下より確認してください。


本学Webサイト

在学生の方へ → 教務情報 → 授業情報 → 授業・定期試験欠席の取り扱い

休　　講

大学又は授業担当教員にやむを得ない事情が発生した場合は，授業が休講になることがあります。

１．予め判明している休講

事前にポータルサイト（D-Pass）で発表します。また，大学が付与しているメールアドレス（以下，Microsoft365メール）へメール配信します。

２．休講の発表がない場合

授業開始時刻から30分以上経過しても授業担当教員から教室に連絡がない場合は，教務課に連絡し，指示を受けてください。

３．全学一斉休講

交通機関不通・気象警報等発令により全学一斉休講となる場合があります。詳細については，この「履修要項」最終ページを参照してください。

補　講

休講があった場合，原則として補講が実施されることになっています。補講は補講日に行われるほか，他の授業に支障がなければ授業期間中の平日（補講日以外）にも行われます。補講情報は，D-Passで発表する他，Microsoft365メールへ配信します。詳細は担当教員の指示に従ってください。

学内の周知方法

履修登録・予備登録・各種説明会・提出物などの授業全般及び試験等に関する重要な連絡や，各学部学科・各事務室からの伝達・呼び出しなどは，D-Passや本学Webサイト，大学が付与しているMicrosoft365メール，学内の掲示によって行われます。

休講・補講・時間割変更・教室変更については，D-Passで発表します。また，Microsoft365メールへ配信します。

また，緊急の連絡においては，本学WebサイトやX（旧：Twitter）（最終ページ参照）にて周知する場合があります。

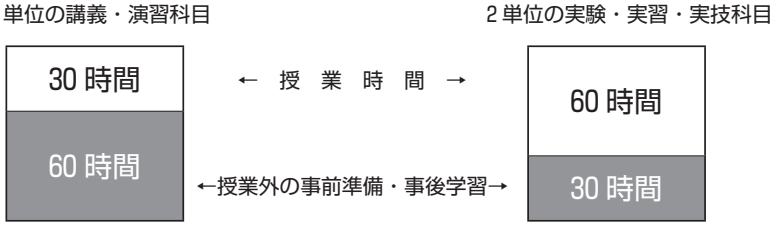
注意

各種学内での周知等の見落しによる不利益は本人の責任となります。D-Pass，本学webサイト，学内掲示，Microsoft365メールを確認する習慣をつけてください。

単位と学習時間

１単位に必要な「授業内外での学習時間」は45時間と定められています。
更に，１単位に必要な「授業時間」は，原則として講義・演習科目では15時間，実験・実習・実技科目では30時間となっています。
そのため例えば，２単位の講義・演習科目については，授業30時間（１コマ２時間の授業を１学期15週）と授業外の事前準備・事後学習60時間が必要となります。また，２単位の実験･実習･実技科目については，授業60時間（２コマ４時間の授業を１学期15週）と授業外の事前準備･事後学習30時間で２単位となります。なお，薬学部の講義演習科目と管理栄養士課程の実験・実習科目は別基準となります。

例



校外授業

科目によっては，授業中にキャンパス外の施設等を見学することがあります。これを校外授業と呼びます。校外授業については，その都度担当教員の指示に従ってください。交通費等が必要な場合は，個人負担となります。

ゼミ合宿

卒業研究・卒業論文・演習等のクラスでは，ゼミ合宿が行われることがあります。担当専任教員からの申請が認められたゼミ合宿には，宿泊費等の一部を補助する制度があります。学生のみの合宿や，いわゆるゼミ旅行は対象となりません。

FLTナンバー

本学では2016年度から，体系的な教育プログラムを理解するために，授業科目に内容・レベル等に応じた特定のナンバーを付与する科目ナンバリング制度が設けられました。分野（Field）・水準（Level）・授業方法（Type）等を表すアルファベットと数字の組合せで構成されていることから「FLTナンバー」と呼びます。学修したい分野について，どのように学修を進めていけば良いか判断するための参考として活用してください。

各科目のFLTナンバーは授業計画（シラバス）で確認することができます。（一部演習科目や実技科目にはFLTナンバーが定められていないものもあります。）

（例）日本の歴史Ⅰ：HSTb31-GS

分野	分野細目	水準	授業形態	開設学科等
HST （歴史学）	b （日本史）	3 （3年次）	1 （講義）	GS （社会システム学科）
・下記一覧表のとおり	・下記一覧表のとおり	1：学部1年 2：学部2年 3：学部3年 4：学部4年 5：学部5年 6：学部6年	1：講義科目 2：演習科目 3：実験実習実技科目(主として学内) 4：実験実習実技科目(主として学外) 5：講義と演習の混合科目 6：講義/演習/実験の混合科目 7：その他	GE：共通学芸科目 CD：キリスト教・同志社関係科目 FL：外国語科目 SH：スポーツ・健康科目 学科科目については，学科略号を使用します。(P.12学科略号参照)

分野一覧

分野		分野細目													
ARS	地域研究	a	地域研究 総合・複合	b	京都	c	日本	d	アジア	e	アメリカ	f	ヨーロッパ	z	その他
ART	美術・芸術	a	美術・芸術 総合・複合	b	美術	c	芸術	z	その他						
BIO	生物学	a	生物 総合・複合	b	基礎生物学	c	人類学	z	その他						
BUS	経営学	a	経営学 総合・複合	b	商学	c	会計学	z	その他						
CHM	化学	a	化学 総合・複合	b	物理化学	c	有機化学	d	無機化学	e	機能物性化学	f	合成化学	g	高分子化学
		z	その他												
CLD	こども学・児童学	a	こども学・児童学 総合・複合	b	こども文化	c	こどもの発達	d	こどもと社会	e	こどもと世界	f	保育学	g	こどもと福祉・養護
		h	こどもの保健・栄養	z	その他										
CRE	キャリア	a	キャリアデザイン 総合・複合	b	キャリア意識形成	c	インターンシップ	d	リーダーシップ	z	その他				
CRT	文化	a	文化 総合・複合	b	日本文化	c	東洋文化	d	英米文化	e	その他の文化	f	文化人類学・民俗学	g	比較文化
		z	その他												
DSN	デザイン学	a	デザイン学 総合・複合	b	視覚デザイン	c	サウンドデザイン	d	空間デザイン	e	プロダクトデザイン	z	その他		
ECN	経済学	a	経済学 総合・複合	b	財政・公共経済	c	金融・ファイナンス	d	国際経済・金融	z	その他				
EDU	教育学	a	教育学 総合・複合	b	学校教育	c	教育社会学	d	特別支援教育	e	博物館学	z	その他		
EGN	工学	a	工学 総合・複合	b	機械工学	c	電気・電子工学	d	土木工学	e	建築学	z	その他		
ELG	英語学・英語教育	a	英語学・英語教育 総合・複合	b	言語学	c	応用言語学	d	音声学	e	英語教育	z	その他		
ELT	英米文学・外国文学	a	英文学 総合・複合	b	英文学	c	米文学	d	ヨーロッパ文学	e	東洋文学	f	比較文学	z	その他
ENV	環境学	a	環境学 総合・複合	b	環境保全学	c	環境創成学	z	その他						
FDS	食物学	a	食物学 総合・複合	b	食品学	c	調理学	d	食文化	z	その他				
GND	ジェンダー	a	ジェンダー 総合・複合	b	女性学	z	その他								
GOG	地理学・地誌学	a	地理学 総合・複合	b	人文地理学	c	自然地理学	d	地誌	z	その他				
HST	歴史学	a	歴史学 総合・複合	b	日本史	c	アジア史	d	ヨーロッパ史・アメリカ史	e	考古学	z	その他		
HTH	健康・スポーツ科学	a	健康科学 総合・複合	b	スポーツ科学	z	その他								
INF	情報学	a	情報学 総合・複合	b	コンピュータ工学	c	情報システム	d	情報デザイン	e	Webデザイン	f	メディア処理	g	プログラミング
		z	その他												
ITR	国際関係学	a	国際関係 総合・複合	b	地域研究	c	国際協力	z	その他						
JLG	日本語学・日本語教育	a	日本語学・日本語教育 総合・複合	b	古典語学	c	現代日本語学	d	日本語教育	z	その他				
JLT	日本文学	a	日本文学 総合・複合	b	古典文学	c	近代文学	z	その他						
LAW	法学	a	法学 総合・複合	b	公法学	c	私法学	d	国際法学	z	その他				
LFS	生活科学	a	生活科学 総合・複合	b	衣文化	c	衣環境	d	被服デザイン	e	住文化	f	住環境住環境	g	住居デザイン
		h	生活経営	i	家族・生活福祉	z	その他								
LNG	言語教育	a	言語教育 総合・複合	b	日本語	c	英語	d	ドイツ語	e	フランス語	f	中国語	g	イタリア語
		h	スペイン語	i	ハングル	j	その他の言語	z	その他						
MDA	メディア学	a	メディア学 総合・複合	b	マスメディア	c	広告	d	コミュニケーション	e	メディア教育	f	図書館情報学	z	その他
MDS	医学	a	医学 総合・複合	b	内科系臨床医学	c	外科系臨床医学	d	病理学	z	その他				
MSC	音楽	a	音楽 総合・複合	b	声楽	c	鍵盤	d	器楽	e	音楽理論	f	作曲	g	コンピュータ音楽
		h	音楽療法	i	音楽文化	j	音楽教育	z	その他						
MTH	数学	a	数学 総合・複合	b	統計学	z	その他								
NSC	科学史	a	科学史 総合・複合	z	その他										
NTR	栄養学	a	栄養学 総合・複合	b	基礎栄養学	c	応用栄養学	d	栄養教育論	e	臨床栄養学	f	公衆栄養学	g	給食経営管理論
		h	総合演習	i	臨地実習	z	その他								
NUS	看護学	a	看護学 総合・複合	b	医学系基礎	c	疫学・社会保障	d	基礎看護学	e	成人看護学	f	精神看護学	g	母子看護学
		h	高齢者看護学	i	在宅看護学	j	公衆衛生看護学	k	学校保健	l	看護の統合・発展	z	その他		
PHL	哲学	a	哲学 総合・複合	b	日本哲学・思想史	c	東洋哲学・思想史	d	西洋哲学・思想史	e	倫理学	z	その他		
PHM	薬学	a	薬学 総合・複合	b	化学系薬学	c	物理系薬学	d	生物系薬学	e	薬理系薬学	f	天然資源系薬学	g	創薬化学
		h	環境・衛生系薬学	i	臨床薬学	z	その他								
PHY	物理学	a	物理学 総合・複合	b	物性学	c	天文学	d	地球科学	z	その他				
POL	政治学	a	政治学 総合・複合	z	その他										
PSY	心理学	a	心理学 総合・複合	b	社会心理学	c	教育心理学	d	臨床心理学	e	実験心理学	f	発達心理学	z	その他
REL	宗教学	a	宗教学 総合・複合	b	キリスト教	c	その他の宗教	d	同志社関係	z	その他				
SOC	社会学	a	社会学 総合・複合	b	社会福祉学	c	社会保障	z	その他						
TRM	観光学	a	観光学 総合・複合	b	地域観光学	c	国際観光学	d	ホスピタリティー	z	その他				

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

本学においてもディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが定められています。ディプロマ・ポリシーは，本学の教育理念に基づいて，どのような力を身に付けた学生に卒業を認定し学位を授与するのかを定めた基本方針です。すなわち学生の学修上の到達目標を示したものと言うことができます。これは単位数などの卒業要件とは異なります。カリキュラム･ポリシーは，どのような教育課程を編成して，どのような教育内容・教育方法でディプロマ・ポリシーに掲げられた到達目標を達成していくかを定めた基本方針です。本学では，ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーともに，本学全体としてのポリシーと各学部学科のポリシーとで構成されています。

特に重要となるのは，ディプロマ・ポリシーの到達目標です。それぞれの到達目標は，「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」に分けて掲げられています。「知識･理解」は，基礎的知識や専門的知識あるいは技能を深く理解した上で身に付けているか，「関心･意欲・態度」はこれらの知識や技能を更に身に付けていこうとする意欲や，身に付けた知識や技能を社会で生かしていこうとする態度が身に付いているか，「表現・技能・能力」は，知識や技能を創造的に活用し発揮していく力が身に付いているか，についての学修者側に焦点を当てた到達目標として理解してください。これらの到達目標は，各授業科目のシラバスに記載されている到達目標とも直接，間接に関係するものです。到達目標はその達成度を測定して評価される必要があります。各授業科目で成績評価が行われるのはその直接的な例ですが，「授業に関するアンケート」やその他のアンケートでの到達目標に関する自己評価などもそのための測定方法の１つとなっています。多様な方法を用いて，本学の到達目標がどの程度達成されているかの測定や評価が行われます。ディプロマ･ポリシーとカリキュラム･ポリシーを是非参照し，到達目標の達成に向かって努力してください。

カリキュラム・マップ

全学及び学科等ごとの到達目標がディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に定められており，どの到達目標をどの科目が担うかは，学科ごとのカリキュラム・マップに示されています。カリキュラム・マップは以下より確認してください。

本学Webサイト　在学生の方へ → 教務情報 → カリキュラムマップ

授業に関するアンケート

「授業に関するアンケート」を毎学期末にD-Passを用いて授業別に実施します。

このアンケート実施の目的は，以下の３点です。

① 授業改善のための受講生の意識の把握

② 授業に関する受講生の学修行動の把握

③ 授業の到達目標の達成度の受講生の自己評価等の把握

アンケート結果は，個別授業の内容や方法の見直しに活用されるだけでなく，学部学科としての教育力のいっそうの向上のためにも活用されています。無記名での回答になっているため成績評価に影響するものではありません。受講生の皆さんの率直かつ責任ある回答をお願いします。

「授業に関するアンケート」の実施方法の案内等が記載された実施要項や質問内容，また集計結果や分析結果も本学Webサイトに掲載されています。

本学Webサイト　在学生の方へ → 教務情報 → 授業情報 → 授業に関するアンケート

※集計・分析結果については，学内からのみアクセスが可能です。

なお，このアンケートはほとんどの科目で実施されますが，実施されない科目もあります。実施に関する基準等は，実施要項で確認してください。

「授業に関するアンケート」の今年度の質問は次ページの表のとおり予定されています。各質問についての質問趣旨も掲載していますので参考にして，それぞれの質問の趣旨を正しく把握してください。

注意　大学での授業は「受ける」だけではなく，受講生と担当教員が「ともに作る」ということも重要になります。「授業に関するアンケート」に答えるということは，自らの授業に対する取り組み方がどうだったのかを振り返ることにもなります。これらのことを念頭に置いてしっかりと授業に臨んでください。

今年度の質問内容及び質問趣旨（予定）※質問項目は変更する場合があります。

質問	質問の趣旨
授業実施に関する質問	
1．授業内容はシラバスに合っていましたか。	正しく回答するためには，受講生も日常的にシラバスを参照していることが前提となります。授業進度などが若干でも修正されたかどうかということが問われているのではなく，シラバスに記載された重要な事項の実施についてどう感じたかを回答してください。
2．受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。	受講者が多数の場合と少数の場合とでは，理解度を確かめる工夫は異なってきますが，例え受講生が多い場合でも何らかの工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点で回答してください。もちろん，受講生としてひとつひとつ理解しながら学習を進めるという心構えを持っていなければ正しい回答は困難になります。
3．授業レベルは自分に合っていましたか。	理解しようと最大限努力した上での率直な感想を回答してください。
4．教員からの一方向的な授業ではなく，教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。	受講者が多数の場合と少数の場合とでは工夫内容はまったく異なってくると思われますが，例え受講生が多い場合でも何らかの工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点で回答してください。
5．フィードバック（例　採点，添削，チェック後の返却，LMSでのコメント，質問に対する回答など）は効果的におこなわれていましたか。	受講生もフィードバックの重要性を認識し事後学習にも力を入れてほしいという願いが含まれています。そのような努力をした上で教員側からのフィードバックが効果的であったかどうかを回答してください。
6．言葉による説明だけではなく，受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。	図，表，写真，映像，模型などが効果的に使われていたかという観点から回答してください。受講者側の理解しようとする意欲が前提にあることは言うまでもありません。
7．自主学習を促す工夫がなされていましたか。	受講生の自主的な学習意欲を高める工夫やモチベーションを高める工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点から回答してください。
8．工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可，なしも可）。 1．分かりやすいパワーポイントや板書　2．聞き取りやすい話し方　3．教科書や配布資料の活用　4．LMSの活用　5．トラブルへの対応	工夫してほしいと常に思っていたことがあれば回答してください。
9．この授業は全体として満足できる内容でしたか。	全体のまとめとして，該当授業に対する包括的な評価を回答してください。
この授業のための学修行動に関する質問	
10．この授業の予習，復習，自主学習に１週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし，授業時間は除く。	自主学習には，この科目のために意図的に行ったすべての行動が含まれます。十分な授業外学修を行ってほしいという願いが込められています（下記の（注１）を参照のこと）。
11．あなたはこの授業で積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。	授業中の発言だけではなく，授業（教室）外での質問や，LMSを使って発言したことも含めて自己評価してください。
12．あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。	授業の分野の重要性や面白さが分かり，更に学習を深めようとしているかどうかを回答してください。
13．あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。 1．授業内容に興味・関心があった　2．授業方法に興味・関心があった　3．成績評価方法・基準に興味・関心があった　4．先輩や友人等の勧め　5．卒業又は免許・資格の取得に必要だから	
この授業の到達目標に関する質問	
14．到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。	回答の前提として，受講生も常に授業の到達目標を見失わないようにしてほしい，到達目標達成のために努力してほしいという願いが込められています。その上での感想を率直に回答してください。
15．あなたは到達目標を達成できたと思いますか。	到達目標が複数ある場合でも，全体としての達成度を率直に自己評価してください。
16．DWCLA10の内，この授業の履修を通して向上したと感じられる力をすべて選んでください（複数選択可，なしも可）。 1．分析力　2．思考力　3．創造力　4．プレゼンテーション力　5．コミュニケーション力　6．リーダーシップ　7．思いやる力　8．変化対応力　9．自己管理力　10．自己実現力	DWCLA10の力の重要性を認識して，その獲得に向けた努力をしてほしいという願いが込められています。シラバスに記載されていた「力」と異なっても構いません。
遠隔授業に関する質問	
18．遠隔での授業は滞りなく行われましたか。 ※遠隔で授業が行われた場合のみ回答してください。	学生のみなさんが遠隔授業を受けるにあたり，スムーズに授業に参加できたかどうか，授業はスムーズに進んだかどうかを把握したいという願いが込められています。

（注１）「学修」という用語は一般的な「学習」とは異なり，科目を履修し単位を修得することを目的として行う学習を指す場合に使用しています。

学　籍

学籍は入学により発生し，卒業･退学･除籍によりなくなります。学籍がある状態のことを「在籍」，通常の学修状態にあることを「在学」といい，両者を区別しています。そのため，休学中は，「在籍」状態ですが「在学」していないことになります。

修業年限

修業年限とは，大学を卒業するために最低必要な在学年数のことです。本学を卒業するためには最低４年間（薬学部医療薬学科は最低６年間）在学することが必要です。ただし，８年（薬学部医療薬学科は12年）を超えて在学することはできません。

本学に在学することのできる最長の在学期間のことを，在学年限といいます。

学　位

所定の期間在学し，各学科所定の卒業に必要な単位を修得した学生は卒業となり，次の学位が与えられます。

学位の種類

学芸学部
- 音　楽　学　科……学士（音楽）
- メディア創造学科……学士（メディア創造）
- 国際教養学科……学士（国際教養学）

現代社会学部
- 社会システム学科……学士（社会システム）
- 現代こども学科……学士（現代社会）

薬学部……学士（薬学）

看護学部……学士（看護学）

表象文化学部
- 英語英文学科……学士（文学）
- 日本語日本文学科……学士（文学）

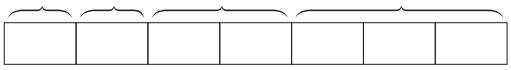
生活科学部
- 人間生活学科……学士（生活科学）
- 食物栄養科学科……学士（生活科学）

※学位を授与された者は，学位の名称を用いるとき，「学士（文学・同志社女子大学)」のように明記することが必要です。

学籍番号

入学手続を完了した学生には，入学と同時に学籍が設けられ，学籍番号が与えられます。

学部　学科等　入学年度　個人別一連番号



学　籍　番　号	所　属
1526001～	学芸学部　音楽学科　演奏専攻
1626001～	学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻
1726001～	学芸学部　メディア創造学科
1826001～	学芸学部　国際教養学科
2126001～	現代社会学部　社会システム学科
2226001～	現代社会学部　現代こども学科
5326001～	薬学部　医療薬学科（６年制課程）
4126001～	看護学部　看護学科
6126001～	表象文化学部　英語英文学科
6226001～	表象文化学部　日本語日本文学科
3126001～	生活科学部　人間生活学科
3226001～	生活科学部　食物栄養科学科　食物科学専攻
3326001～	生活科学部　食物栄養科学科　管理栄養士専攻

学 生 証

学生証は，本学の学生であるという身分を証明するものです。学内では，定期試験を受けるときなどに必要です。常に携帯し，他人に貸与や譲渡をしてはいけません。

なお，学生証を忘れた場合は，学内の使用に限り，「仮学生証」を各年度最大５回まで発行することができます。（証明書自動発行機にて発行可能。有料。※発行当日のみ有効。）



万一，学生証の紛失・盗難にあった場合は，学生支援課に届け出るとともに，近くの警察署へも届け出るようにしてください。

休　　学

病気などのやむを得ない理由によって修学することができない場合は，学長の許可を得て休学することができます。

休学が認められる期間は１学期又は１年の単位で，通算２年間までです。休学期間は学則に定める修業年限及び在学年限に含まれません。休学期間中の科目の履修や単位の修得は認められません。

休学手続　１．学生支援課で休学理由を伝えた上で休学願を受け取り，教務課に提出してください。病気の場合は医師の診断書が必要です。

２．休学願の提出期限は次のとおりです。

春学期（又は春学期から１年間）休学する場合　４月25日（春学期学生納付金納入最終日）

秋学期（又は秋学期から１年間）休学する場合　10月25日（秋学期学生納付金納入最終日）

※秋学期から休学する場合は，春学期学費が完納されていなければなりません。

学　　費　所定の手続により休学を認められた場合，「休学在籍料」として年間120,000円（半期の場合は60,000円）を納入することになります。



上記休学願の提出期日が土曜日もしくは日曜日・祝日等の場合には，直前の平日が提出期日となります。

留　　学

本学の正規の留学プログラムで海外及び国内の協定大学等に留学する場合は，その留学期間が学則に定める修業年限及び在学年限に算入されます。また，海外の認定大学留学制度により留学する場合も，学籍上同様の取扱いとなります。

この場合，留学中に修得した単位や学修は，本学の単位として最大40単位（留学期間が１年未満の場合は30単位）まで認定することができます。ただし，本学の規定の適用を受けず留学した場合は，単位の認定はできません。

復　　学

休学期間が過ぎると自動的に復学となります。この場合は，復学手続は必要ありません。休学期間の延長を希望する場合は，再度休学手続を行わなければなりません。

１年間の休学期間の途中で休学の事情が解消した場合は，学期単位で復学することができます。この場合は復学願を教務課で受け取り，病気が理由であった場合は診断書を添えて，各学期の授業開始前日（左記期日が土曜日もしくは日曜日・祝日等の場合は直前の平日）までに教務課に提出してください。

秋学期から復学する場合は，秋学期科目のみ履修登録が可能となります。復学した学生は所定の期日までに，所定の学費を納入しなければなりません。

退　学

事情により退学を希望する場合の手続は次のとおりです。

退学手続　1．学生支援課で退学理由を伝えた上で退学願を受け取り，教務課に提出してください。
2．退学願提出と同時に学生証を返還してください。

学　費　学費を年額一括納入している場合で，春学期末で退学するとき（秋学期授業開始前日（※）までに退学手続きをした場合）は，秋学期学費は返還します。
※秋学期授業開始前日が土曜日もしくは日曜日・祝日等の場合は，直前の平日となります。

退学年月日　退学年月日は，学費が全額納入されている最終学期末日付となります。

再入学

同一の学科・専攻（改組，学科名称変更等が行われた場合は，同一の学科・専攻と認められるもの）に再入学を希望する者は，選考の上，教授会の議を経て，入学を許可することがあります。

学期途中の再入学はできません。再入学を許可された学生の在学すべき年数及び在学年限は，学生ごとに決定されます。ただし，従前の学籍記録が継承されますので，通算して所定の在学年限を超える場合は，再入学を出願することができません。

また，2008年３月31日以降学費未納により除籍となり，仮保存されている単位を有効な単位とすることを希望する者は，未納学費を全額一括納入し，いったん退学しなければ再入学を出願することはできません。

再入学手続　1．教務課で再入学願を受け取り，教務課に提出してください。
2．再入学願の提出時期は次のとおりとします。

春学期からの再入学の場合	前年度の１月中
秋学期からの再入学の場合	当該年度の７月中

学　費　1．再入学が許可された場合，再入学した当該年次の学費が適用されます。
2．再入学手続金として，再入学する年度の入学金の半額及び当該学期の学費を所定の期日までに一括納入しなければ，再入学資格を失います。
3．再入学手続金の納入にあたって，延納・分納は認めません。
4．所定の期日以後の納入は，理由の如何に関わらず受け付けません。

除　籍

学生が次のいずれかに該当する場合は，教授会の議を経て，除籍となります。

除籍事由　1．在学年限内に卒業できない場合。
2．休学期間２ヵ年を超えても復学できない場合。
3．学費の納入を怠り，督促を受けても納入しない場合。
注）学費納入の督促を受けても納入しない場合は，その年度末に教授会の議を経て除籍となります。
ただし，学費未納により除籍通知を受けた学生が除籍取消を願い出た場合，除籍の次年度の春学期学費納入期限内に次の手続を完了した場合は，教授会の議を経て除籍を取り消します。

学費未納による除籍の取消手続　a．教務課備付の除籍取消願に事情を詳細に記入して教務課に提出。
b．未納の学費を全額納入。
c．除籍取消手数料5,000円納入。

卒業年次生で，卒業査定に関係する場合は，別の規定が適用されます。

[修得単位の仮保存]

2008年３月31日以降に学費未納により除籍となった者が学費未納期間中に修得した単位は仮保存されています。未納学費を完納して「除籍」が「退学」に変更された場合は，仮保存されている成績は有効となります。なお，仮保存中の修得単位は成績証明書には記載されません。

転学部・転学科・転専攻

在学年数が 4 年以内の者に限り，転学部・転学科・転専攻を願い出ることができます。受入学部，学科，専攻で学力試験を行った上，教授会の議を経て転学科等を許可することがあります。

試験科目・試験日　7 月に公表します（教務課窓口および本学Webサイト）。過去の試験問題は公表していません。
試験日程等の詳細は，本人宛郵送にて通知します。
音楽学科への転学部，転学科には実技試験等が課され，試験課題が 5 月下旬に公表されます。希望者は学芸学部事務室（音楽学科）へお問い合わせください。

出願手続　教務課備付の転学部・転学科・転専攻願を，当該年度の一般入学試験入学検定料と同額の受験料を納入して，教務課に提出してください。教務課窓口持参に限ります（郵送不可）。

出願期間　1 月上旬（ 7 月に公表）

合否通知　教授会決定に基づき，本人宛郵送にて通知します（ 3 月上旬）。

在籍する年次　転入を許可された学生の入学年度により定めます。
ただし，生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻への転入の場合には 2 年次となります。
また，転入学部・学科における在学年限は，転学部前に在籍していた学部・学科での在学年数と通算して 8 年です。

既修得単位の取扱い　転出学科・専攻における既修得単位を転入学科・専攻のカリキュラムに適用し，有効性を持つ科目・単位のみを転入後の成績原簿に記載します。転入後は，転入学科・専攻のカリキュラムにおいて不足の科目を履修することになります。

1．有効性を持つ科目・単位
既修得単位の内，転入後のカリキュラムに同一科目名かつ同単位数の授業科目が存在する場合のみ，有効性を持ちます。
このほか，修得済の授業内容が転入後の授業科目における教育内容に該当し，当該科目の単位を認定することが教育上有益であると特に認められる場合は，転入後の授業科目名において単位認定することがあります。

2．教職に関する科目について
⑴ 中等教育教員養成課程間の転学科等の場合は，同一科目名かつ同単位数の授業科目についてのみ有効性を持ちます。
⑵ 現代社会学部現代こども学科への転入及び現代こども学科からの転出の場合については，単位修得済の教職に関する科目は，初等教育／中等教育教員養成課程の関係において相互に有効性を持ちません。同一科目名かつ同単位数の場合でも単位認定はできません。教職に関する科目のすべてを，転入後にあらためて履修する必要があります。

3．転入後の成績原簿に記載されなかった既修得単位の取扱い
単位を修得した事実が消えることはありません。転出前の履修記録は別途管理していますので，必要な場合，転出前の内容で証明書を発行することが可能です。（教務課へお問い合わせください。）

学　　費　転入学後の学部・学科・専攻の当該年次の学費が適用されます。

そ の 他
1．秋学期からの転学科等はできません。
2．転学科等を認められた学生の，再転学科等は認められません。
3．学芸学部国際教養学科，薬学部医療薬学科及び看護学部看護学科への転入は行っていません。
生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻への転学科試験については，新入生の在籍者数が入学定員の 1.1 倍未満の場合に限り行います。転学科試験の実施の有無については， 5 月頃に掲示により連絡します。
4．生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻への転学科・転専攻の場合は，カリキュラム上，転入後 3 年間以上の在学が必要となります。
5．学芸学部音楽学科演奏専攻への転学科・転専攻の場合は，実技関係科目の履修に 4 年間を必要とするため，転入の年次にかかわらず，転入後最低 4 年間在学して，科目を履修しなければなりません。また，その他の学部・学科においても，転入の年次に関わらず，転入後 4 年間以上の在学が必要になることがあります。必ず出願前に教務課に相談してください。

進級判定制度（薬学部 6 年制課程適用）

薬学部 6 年制課程では，所定の条件により進級判定を行います。進級判定に合格しなかった学生は原級に留置されます。入学年度により判定条件が異なりますので，詳細はカリキュラム表末尾に記載されている進級判定制度に関する記述を参照してください。

当該学生に対しては，当該年を通して専属アドバイザー及び未修得科目の担当教員が日常の学生指導，生活指導からメンタル面まできめ細やかにサポートし，以後の就学を支援します。

卒業査定

卒業見込である学生に対しては，卒業の可否を 3 月上旬（ 9 月卒業の場合は 9 月下旬）に，連帯保証人（2021年度以前入学生については保証人）住所に連帯保証人（2021年度以前入学生については保証人）名と連名で，郵送にて通知します。具体的な日程については， 3 月卒業の場合は 1 月下旬に掲示にて連絡します。

単位認定

本学では，本学における授業科目の履修のほか，学生の主体的学習意欲の喚起及びその学習成果の積極的評価の観点から，様々なかたちで単位認定を実施しています。また，より一層幅広い分野の科目選択の機会を学生に提供できるよう，他大学との単位互換にも積極的に取り組んでいます。

1．本学の授業科目の単位

履修登録を行った授業科目に合格すれば，単位が与えられます。

2．入学前に本学以外の大学等で修得した単位等の認定

新入学生・二年次転入学生　本学への入学前に他の大学・短期大学等で修得した単位等は，最大で30単位（二年次転入生は40単位）まで認定することができます。認定希望者は，合格者に発送された書類に従って手続を行ってください。

三年次編入学生　三年次編入学生は，72単位（音楽学科はコースにより76単位）を上限として，編入学前に修得した他の大学・短期大学の単位を認定することができます。
教職課程に関する単位の認定は，卒業に必要な単位の認定とは別の取り扱いとなります。

3．本学在学中に他大学等で修得した単位等の認定

本学在学中に他の大学・短期大学等で修得した単位を本学で認定することができます。
認定できる単位及び学修は以下のとおりですが，次の点に留意しながら積極的に単位認定制度を利用してください。

留意点
1．卒業に必要な単位として認定できる単位数の上限は30単位です。ここで修得した単位は，区分外領域として卒業必要単位に算入します。ただし，区分外領域の卒業必要最低単位数は各学科・専攻・学年ごとに異なりますので注意してください。なお，海外及び国内協定大学等への留学の場合は別の取り扱いとなります。詳細は「g．海外及び国内協定大学等で修得した単位等の認定」を確認してください。
2．他大学単位互換科目を履修した場合は学年暦が異なるため定期試験を受験できないことや成績通知が遅れることがありますので，注意してください。
3．卒業年次で他大学の「単位互換科目」を履修する場合，卒業に必要な単位として計算しないでください。「単位互換科目」の単位は，卒業見込の単位としてはカウントすることはできません。ただし，最終的に卒業の時点においては卒業に必要な単位の一部となります。
4．いったん認定された単位の取消・変更はできません。
5．以下a．～g．の方法以外で修得した単位等の認定は行いません。
6．認定された科目の成績は，「認定」となります。
7．休学期間中は単位等の認定を受けることはできません。

a．同志社大学との単位互換協定に基づく認定

1997年度から同志社大学の一部の科目を履修することができるようになっています。「同志社大学互換科目」として指定されている科目の履修により修得した単位が本学の単位として認定されます。詳しくは「同志社大学単位互換科目履修ガイド」を参照してください。



2年次生から履修が可能になります。履修を申し込みできるのは3月下旬の履修登録期間のみです。



在学生の方へ → 教務情報 → 単位互換制度 → 同志社大学

b. 金城学院大学との単位互換協定に基づく認定

2010年度から単位互換協定に基づき，金城学院大学の一部の科目を履修することができるようになっています。「金城学院大学互換科目」として指定されている科目の履修により修得した単位が認定されます。詳しくは「金城学院大学単位互換科目履修ガイド」を参照してください。


本学Webサイト

在学生の方へ → 教務情報 → 単位互換制度 → 金城学院大学

c. 奈良県立医科大学との単位互換協定に基づく認定

2012年度から単位互換協定に基づき，奈良県立医科大学の一部の科目を履修することができるようになっています。

※2026年度は実施しません。

d. 大学コンソーシアム京都単位互換協定に基づく認定

1994年度から京都地区の大学・短期大学が相互に協定を結び，大学コンソーシアム京都単位互換制度を発足させました。現在加盟大学・短期大学は約50校で，それぞれ科目を定めて加盟大学の学生を受け入れています。履修可能科目や受講方法は，大学コンソーシアム京都ホームページを参照してください。


本学Webサイト

在学生の方へ → 教務情報 → 単位互換制度 → 大学コンソーシアム京都

e. 放送大学との単位互換協定に基づく認定

放送大学の科目を履修し，単位を修得した場合は，その単位を卒業に必要な単位として認定することができます。ただし，単位認定できる科目や認定上限等が学科ごとに異なります。また，本学の所定の手続を経て履修した場合のみ単位認定を行います。詳細は教務課でお問い合わせください。


本学Webサイト

在学生の方へ → 教務情報 → 単位互換制度 → 放送大学

f. 文部科学大臣が定める学修等による単位認定

学生の主体的学習意欲の喚起及びその学習成果の積極的評価の観点から，文部科学大臣が定める学修の内，下記の学修について在学中（入学日以降の受験分）の学修につき，各々以下の授業科目の履修とみなし，単位を認定します。単位認定の申請は学期ごとに期間を設けて受け付けます。

本学Webサイト　在学生の方へ → 教務情報 → 文部科学大臣が定める学修等による単位認定の申請について

1）英語の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	主催団体	単位認定基準			認定可能単位数	認定可能科目名	備考
TOEFL®	Educational Testing Service	iBT 61点	CBT 173点	PBT 500点	2	TOEFL Ⅰ	ETS主催のみ対象。 ITP（団体受験）は認定対象外。
		iBT 79点	CBT 213点	PBT 550点	4	TOEFL Ⅰ TOEFL Ⅱ	
		iBT 100点以上	CBT 250点以上	PBT 600点以上	6	TOEFL Ⅰ TOEFL Ⅱ TOEFL Ⅲ	
TOEIC® Listening & Reading Test	Educational Testing Service	600点			2	TOEIC Ⅰ	ETS主催を対象とする。 IP（団体受験）に関しては，学内実施分のみ有効。
		730点			4	TOEIC Ⅰ TOEIC Ⅱ	
		860点以上			6	TOEIC Ⅰ TOEIC Ⅱ TOEIC Ⅲ	
IELTS	British Council, IDP IELTS Australia, Cambridge English Language Assessment による共同運営	6.0			2	IELTS Ⅰ	Academic Moduleのみ対象。
		6.5			4	IELTS Ⅰ IELTS Ⅱ	
		7.0以上			6	IELTS Ⅰ IELTS Ⅱ IELTS Ⅲ	
国連英検	日本国際連合協会	B級合格			2	英語検定 Ⅰ	
		A級以上合格			6	英語検定 Ⅰ 英語検定 Ⅱ	
実用英語技能検定（英検）	日本英語検定協会	準 1 級合格			2	英語検定 Ⅰ	
		1 級合格			6	英語検定 Ⅰ 英語検定 Ⅱ	

認定単位数上限　6 単位（入学時に単位認定を受けていた場合でも，入学後は別に 6 単位まで単位認定を受けることができます。）
次頁の「3）英語以外の 6 言語の学修に対する単位認定」の上限とは重複しません。

認定例①　TOEFL® iBT 100点取得の場合，認定科目及び認定単位数は 2 ， 4 ， 6 単位の範囲で学生が選択できる。
認定例②　入学後のTOEIC® Listening & Reading Testで730点を取得し，「TOEIC Ⅰ ， Ⅱ」で 4 単位認定を受けていた学生が，その後TOEFL® iBTで100点を取得した場合，認定を受けられるのは「TOEFL Ⅲ」 2 単位のみ。

2）日本語教育能力の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	主催団体	単位認定基準	認定可能単位数	認定可能科目名
日本語教育能力検定試験	日本国際教育支援協会	合格	2	日本語教育能力検定

「1）英語の学修に対する単位認定」「3）英語以外の 6 言語の学修に対する単位認定」の認定単位数上限には含まれません。

3）英語以外の 6 言語の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	単位認定基準	認定可能単位数	認定可能科目名（いずれの科目でも認定可能）	
ドイツ語技能検定試験（独検）	4 級	2	初級ドイツ語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級ドイツ語演習Ⅰ，Ⅱ	ドイツ語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ
	2 級以上	6	〃	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ ドイツ語学修Ⅲ
Goethe-Zertifikat	A 1	4	初級ドイツ語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級ドイツ語演習Ⅰ，Ⅱ	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ
	A 2 以上	6	〃	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ ドイツ語学修Ⅲ
中国語検定試験（中検）	4 級	2	初級中国語基礎 初級中国語演習	中国語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ
	2 級以上	6	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ 中国語学修Ⅲ
漢語水平考試（HSK）※	筆記 3 級 又は口試中級	2	初級中国語基礎 初級中国語演習	中国語学修Ⅰ
	筆記 4 級	4	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ
	筆記 5 級以上 又は口試高級	6	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ 中国語学修Ⅲ
実用フランス語技能検定試験 （仏検/DAPF）	4 級	2	初級フランス語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級フランス語演習Ⅰ，Ⅱ	フランス語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ
	準 2 級以上	6	〃	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ フランス語学修Ⅲ
フランス語資格試験（DELF・DALF）	A 1	4	初級フランス語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級フランス語演習Ⅰ，Ⅱ	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ
	A 2 以上	6	〃	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ フランス語学修Ⅲ
「ハングル」能力検定試験（ハン検）	4 級	2	初級ハングル基礎Ⅰ，Ⅱ 初級ハングル演習Ⅰ，Ⅱ	ハングル学修Ⅰ
	3 級	4	〃	ハングル学修Ⅰ ハングル学修Ⅱ
	準 2 級以上	6	〃	ハングル学修Ⅰ ハングル学修Ⅱ ハングル学修Ⅲ
実用イタリア語検定（伊検）	4 級	2	初級イタリア語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級イタリア語演習Ⅰ，Ⅱ	イタリア語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	イタリア語学修Ⅰ イタリア語学修Ⅱ
	準 2 級以上	6	〃	イタリア語学修Ⅰ イタリア語学修Ⅱ イタリア語学修Ⅲ
スペイン語技能検定（西検）	5 級	2	初級スペイン語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級スペイン語演習Ⅰ，Ⅱ	スペイン語学修Ⅰ
	4 級	4	〃	スペイン語学修Ⅰ スペイン語学修Ⅱ
	3 級以上	6	〃	スペイン語学修Ⅰ スペイン語学修Ⅱ スペイン語学修Ⅲ

※漢語水平考試（HSK）の筆記 5 級以上，口試中級，口試高級は 6 割以上のスコアが単位認定対象となります。

認定単位数上限　6 単位（入学時に単位認定を受けていた場合でも，入学後は別に 6 単位まで単位認定を受けることができます。）
前頁「１）英語の学修に対する単位認定」の上限とは重複しません。

認定例　「独検」 4 級に合格した場合は，「初級ドイツ語基礎Ⅰ」「初級ドイツ語基礎Ⅱ」「初級ドイツ語演習Ⅰ」「初級ドイツ語演習Ⅱ」（各 1 単位）及び「ドイツ語学修Ⅰ」（2 単位）から，2 単位の認定を申請することができます。
※履修中の科目の単位認定を希望する場合は，教務課窓口で相談すること。なお，単位修得済の科目は申請できません。

４）認定申請期限　春学期の学修　春学期授業最終日
秋学期の学修　秋学期授業最終日

注意　申請が認められた場合，認定された科目は申し込みをした学期の最終成績に反映されます。

５）申請手続　申請希望者は，教務課で単位認定申請書に必要事項を記入し，合格証明書又は成績証明書原本を教務課に提出してください。入学後に受験したものであれば申請が可能ですが，有効期限がある場合は，期限内のものに限ります。

注意　所定の期間に本人からの申請がなければ単位認定ができませんので注意してください。証明書原本の入手が遅れる場合でも必ず所定の期間に教務課で指示を受けてください（特に卒業年次生は注意すること）。

g. 海外及び国内協定大学等で修得した単位等の認定

・海外及び国内協定大学又は認定大学で修得した単位
留学期間が１年間の場合は，ａ～ｇの項目を合わせて40単位を上限として，卒業に必要な単位として認定しています。
留学期間が１年未満の場合は，ａ～ｇの項目を合わせて30単位を上限とします。
・国際教養留学で修得した単位（国際教養学科のみ）
国際教養留学の場合は，ａ～ｇの項目を合わせて40単位を上限として，卒業に必要な単位として認定しています。ただし，ｇの項目は30単位までとなります。

国際教養留学を除き，認定方法は科目ごとの対応により審査しますので，必修科目や選択必修科目について認定を受けることもできます。

４．本学入学前に本学で修得した単位について

本学入学前に，科目等履修生又は単位互換履修生として修得した本学の単位は，本学入学後も有効な単位として取り扱い，原則としてその取扱単位数に上限はありません。

ただし，カリキュラム変更等により単位修得済の科目が廃止され，入学後の学科年次等において，当該科目がカリキュラムから除外されている場合は，当該科目の単位を卒業に必要な単位に算入することはできません。

履修登録 登録制度・登録ルール

履修登録とは，指定された期日までに，その年度において履修する授業科目を届け出る手続のことです。履修登録をして，履修を許可された科目でなければ，例え毎回授業に出席していたとしても定期試験を受験できず，単位を修得することができません。登録手続の不備による不利益は，本人の責任となりますから十分注意してください。

登録にあたっては，その年度だけでなく次年度以降に履修する科目も考慮して，計画的に適切な科目を選択することが大切です。

履修登録のルールとして最も重要なものは，各学科カリキュラムの履修上の注意や履修指導ですが，全学生に一般的に適用されるルールは次のとおりとなっています。正しく理解して，間違いのないようにしてください。

登録単位数の上限

本学では，登録単位数に上限を設定しています。学科ごとに，年間又は1学期間に履修登録できる単位数の上限が示されており，上限を超える登録は認められません。

これは，各科目の予習・復習に充てられる時間や学習効果の観点から，無理な履修計画を避けて充実した学習環境を保つために設けられました。2004年度より導入されたGPA制度においては，不合格科目もGPAの算出対象になりますので，留意して履修計画をたて，慎重に履修登録をする必要があります。ただし，自由選択科目，他大学の単位互換科目は上限対象外となっています。

各学科のカリキュラムのページ及び成績制度を参照してください。

＊最終年次に限り，登録単位数の上限を超えて履修登録することができ，修得単位は有効とします。

履修可能科目・履修年次

履修登録できる科目は，自学科の科目，他学科科目（所属している学科に提供されている科目に限る），共通学芸科目及び履修可能な免許・資格課程等の科目です。

また，すべての科目には，履修可能最低年次が定められています。例えば，履修可能最低年次が２年次とされている科目は，２年次にならなければ履修登録できませんが，２年次以降であれば，いつでも履修登録可能です。

クラス指定

クラスの指定とは，学生個人ごと（通常は学科内の組ごと）に「○曜日○講時の○○先生のクラスを登録してください」と指定されていることをいいます。クラス指定の有無は開講科目表や学科ごとの配布資料で確認してください。

クラスが指定されている場合は，次の場合を除いて，指定クラス以外のクラスに登録することはできません。

1．下級年次に置かれた必修科目を（再）履修する場合。

2．（再）履修すべき下級年次の必修科目と在籍する学年の必修科目が同一曜日講時におかれていて，下級年次の必修科目が1クラスしか開講されていないが在籍する学年の必修科目は複数クラス開講されている場合。

＊同一科目が，春学期，秋学期ともに開講されていて，それぞれにクラス指定がされている場合，春学期にクラス指定をされている学生は，春学期に当該科目が不合格であっても，秋学期の登録修正時に，秋学期に開講されているクラスで再履修することはできません。次年度に再履修することになります。

（クラスの指定がされていない科目の場合や再履修生用のクラスがある場合は，秋学期での再履修は可能です。）

予 備 登 録

２年次以上に設置されている一部の科目には，履修前年度に，予備登録をしておかなければならないものがあります。

予備登録の必要な科目にもかかわらず予備登録しなかった場合は，年度始めの登録（本登録）ができません。予備登録が必要な科目は掲示等によりお知らせします。本登録時には，予備登録の結果通りに正しく登録できているか確認してください。予備登録後の変更は原則できません。ただし，再履修科目登録などの理由で変更が必要な場合は各学科で許可を得て登録の手続をしてください。

セット登録

学科により，春学期科目と秋学期科目等をセットで同時に登録しなければならないとしている科目があります。この場合は学科の指示よりセット登録してください。セット登録科目の履修で，１科目のみ合格した場合，その単位は有効です。合格科目を含めて次年度に再度セット登録することはできません。

他キャンパス科目

他キャンパスで開講されている授業科目を履修することができます。ただし，他キャンパス開講科目で履修できるのは，他学科科目のほかは，自学科の「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」区分の科目を，選択科目として履修する場合及び再履修する場合に限ります。クラス指定のある場合はできません。(「教職に関する科目」のうち他キャンパスで再履修することができる科目はカリキュラム表に表示。)

キャンパス間の移動は，片道約１時間30分程度を要しますので，各自の時間割を十分考慮に入れて，無理のない科目を履修してください。

同一曜日に両キャンパスの授業科目を履修する場合は，最低1コマ（90分）相当の移動時間を取っておかないと，定期試験を受験できなくなる場合があります。キャンパス間の移動には，無料のシャトルバスが利用できます。利用方法，スケジュール等は本学Webサイトにて確認してください。



注意

「他キャンパス科目」が遠隔授業として実施される場合でも，定期試験は対面形式にて行われる場合があります。
定期試験の実施形態を十分確認したうえで履修してください。
また，誤って登録していて，定期試験が重複した場合，配慮の対象とはなりません。

複数クラス登録

同一名称の科目は，担当者等が異なっていても同一年度に複数クラス登録することはできません。

再 登 録

既に単位を修得した同一名称の科目は，担当者等が異なっていても再度登録することはできません。

二重登録

同一学期の同一曜日講時に２科目以上を登録することはできません。登録修正により，二重登録状態を解消しなければ両科目とも無効になります。

他大学単位互換科目

「同志社大学互換科目」「金城学院大学互換科目」「奈良県立医科大学互換科目」「大学コンソーシアム京都互換科目」「放送大学科目」の履修登録手続は，本学の科目の履修登録手続と異なります。他大学単位互換科目の出願票は別紙又は別途Web出願となっており，本学のD-Passからは登録できません。

また，他大学の学年暦により，成績の報告が遅れる場合もあるので，卒業年次生はこれらの科目を卒業に必要な科目としては履修しないでください。(必ずオーバー単位として履修してください。単位互換科目を卒業見込単位に含めることはできません。また，春学期卒業予定者の場合は，夏期集中講義の履修についても注意してください。)

登録の許可・不許可

登録の許可の通知は行いません。不許可の科目のみD-Pass等により連絡します。

次の場合は不許可となります。

1．履修登録のルールに違反している場合。
2．開講予定科目がやむを得ない理由で，欠講となる場合。(履修希望者が10名以内の場合は欠講となることがあります。)
3．「他学科科目」では，自学科の学生が優先されるため，履修希望者が多数の場合は，他学科生は登録を許可されないことがあります。D-Passで確認してください。
4．選択科目では，特定の科目に履修希望者が集中した場合，卒業年次生・上級年次生の優先，教室配当の調整，担当教員の手配等の措置の結果，次のことが生じることがあります。予めご了承ください。
   a．担当教員が当初の予定と変更になる場合。
   b．曜日，講時が変更になる場合。
   c．希望科目の登録ができなくなる場合。

登録修正期間終了後の登録取消

登録修正期間終了後，病気・怪我等やむを得ない事由により履修の継続が困難と判断され，登録の取消を希望するときは，学科主任の承認を得て登録取消を認めることがあります。登録の取消を希望する場合は，教務課に申し出て許可を得てください。ただし，定期試験受験後に取り消すことはできません。

卒業年次生の履修登録について

卒業年次生については，年度開始時の履修登録期間中に，必ず春学期・秋学期を通して卒業に必要な単位をすべて満たすよう履修登録をしてください。春学期科目のみを登録する等，卒業要件を満たさない登録をした場合，「卒業見込証明書」等の証明書作成ができません。

試験・レポート

試験には，平常試験・定期試験・追試験があります。また，試験に代わるものとして，レポートが課される場合があります。

平常試験

授業中に行われる試験です。平常試験に関する必要事項は授業中に担当教員から直接連絡がある場合と，掲示により連絡される場合がありますので注意してください。また，平常試験に関しては，後述の追試験はありません。

定期試験

定期試験は，各学期末の定められた期間に行われます。試験は以下の表の時間割に従って行われます。試験の時間割は，授業時間割と原則として同じですが，科目ごとの共通試験問題による実施の場合等で授業時間割と異なることもありますので，十分注意してください。なお，同一科目で複数クラスがある場合，履修登録したクラスの試験を受験しなければなりません。

（注１）各学期の対面授業最終週（第14週）に実施される試験については，定期試験と同様に取り扱われます。

（注２）定期試験については，各学期の授業第11週目にD-Passの「試験時間割表」でお知らせします。

定期試験時間

Ⅰ	9：10 ～ 10：10
Ⅱ	11：00 ～ 12：00
Ⅲ	13：15 ～ 14：15
Ⅳ	15：00 ～ 16：00
Ⅴ	16：45 ～ 17：45

※試験時間は通常60分間ですが，90分間以内で試験が行われる場合もあります。いずれの場合も試験開始時刻は同じです。

※各学期，定期試験予備日が設けられています（学年暦を参照）。定期試験期間中に，交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講措置が適用された場合，当該試験を予備日に振り替えて実施される場合があります。詳細は，この「履修要項」最終ページを参照してください。

受 験 資 格

次の場合は，定期試験を受験することができません。

1．履修登録をしていない場合。

2．学費未納の場合。

受験上の注意

1．学生証を持参していない場合は，定期試験を受験できません。受験中は学生証を監督者が見やすいように机の上に置いてください。科目等履修生，単位互換履修生，聴講生，履修証明プログラム生は履修生証・聴講生証等が必要です。
（試験当日学生証を忘れた場合は，証明書発行機で仮学生証を発行してください。）

2．試験時の座席は指定されています。試験場入口に掲示してある座席表で確認し，指定の座席で受験してください。

3．試験開始時刻から15分以上遅刻した場合は受験できません。

4．試験開始後30分間は試験場を退出することはできません。試験開始30分後以降の退出については監督者の指示に従ってください。

5．遅刻した場合でも，試験時間の延長は認められません。

6．受験の際は，筆記用具及び特別に持込みを許可されたもの以外は机上に置いてはいけません。下敷の使用は原則として認めていません。携帯電話等を時計として使用することはできません。

7．「試験時間割表」において，資料等の持込みが「一切可」となっている場合でも，次の機器を持ち込むことはできません。

・パソコン（モバイルPC等を含む），タブレット端末

・携帯電話（スマートフォン，PHS等を含む）

・腕時計型端末

・携帯音楽プレーヤー

・その他，外部との通信機能又は映像・音声収録再生機能のある機器
（電子辞書機能や計算機機能等を併せ持つ機器を含む）
前頁及び上記の機器の持込みが許可される場合の表記は，「授業時に指示」となりますので，授業中に確認してください。

8．解答に使用する言語について担当教員から指示がある場合は，その指示に従ってください。特に指示がない場合，授業実施に用いられていない言語での解答を希望する場合は，事前に担当教員の許可を得なければなりません。
9．不正行為をした場合にはその科目は 0 点となり，「同志社女子大学学生懲戒規程」により厳正に対処します。
10. その他試験中は，すべて監督者の指示に従ってください。

追試験

定期試験受験資格のある学生が，病気，事故，その他正当な理由で定期試験を受験できなかった場合，追試験を願い出ることができます。許可された学生は定期試験終了後に行われる追試験を受験することができます。（遅刻・時間の間違い等，本人の不注意によるもの等は対象となりません。）

追試験許可理由
1．病気（欠席した試験日当日の状況説明のある診断書が必要。コピー不可。）
2．公欠事由（P14参照。なお，試験期間中の実習は極力避けること。）
3．就職採用試験（企業側の証明書が必要。単なる会社訪問等は対象外。）
4．交通機関の延着（延着証明書必要）
5．二親等までの危篤（家族の証明必要）
6．二親等までの葬儀（家族の証明・告別式案内等のコピー必要）
7．「同志社大学互換科目」,「大学コンソーシアム京都互換科目」,「放送大学科目」の定期試験受験。（「大学コンソーシアム京都互換科目」については，受験証明書が必要。また，移動時間に合理性がない場合は不可。）
8．その他教務部長が正当と認めた場合

追試験受験手続
1．欠席した試験日の翌日までに，追試験願を教務課に提出しなければなりません。電話による仮受付も対応します。
2．追試験願には，当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければなりません。証明書類を追試験願と同時に提出できないときは，当該試験実施日より 3 日以内（休日，祝日，休業日を除く）に提出してください。期日までに証明書類が提出されない場合は，当該追試験願を取り消します。

注　　意
1．追試験の時間割は定められた日時に本学Webサイト上で発表します。
2．正当な理由（追試験許可理由と同じ）により，決められた追試験時間割で受験できない場合は，当該科目追試験実施日の事務取扱時間終了時までに教務課へ申し出てください（電話可）。

レポート

レポートは担当教員から随時課される場合や，定期試験に代わるものとして課される場合があります。課題に関する詳細や提出方法については，授業時に教員から直接指示される場合や，D-Passのクラスプロファイル，もしくはマナビーにて通知される場合がありますので，注意してください。

レジュメの印刷

授業で使用するレジュメの印刷を申し込む場合の申込先は，次の表のとおりです。レジュメが必要な日の 3 日前（休日・祝日・休業日を除く）までに申し込んでください。ただし，学部事務室に申し込む場合は，申込期限が異なる場合もあります。

教員区分	科目区分	取扱先
嘱託講師担当科目	全科目	教務課
専任教員担当科目	「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」「データサイエンス・AI科目」「教職に関する科目」「学校図書館司書教諭課程科目」	教務課
専任教員担当科目	上記以外の科目	科目を設置する学科の学部事務室

成　績

成　績

学習の評価は原則として100点法で行います。成績と成績証明書における表示との関係は以下の表のとおりです。

	成績通知書の表示	成績証明書の表示	備　　考
合　　格	100点～ 90点	秀	特に優れた成績を示した。
	89点～ 80点	優	優れた成績を示した。
	79点～ 70点	良	妥当と認められる成績を示した。
	69点～ 60点	可	合格と認められる最低限度の成績を示した。
	S	合格	100点法では評価できない科目の合格。
他大学等の単位認定	N	認定	他大学等で修得した単位の認定。 協定大学等留学に関わる単位の認定。 転学部・転学科等での修得済単位の認定。
不　合　格	59点以下	―――	合格と認められるに足る成績を示さなかった。

注１）成績証明書では，不合格科目の表示はされません。

注２）「同志社大学互換科目」，「金城学院大学互換科目」，「奈良県立医科大学互換科目」，「大学コンソーシアム京都互換科目」，「放送大学科目」は，成績通知書にも合格科目のみNと表示されます。科目名には大学名を付記します。

注３）成績通知書において，教職の教科に関する科目の認定は「教認」，留学による認定の場合は「留認」と記載されます。

成績開示　春学期の成績は９月下旬，秋学期の成績と通年科目の成績は３月中旬～下旬に学生に開示します。それ以前の成績に関する照会には応じません。在学生の連帯保証人（2021年度以前入学生については保証人）には翌学期の初旬に成績を開示します。
卒業査定合格者の成績は，学位授与式当日に通知します。

成績に関する質問・申立て　合理的な理由により成績評価の確認が必要な場合は，成績開示日から一週間以内であれば，成績評価に関する質問・申立てを教務課で文書にて受け付けます。但し，その回答に対する再度の質問や申立てを行うことはできません。

GPA制度について

本学では，2004年度入学生よりGPA（Grade Point Average）制度の導入を行いました。科目ごとの100点法による成績からそれぞれのポイント（GP）を求め，単位あたりの平均値を算出し，在籍期間中の累積GPAを成績通知書に記載します。修得単位数という“量”の学習成果に加え，成績評価にもとづく学習の“質”を総合的に評価できることになります。このGPA制度の導入により，より細やかな学習指導の活用と，学習意欲の向上，無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることなどを目的として導入されました。（D-passには年度学期ごとのGPAが表示されます。）

●100点法による成績，評価，GP（Grade Point）との関係

成　績	評　価	GP
100点～ 90点	秀	4.5 ～ 3.5
89点～ 80点	優	3.4 ～ 2.5
79点～ 70点	良	2.4 ～ 1.5
69点～ 60点	可	1.4 ～ 0.5
59点以下	不合格	0.0
S	合格	―――
N	認定	―――

●GPAの算出方法

・GPの基本算出方法

GP　＝（100点法による成績　－　55）×1/10

・GPAの算出方法

$$GPA = \frac{\text{学期の［（登録科目の単位数）×（登録科目で得たGP）］の総和}}{\text{（学期登録科目の単位数）の総和}}$$

・累積GPAの算出方法

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{在籍期間中の［（登録科目の単位数）×（登録科目で得たGP）］の総和}}{\text{（在籍期間中の登録科目単位数の総和）}}$$

例えば，学期中の成績が以下の場合，GPAの算出は次のようになります。

授業科目名	単位数	成　績	評　価	GP
聖書A	2	83	優	(83－55）×1/10＝2.8
哲学A	2	75	良	(75－55）×1/10＝2.0
自然科学史	2	58	不合格	0
情報と社会	2	98	秀	(98－55）×1/10＝4.3
SpeakingⅠ	1	82	優	(82－55）×1/10＝2.7
SpeakingⅡ	1	79	良	(79－55）×1/10＝2.4
国際文化交流史	2	65	可	(65－55）×1/10＝1.0
日本文化論	2	0	不合格	0
憲法Ⅰ	2	N	認定	GPA算出対象外
公衆栄養学実習（臨地実習）	1	S	合格	GPA算出対象外

＊成績評価が「合格（S)」,「認定（N)」の科目はGPAの算出からは除外されます。

$$GPA = \frac{(2.8\times 2+2.0\times 2+0\times 2+4.3\times 2+2.7\times 1+2.4\times 1+1.0\times 2+0\times 2)}{14} = 1.80$$

したがって，この学生のGPAは1.80となります。GPAの計算において計算式の分母は不合格科目を含め，履修登録をしたすべての科目の合計単位数であることに注意をしてください。
（自身で履修を放棄した科目についても100点法で成績評価されますので，GPAの算出に含まれます。）

○GPA算出除外科目

・原則として履修登録をしたすべての科目がGPA算出対象となります。ただし，成績評価が「合格（S)」,「認定（N)」で単位修得した科目や，卒業要件に算入されない科目はGPAの算出対象科目から除外されます。

○成績証明書・成績通知表への記載について

・成績証明書には，合格科目について評価（秀・優・良・可）のみが記載されます。ただし，海外留学等でGPAが必要な場合には，本人の選択によりGPAの記載が可能です。

・成績通知書には，履修科目すべての100点法による成績が記載されます。GPAは，在籍期間中の累積GPAが記載されます。

証 明 書

本学在学生の各種証明書，学割証は証明書発行サービスにてオンラインで申込み後，証明書発行機にて発行可能です。
※完全キャッシュレス対応
※一部の証明書についてはコンビニ発行が可能

	種　　類	日 本 文	英　文
学 部 生	在学証明書	200円	600円
	成績・単位修得証明書	300円	600円
	卒業見込証明書	200円	600円
	教職課程単位修得見込証明書	200円	—
	管理栄養士課程単位修得見込証明書	200円	—
	健康診断証明書(健康診断受診者のみ)	200円	—
	仮学生証（年間上限 5 枚）	200円	—
	学割証（年間上限20枚）	無料	—
大学院生	在学証明書	200円	600円
	成績・単位修得証明書	300円	600円
	修了見込証明書	200円	600円
	健康診断証明書(健康診断受診者のみ)	200円	—
	仮学生証（年間上限 5 枚）	200円	—
	学割証（年間上限20枚）	無料	—
上記以外の証明書		教務課窓口にお問い合わせください。	

証明書自動発行機の設置場所：
京田辺キャンパス　友和館 2 階　教務課／免許・資格課前
今出川キャンパス　頌美館 2 階　教務課／免許・資格課前

証明書発行機の利用時間：
8 時50分～ 17時00分（土・日・祝日および事務室休務日は利用できません。）

【在学生の証明書申込・発行方法】
証明書発行サービスから申し込みできます。詳細については，本学Webサイトで確認してください。

本学Webサイト　在学生の方へ → 在学生の証明書申込受付

【卒業生の証明書申込・発行方法】
証明書発行サービスから申し込みできます。詳細については，本学Webサイトで確認してください。

本学Webサイト　卒業生の方へ → 卒業生の証明書申込受付

現代社会学部カリキュラム

同志社女子大学 ディプロマ･ポリシー（学位授与の方針），カリキュラム･ポリシー（教育課程編成･実施の方針）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

同志社女子大学は，建学の精神に基づき，キリスト教主義教育，国際主義教育及びリベラル・アーツ教育の 3 つの教育理念により，良心をもって知識，能力を運用し，社会の礎となって活躍する自立した女性を育成する。本学は，次に掲げる人物で，かつ各学部学科，専攻科，研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）又は修了証書授与の方針に定める基準に到達し所定の卒業又は修了要件を満たした者に学位又は修了証書を授与する。

・キリスト教主義教育により，隣人を愛し他者を思いやるこころを持ち，世の光・地の塩となって他者及び社会に奉仕することのできる人物。
・国際主義教育により，異文化を尊重するとともに，言語や民族の違いを越えてグローバルな視点に立って国際社会で主体的に行動できる人物。
・リベラル・アーツ教育により，深い学術的知識，専門的技能と幅広い教養を持ち，学士にふさわしい分析力，思考力，創造力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力，リーダーシップ，変化対応力，自己管理力，自己実現力などの基礎的･汎用的能力を持った人物。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

同志社女子大学のカリキュラムは，ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を涵養するとともに，学生一人ひとりの能力を最大限に引き出し，それぞれの興味や関心に従って自己の進路を切り開く力をつけることができるよう編成されている。

【体系性】

幅広い教養と広い視野を拓くため，全学部学科共通に「共通学芸科目」「データサイエンス・AI科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」の各科目区分が設けられ，それぞれの区分に多様な科目が設置されているとともに，多くの他学部他学科科目や他大学科目の履修を認めている。

専門分野のカリキュラムは，「基礎教育科目」や「入門・概論科目」などから「応用・各論科目」「基幹科目」などへと段階的，発展的な科目区分が設けられ，最終的には「卒業研究」や「卒業論文」などにつながるように編成されている。

講義科目，演習科目，実験・実習・実技科目などの多様な授業形態の科目が，学部学科の特性に従ってバランスよく配置されている。

専攻科においては，3 専攻固有の科目と各専攻共通科目に区分して科目が設置されている。

大学院においては，専攻及び課程ごとに適切な「類」や「分野」を設けて科目が設置されている。

【教育内容】

キリスト教主義教育，国際主義教育及びリベラル・アーツ教育の 3 つの教育理念を基本とし，学生の学習意欲を刺激し支援する学習者本位教育活動を展開している。また，どの分野の学問を専攻する場合にも社会のどの分野に進む場合にも必要とされる基礎的・汎用的能力の獲得も重視している。

・学部においては，幅広い教養と広い視野を拓くため，多様な分野の科目が「共通学芸科目」区分に設置されているほか，他学部他学科の科目や他大学の科目を履修する機会が豊富に用意され，国内外の協定大学等への留学の機会も設けられている。
・「データサイエンス・AI科目」区分においては，データサイエンス・AIに関する基礎的な知識と活用方法を理論的かつ実践的に学び，多様なデータの分析を社会的課題の解決へと応用する力を身に付けられる科目を設置している。
・「キリスト教・同志社関係科目」区分では，キリスト教の歴史や文化を学ぶとともに，本学の建学の精神に触れる機会を共有している。
・「外国語科目」区分には，本学で伝統的に重視されている英語教育科目の他，多様な言語教育科目が設置され，異文化を理解し国際社会で活躍するための基礎的な力である外国語運用能力を身に付けられるようになっている。
・「スポーツ・健康科目」区分には，生涯にわたる健康について多様な側面から学ぶ科目が設置されている。
・専門分野の教育については，各学部学科において深い専門分野の教育が展開されている他，大学での学習方法などを学ぶ初年次教育や自らのキャリアデザインを描き学習のモチベーションを高めるキャリア教育も実践されている。
・免許･資格課程に関しては，原則として全学を対象とした学芸員課程，司書課程，司書教諭課程，日本語教師養成課程，社会福祉主事（任用資格）課程，ピアヘルパーの課程と特定の学科等を対象とした教職課程やその他の課程を設置している。
・専攻科においては，学部教育の基礎の上に，学問分野に関するより高度な技術や知識を備え，社会に貢献することができる女性を育成する教育が実践されている。
・大学院においては，学部教育の基礎の上に，学術の理論及び応用を教授研究し，精深な学識と研究能力を養い，文化の進展に寄与する女

性を育成する教育が実践されている。

【教育方法】
・知識・技能を獲得することが主目的の科目，知識・技能を活用することが主目的の科目など,それぞれの科目の特性に適した多様な教育方法が実践されている。 教える者と学ぶ者との双方向性や学ぶ者同士の相互性を重視するアクティブ・ラーニングが多様な形で実践されている。
・知識や技能を無批判に獲得するのではなく，「知識を得る」「体験する」「深く考える」「考えをまとめ，他者に伝える」「他者と議論しあるいは相互に評価し合う」「自らの考えを修正し鍛え直す」などの過程を通して，知識や技能を真に自分のものとするとともに，創造性に溢れた発想を涵養する教育が重視されている。

【学修成果の測定方法】
・学修成果の測定方法は科目により異なるが，本学では学修のプロセスで獲得できる多様な能力と学修の結果としての知識や技能などの双方を重視し，それぞれの観点から多様な方法での測定を行う。
・個々の科目の学修成果の測定結果を，学部学科，専攻科，研究科としての到達目標の達成度の測定に活用し，教育力のいっそうの向上に努める。
・本学の学生に卒業時までに身に付けてもらいたい10の力（本学の英語名称であるDoshisha Women's College of Liberal Arts にちなんでDWCLA10：分析力，思考力，創造力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力，リーダーシップ，思いやる力，変化対応力，自己管理力，自己実現力の10の力）の達成度の測定は，成績評価のほか，在学生アンケート，授業アンケートなどでも行う。

現代社会学部 社会システム学科 (2025年度以降入学生に適用)

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
現代社会学部社会システム学科は，個人と社会のウェルビーイングにつながる課題発見・解決，多文化コミュニケーション，データサイエンスを学びの 3 つの柱とする。多文化共生，京都学・観光学，ライフデザイン，心理・福祉，ビジネス・AI，公共政策・法という 6 コースで構成される多様かつ学際的なフィールドをベースとした専門的な学びを統合し，それらの成果を社会に発信し，新しい価値を創造する力を育むことを学びの特徴としている。その特徴をふまえ，全学共通の学位授与の方針に基づき，「知識・理解」，「関心・意欲・態度」，「表現・技能・能力」に関して，次の基準に達している者に学士（社会システム）の学位を授与する。

【知識・理解】
課題発見･解決，多文化コミュニケーション，データサイエンスを学びの 3 つの柱とし， 6 つのコースに置かれた専門的授業や研究演習･実習による学際的な学びを通じて，理論的・実践的知識を修得している。
【関心・意欲・態度】
現代社会の諸課題について関心を向けて深く理解し，国内外の多様な領域で積極的に関わり，その解決に他者と協同し，リーダーシップを発揮する意欲を持っている。
修得した知識や技能を有機的に統合し，その成果を広く社会に発信，共有，還元していく姿勢を身につけている。
【表現・技能・能力】
高いコミュニケーション力をもって， 6 つの専門領域を切り口に，総合的かつ多様な観点から現代社会を俯瞰し，課題を発見する力を身につけている。さらに，その課題解決に主体的に取り組み，ウェルビーイングにつながる基礎的能力を修得している。
・現代社会における課題発見と解決のためのデータサイエンスリテラシーの技能を修得している。
・語学力の向上や異文化理解を通し，社会状況や環境の変化に応じて適切なコミュニケーションを行うことができる能力を修得している。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
現代社会学部社会システム学科のカリキュラムでは，ディプロマ・ポリシーに掲げた卒業時の到達目標の達成を目指し，現代社会の課題発見・解決，多文化コミュニケーション，データサイエンスの 3 つを学びの柱とし，多文化共生，京都学・観光学，心理・福祉，ライフデザイン，ビジネス・AI，公共政策・法という 6 つのコースで展開される多様かつ学際的な学びを学生に提供することに特徴がある。これら複合的な学びによって広い視野を備え，各コースに立脚する専門的な学びを達成し，社会的諸課題を解決しながら，あたらしい価値を創造し，個人と社会のウェルビーイングを実現し，自らの力で未来を拓く力を育むためのカリキュラムを編成する。

【体系性】
初年次には同志社女子大学の教育理念に基づき，現代社会を学ぶ基礎的な力と豊かな教養を育むための科目を配置する。

専門教育科目を「基礎・入門科目」「概論科目」「応用・各論科目」「ゼミナール科目」に区分し，基礎的な知識と学習スキルの確立から専門的知識の獲得と研究活動，実践的学習の推進と評価・検証へと系統的に学びが深まるように科目を配置する。さらに学科によって選抜された学生については，１年次から３年次において開講される英語特別プログラム（CASE）において，ネイティブ・スピーカー教員が中心となり，高度な外国語運用と外国語による６コースの専門分野の学修をする。

【教育内容】

「基礎・入門科目」区分では，１年次に現代社会を学ぶ基礎的知識と学習スキルの獲得のため「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」，「現代社会入門Ⅰ」「現代社会入門Ⅱ」，「シティズンシップ入門」を配置する。また，入門的なフィールドワークや調査のための「社会リサーチ入門」を１年次に，社会の実情を的確に把握するために「社会リサーチ応用」を２年次科目として配置する。

「概論科目」区分ではＡからE群の12科目を１年次に配置し，６つのコースの領域に関する学問的体系の基礎を学ぶ。それにより，専門的な学びのための基盤をつくり各専門領域の関係性について理解する。さらに，複数領域の科目を同時に履修することで学際的な視座を養う。

「応用・各論科目」区分では，多文化共生，京都学・観光学，ライフデザイン，心理・福祉，ビジネス・AI，公共政策・法の各コースの専門領域に基づく科目を２年次より配置する。

各分野の体系的な学修を通じて高い専門性を身につけ，複合的な観点から理解する力の醸成を目指す。さらにプロジェクト系科目において地域社会や関係諸団体等と連携・協働し，社会的実践を通じて課題解決に取り組み，検証・評価を通してより高次な理論的・実践的知識の獲得を目指す。

ゼミナール科目を２年次より配置し，「専門基礎演習」，「応用演習Ⅰ」「応用演習Ⅱ」を段階的に学修することによって，多文化共生，京都学・観光学，ライフデザイン，心理・福祉，ビジネス・AI，公共政策・法コースの専門領域について探究的に学び，これまでに修得した理論的・実践的知識，技能を統合して「卒業研究Ⅰ」，「卒業研究Ⅱ」を進める。研究成果を発信し，現代社会を取り巻く諸課題の解決に貢献できる能力の獲得を目指す。

【教育方法】

学修内容に応じて，講義・演習・実習などの授業形態を採用する。

双方向型の授業，および，主体的な学びを推進するためにグループワーク，またワークショップやフィールドワーク，プロジェクト活動などを取り入れる。学生同士や教員等とのディスカッションを通して，分析力，思考力，創造力，コミュニケーション力，プレゼンテーション力などを身に付ける。

【学修成果の測定方法】

ディプロマ・ポリシーにおいて示した，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力の３つの観点をふまえ，シラバスに到達目標，成績評価方法および成績評価基準を明示し，各授業に置いて適宜ルーブリック等を活用しながら，定期試験，レポート，フィールド実践，研究論文，プレゼンテーションなどにより学位授与の方針に示す能力の修得状況を評価する。

現代社会学部 社会システム学科 （2024年度以前入学生に適用）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

現代社会学部社会システム学科は，社会を理解する上で必要な法律，社会対応力（情報活用・問題解決技能），グローバルコミュニケーション（外国語運用能力）の３つを柱とし，多文化共生，ライフデザイン，ビジネスマネジメント，京都学・観光学，公共政策と法という５コースに区分される多様かつ学際的な学びのフィールドを，広領域かつ専門的な学びとして統合し，さらにそれを社会に発信する力を育むことを学びの特徴としている。その特徴をふまえ，全学共通の学位授与の方針に基づき，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に学士（社会システム）の学位を授与する。

【知識・理解】

法律，情報処理，外国語運用能力を共通に身に付け，５つのコースに置かれた専門的授業を興味に従って履修することで理論的，実践的知識を学際的に獲得し，最後に卒業研究において深い専門的な知識を修得する。

（多文化共生コース）

・多様な国家や民族の政治・経済システムに関する知識を持っている。
・国家や民族の政治・経済システムにおける宗教・文化的背景を理解している。
・国際的レベルでの相互理解と協力の意義を理解している。

（京都学・観光学コース）
・観光の基礎的理論に関する知識を持っている。
・観光に関わる諸システムを現実に即して理解している。
・国際観光都市としての「京都」の特徴を理解している。
・自然環境や文化財についての知識を持っている。
（ライフデザインコース）
・現代社会においての総合的なキャリア形成についての諸問題を理解している。
・宗教，教育，福祉，心理といった複眼的な観点から人間生活全般を理解する力を持っている。
（ビジネスマネジメントコース）
・多角的視座からビジネスを体系的に学び，その基礎となる理論や知識を修得している。
・消費者保護や環境保全の問題を含むビジネスにおける倫理観の重要性を理解している。
・国際的な視野から経済政策，金融・流通等ビジネス全般にわたるシステムを理解している。
（公共政策と法コース）
・日本国憲法・民法・刑法を中心とした法律の基礎的知識を持っている。
・現代社会の直面する問題を公共政策や法的な視点から理解している。
（専門以外の幅広い学び）
・専門分野以外に幅広い分野の教養を持っている。
・英語運用能力を有するとともに，ドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，イタリア語，ハングルのいずれかに関する基礎知識を持っている。

【関心・意欲・態度】
21世紀に女性の活躍の場はますます開かれることが予想される。そのために現代社会の諸問題に積極的に関わり，国内外の多様な領域で指導的な役割を果たすことのできる態度を身に付ける。
（関心）
・社会の課題を理解し，問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている。
・修得した知識や技術を地域社会に還元することに強い関心を持っている。
（意欲）
・社会生活の多様な場面で活躍することに意欲的に取り組んでいる。
・国際的な視野から社会の実情を知り理解することに意欲を持っている。
・自らの一生涯を主体的に創造する広義のキャリア形成の意欲を持っている。
（態度）
・専門実技の技術と知識を探求する姿勢と，幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身に付けている。
・社会と個人のニーズを調整し，自ら考えて行動を起こし，主体的に発信していく態度を身に付けている。
・社会の課題解決にあたるうえで，他者と協同的な関係を形成し維持する態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
国際関係・異文化理解，京都学・観光学，ジェンダーに配慮したライフデザイン，ビジネスのマネジメント，及び法律学的知識・運用の5領域を切り口として，コミュニケーション力を持って総合的かつ分析的な観点から現代社会に貢献できる技能を身に付ける。

・法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている。
・現代社会における課題の理解と解決に情報処理の技術を役立てることができる。
・社会生活において英語を運用してコミュニケーションをとる能力を持っている。
・修得した知識や技術を統合し，その成果を広く社会に発信し，よりよい社会の構築に寄与する能力を持っている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
現代社会学部社会システム学科のカリキュラムの特徴は，社会を理解する上で必要な法律，社会対応力（情報活用・問題解決技能），グローバルコミュニケーション（外国語運用能力）を3つの柱として身に付けさせるとともに，その基礎の上に，多文化共生，ライフデザイン，ビジネスマネジメント，京都学・観光学，公共政策と法という5つのコースに区分される多様かつ学際的な学びのフィールドを学生に複合的に選択させ，広領域かつコースの専門的な学びを達成することができる点にある。本学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた卒業

時の到達目標を達成できるよう，最終学年の卒業研究を集大成としてカリキュラムを編成している。

【体系性】

・本学科の専門分野の科目は「基礎・入門科目区分」「概論科目区分」「応用・各論科目区分」「ゼミナール科目区分」により段階的に配置され，法律，社会対応力（情報活用・問題解決技能），グローバルコミュニケーション（外国語運用能力）をまず共通に身に付け，５つのコースに置かれた専門的な授業において理論的，実践的知識を学際的に獲得し，それらを統合した体系的な学びの上で，最後に卒業研究において専門的な知識を修得する。
・本学科の専門分野の科目に関しては，「基礎・入門科目区分」の「基礎演習」において調査・研究・プレゼンテーション，ディスカッションを含めた基礎的技能の確立を全員が履修することで実践的な訓練を行う。入学時に実施する英語適性検査によって選抜された一定の英語基礎能力を有する学生については，１年次から３年次において開講される英語特別プログラム（CASE）において，ネイティブ･スピーカー教員が中心となり，さらに高度な外国語運用技能，及び５つのコースに基づく専門分野の外国語による習得を目指す。
・「概論科目区分」では，５つのコースにおける学問領域の基礎の修得を目指し，複数のコースにまたがる履修を必修として幅広い教養を養う。
・「応用・各論科目区分」では，５つのコースにおける学問領域の体系的な学習を目指す。
・「ゼミナール科目区分」では２年次の専門基礎演習で調査，分析，プレゼンテーション，ディスカッション，レポート作成などのアカデミック・スキルの基本を導入し，３，４年次の応用演習・卒業研究では，５つのコースにおける多様な分野から，各自の興味に応じて選択し，学生が主体的に研究を進めて４年間の学びの集大成として２月に卒業研究発表会を行い，卒業研究を完成させる。
・全学共通科目に関しては，全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに，他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】

（１）初年次教育（１年次）

・「基礎・入門科目区分」では，「基礎演習」を履修することにより，調査，分析，プレゼンテーション，ディスカッション，レポート作成の運用能力を身に付ける。
・「概論科目区分」の分野では，多文化共生，ライフデザイン，ビジネスマネジメント，京都学・観光学，公共政策と法の５つのコースに区分される分野において，理論的・実践的知識を学際的に獲得し，各学問体系的の基盤を学ぶとともに，複数領域の学問を同時に学ぶことで，学際的な視座を養う。
・「基礎・入門科目区分」において，「現代社会入門」，「社会リサーチ入門」，「シティズンシップ入門」を履修することにより，現代社会を捉える力を養う。
・CASEプログラムにおいては，一定以上の英語力を持つ学生を対象として，ネイティブ・スピーカー教員が中心となり１年次から３年次まで段階的に高い英語運用能力の獲得と英語による専門領域の修得を目指す。

（２）２年次教育

・「基礎・入門科目区分」では，「法からみる現代社会」を履修することにより，現代社会のあり方を法律面から理解する力を養う。
・「専門基礎演習」の履修によって，各コースの専門的な学びの導入を行い，３年次以降の応用演習・卒業研究への接続を行う。
・「応用・各論科目区分」では，多文化共生，ライフデザイン，ビジネスマネジメント，京都学・観光学，公共政策と法という５つのコースに区分される分野において，各分野の体系的かつ複合的な観点から理解する力を目指す。
・第２外国語の高度な運用能力の獲得を目指して，ラピート・プログラムを通して中国語の言語ならびに背景となる文化の理解促進をはかる。
・「キャリアデザイン科目区分」では，女性のリーダーシップや広義のキャリア教育の総合的な理解を目指す。さらに，「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」を通して，地域社会と連携し，創造的な学びを通して総合的な分析力や発信力を目指す。

（３）３年次教育

・「ゼミナール科目区分」では，多文化共生，ライフデザイン，ビジネスマネジメント，京都学・観光学，公共政策と法という５つのコースに区分される分野において，専門的な知識を体系的に身に付けるとともに，これまで履修してきた各科目区分の学びの成果を統合しつつ現代社会の諸問題に積極的に関わり，研究の基礎的能力の獲得を目指す。
・「応用・各論科目区分」の分野では，２年次に引き続き，５つのコースに設定された専門的な学びを体系的に，かつ複合的に学習し，理解の深化をはかる。
・「キャリアデザイン科目区分」では，地域研究の基礎から応用までを体系的に学び，分析・発信する能力を獲得し，地域社会にその成果を還元する力を醸成する。

（4） 4年次教育

・「ゼミナール科目区分」では，3年次から始めた専門的な研究を発展させ，「応用・各論科目区分」における専門的な学びの成果も援用しながら，卒業研究の深化につとめる。秋学期末の卒業研究発表会，論文集の作成などを通して，修得した知識や技術を統合し，その成果を発信する能力の獲得を目指す。

（5）幅広い分野の知識・教養

・全学共通科目により，専門分野以外の幅広い知識と教養を身に付け，広い視野と想像力を養うとともに豊かな人間性を涵養する。
・外国語に関しては，英語運用能力を身に付けるとともに，ドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，イタリア語，ハングルから1言語の基礎知識を修得する。

（6）免許・資格

・中学校教諭一種免許状（社会），高等校教諭一種免許状（地歴），高等校教諭一種免許状（公民），上級情報処理士の課程を設置している。

【教育方法】

・「基礎・入門科目」においては，少人数クラスで総合的かつ実地に学ぶことを通して，適宜グループワーク・調査・制作・発表等の課題を課し，知識の修得だけではなく，主体的に学び新たな発想を生み出す力を育成する。
・授業全般にアクティブ・ラーニングの手法を積極的に取り入れ，創造的な学習と理解，さらに発信する力を育成する。
・演習形式の授業においては，少人数制による指導を行うとともに，学外でのフィールド・ワークを積極的に行い，地域社会と連携した実践的な研究を行うことを通して，現代社会を理解する上で必要な力を醸成する。
・学部・学科・学会講演会によるフィールド・ワークやワークショップを随時実施し，主体的に社会に対応する多様な力を育成する。

【学修成果の測定方法】

・講義形式の授業においては，試験及びレポートを中心としつつ，グループワーク・調査・発表などの課題に対する姿勢や評価も重視する。
・「応用演習」，「卒業研究」を通して作成する卒業研究について，合同発表会を通して多角的に検証しコミュニケーション力を持って総合的かつ分析的な観点から地域社会に貢献できる技能を身に付けているかを評価する。

現代社会学部 現代こども学科 （2025年度以降入学生に適用）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

現代社会学部現代こども学科は，全学共通の学位授与の方針に基づき，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に学士（現代社会）の学位を授与する。

【知識・理解】

（本質を見抜く力）

こどもと遊び，表現，発達，身体性についての知識を土台とし，こどもを取り巻く社会のウェルビーイングを高めるために必要なことを理解している。

（国際的な視野）

こどもを取り巻く環境や課題についてのグローバルな視点での知識や幅広い分野の教養，問題解決に向けた具体的な方略，英語をはじめとして様々な言語の基礎的運用能力を身に付けている。

（多様性の尊重）

こどもが守られ育つ環境について「ケア」に基づき理解し，障がいや多文化共生などの視点から国内外の多様なこどもの在り方に応じた支援に関する知識を身に付けている。

【関心・意欲・態度】

（関心）

こどもの保育・教育に関する歴史的変遷，こどもを取り巻く社会状況，国内外の多様性に関心を持ち，現在の状況に関係付けて具体的に考えることに関心を持っている。

（意欲）

こどもに関する理論的な知識とスキルを自ら学び活用しようとする姿勢を持ち，こどもを取り巻く国内外の社会問題を自らの学びの課題

と捉えて解決するために，具体的な活動を企画・実践しようとする意欲を持っている。
（態度）
　こどもの立場を尊重し，豊かな感性を持ってこどもを取り巻く多様な人々と協働し，こどもに関わる専門性を高めようと生涯にわたって自律的に学び続けようとする態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
（創造的に想像する能力）
　変化を楽しみ，失敗を恐れず挑戦して学びを構築し，既成概念にとらわれることなく，未知の世界に感性を働かせ，試行錯誤しながら新たなものの見方・考え方を創造的に想像する能力を修得している。
（批判的思考）
　現代社会に生きるこどもの問題を発見し，それに関わる情報を収集し，批判的に分析し，自分の考えをより良いものにすることのできる能力を修得している。
（問題発見・解決能力）
　問いを自分で立て，問題解決のためにまず行動し，理論や経験と関連付けながら，実態に即して解決する能力を修得している。

（コミュニケーション能力・マネジメント能力）
　個人を尊重すると共に他者の力を引き出すコミュニケーション能力を有し，構成員の得意な面を活かしながらチームをマネジメントして協働作業に取り組む能力を修得している。
（情報リテラシー・プレゼンテーション能力）
　多様な情報を自ら探索し，適正な判断に基づいて取捨選択し，文脈や目的に応じて効果的に編集・表現する能力を修得している。
（社会貢献に向けた自主的・自立的行動力）
　こどもに関わる諸課題に対して適切に対応し，こどもの立場を大切にして，社会に貢献するための方略を考え，自主的・自立的に行動に移す能力を修得している。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
　ディプロマ・ポリシーに掲げた到達目標の達成に向けて，学年進行による系統性を考慮してカリキュラムを編成する。また，子どもの権利条約を踏まえて，こども学を【生きる】【守られる】【育つ】【参加する】の 4 つの領域から構成されるものとして捉え，各領域に関連する専門教育科目を配置する。
　本学科は小学校・幼稚園教員免許課程並びに保育士養成課程を有し，こどもを取り巻く様々な社会問題への深い関心と確かな理解に基づいて，未来を担うこどもが大切にされる社会をつくるために必要となる資質・能力を持った専門職を育てるカリキュラムも編成する。

【体系性】
・初年次には同志社女子大学の教育理念に基づき，「キリスト教･同志社関係科目区分」「外国語科目区分」「共通学芸科目区分」「スポーツ･健康科目区分」「データサイエンス・AI科目区分」を配置し，豊かな教養と感性を養う。
・専門教育科目を「導入科目」「入門・概論科目」「応用・各論科目」「ゼミナール科目」に区分し，こども学の基礎からこども学の専門的な学び，そしてこども学の発信へと系統的に科目を配置する。これらの学修を通して，基礎的知識・技能から実践的知識・技能の修得へと学びを深める。

【教育内容】
　こども学を，4 つの領域【生きる】【守られる】【育つ】【参加する】で構成されるものとし，各領域に 2 つのユニットを設ける。具体的には，【生きる】には《こどもと発達》《こどもと福祉》を，【守られる】には《こどもとケア》《こどもと多様性》を，【育つ】には《こどもと教育》《こどもと社会》を，【参加する】には《こどもと遊び》《こどもと表現》を設け，計 8 つのユニットに専門教育科目を配置する。
　それぞれの領域には次に掲げる教育内容を設定する。
　【生きる】では，こどもの発達，健康，福祉に関する知識を理解し，こどもを取り巻く社会のウェルビーイングを高めるために必要な実践力を身に付ける。
　【守られる】では，こどもを取り巻く環境や課題についてグローバルな視点で理解を深め，国内外の多様なこどもに応じた支援に関する知識・技能を身に付ける。
　【育つ】では，こどもの保育･教育に関する歴史的変遷やこどもを取り巻く社会状況を理解し，こどもの教育と社会に関する専門的な知識･技能を身に付ける。

【参加する】では，こどもと遊び，表現，身体性に関する知識について学び，それらを実践する技能を身に付ける。
・初年次には，「キリスト教・同志社関係科目」「共通学芸科目」「スポーツ・健康科目」「データサイエンス・AI科目」などを配置し，幅広い豊かな教養と情報リテラシーを修得し，キリスト教主義に根ざした人格を養う。
・導入科目では，こども学の基礎として，こども学の領域と総合性を理解し，大学での学修方法と研究アプローチなどの基礎的知識を修得するため，「基礎演習」と「現代こども学概論」を配置する。
・入門・概論科目では，現代社会に生きるこどもについての豊かな知識を身に付け，国内外の多様性や歴史的変化に対する関心を育むために，初年次に「こどもの発達心理学」「教育とこどもの社会史」「遊びの社会学」，2年次に「世界のこども政策」「こども産業論」などを配置する。
・応用・各論科目では，こども学に関する高度な専門的知識・技能を学修する。
【生きる】には「こども家庭福祉」「こどもと人間関係」など，【守られる】には「多文化共生とこども」「特別支援教育」「世界の貧困問題とこども支援」など，【育つ】には「教職論」「保育者論」「教育技術と方法（ICTの活用を含む）」「こどもデータサイエンス」など，【参加する】には「保育内容総論」「こどもの遊び実践論」「こどもとアート」などを配置する。これらの科目を通して，批判的思考，問題発見・解決能力，コミュニケーション能力・マネジメント能力，情報リテラシー，創造的に想像する能力を身に付ける。
・実践的な学びとして，初年次に「フィールドワーク入門」，2年次に「海外こども事情A」「海外こども事情B」「コミュニケーションデザイン」，3年次に「インターンシップⅡ」を配置し，体験を通して様々なキャリアについて学び，社会貢献に向けた自主的・自立的行動力を身に付ける。また，保育の内容・方法，保育の指導法，小学校全科に関わる各教科の内容と指導法などの科目を配置し，専門的な実践力を高める。
・ゼミナール科目では，初年次に「こども学演習」を位置づけ，こども学をさらに深く探究的に学び，キャリアの実現に向けた総合力を身に付ける。「応用演習Ⅰ」「応用演習Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」では，大学で学んだ理論や知識，スキル，体験などと実社会とを関連付け，自らの研究プロジェクトを立ち上げ，卒業研究の成果を発信するためにプレゼンテーション能力を身に付ける。
・免許資格については，保育士資格，幼稚園教諭一種免許，小学校教諭一種免許，中学校・高等学校教諭一種免許（英語）の取得に関わる科目を配置し，こどもの支援に関する専門的な知識・技能を修得するとともに，専門的職業人として生涯にわたって自律的に学び続ける態度を身に付ける。

【教育方法】
・学修内容に応じて，講義，演習，あるいは実験・実習などの授業形態を採用する。
・双方向型の授業，および，主体的な学びを保証するため少人数クラスを組織し，適宜グループワークを取り入れる。またワークショップやフィールドワーク，プロジェクト活動など体験や対話を重視した学びを行う。学生同士や教員とのディスカッションを通して，分析力，思考力，創造力，コミュニケーション力，プレゼンテーション力などを身に付ける。
・保育や各教科の指導法では，模擬保育や模擬授業などに取り組み，実践力を高めるとともに変化対応力や自己管理力を身に付ける。

【学修成果の測定方法】
・シラバスに到達目標，成績評価方法および成績評価基準を明示し，各授業に置いて，授業に取り組む態度やグループワークに対する姿勢などを含めて適宜ルーブリックを示しながら，小テスト，定期試験，レポートなどにより学位授与の方針に示す能力の修得状況を評価する。

現代社会学部 現代こども学科 （2024年度以前入学生に適用）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
現代社会学部現代こども学科は，全学共通の学位授与の方針に基づき，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に学士（現代社会）の学位を授与する。

【知識・理解】
（現代社会に生きるこどもの多面的な発達理解）
・こどもの発達，身体性，遊びや学び，障害についての知識を身に付けている。
・日本及び日本以外の多文化・多言語環境の中で生きるこどもの発達と環境との関係性について多面的に理解している。
（「ケア」に基づく支援方法の理解）
・人と人とが互いに心をくばる「ケア」関係の中で，こどもを支援するための知識を身に付け，支援の方法について理解している。
・現代的テーマや多文化・多言語環境について理解し，日本以外の文化・社会の中で生きるこどものあり方に応じた支援に関する知識を身に付けている。

（グローバルな視点に立ったシステム間の関係性の理解）
・グローバルな視点に立ち，こどもを取り巻く環境についての知識を身に付け，社会システム間の関係性，問題解決のためのシステム構築について理解している。
（国際比較を通した問題解決のための知識）
・宗教，文化，経済等の対立が発生し，同時多発的にこどもの問題が併発する原因やその解決への道筋，解決に向けた具体的な方略について理解している。
（幅広い分野の知識）
・専門分野の理解を支える幅広い分野の教養を身に付けている。
・英語運用能力を有するとともに，ドイツ語，フランス語，中国語，イタリア語，スペイン語，ハングルのいずれかに関する基礎知識を持っている。

【関心・意欲・態度】
（関心）
・こどもを取り巻く国内外の環境や多文化・多言語環境に生きるこどもの問題など，国内外の多様性に関心を持っている。
・こどもの保育・教育に関する歴史的変遷，社会状況の中でのこどもの位置づけやその変化に関心を持ち，現在の状況に関係づけて具体的に考えることに対して関心を持っている。
（意欲）
・こどもに実際に関わろうとする意欲を持ち，こどもを取り巻く国内外の環境や社会問題を自らの学びの課題として捉え，その解決に向かう手立てを深く思考し，主体的に学修する意欲を持っている。
・こどもに関する理論的な知識とスキルを自ら学ぼうとする姿勢を持ち，それらを運用して具体的な活動を企画・実践しようとする意欲を持っている。
（態度）
・こどもに関わる専門性を身に付けた者，又は専門職業人として自らの専門性を高めることに努め，生涯にわたって自律的に学び続ける態度を身に付けている。
・こどもの立場を尊重し，こどもの状況を深く感受し，豊かな感性を持ってこどもを取り巻く多様な人々に対して共感的かつ理性的に自ら関わる態度を身に付けている。
・こどもをはじめ，地域や職場の多様な世代の人々と協働しようとする態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
（批判的思考と問題発見・解決能力）
・現代社会に生きるこどもの問題を発見し，それに関わる情報を収集し，批判的に分析して，理論と関連づけながら，その解決策を実態に即してマネジメントする能力を修得している。
・自分のとった行動や思考過程を客観的にふり返り，体験を意味づけて抽象化しながら，さらに自分の体験や仮説をよりよいものにすることができる。
（コミュニケーション能力・マネジメント能力）
・個人差を尊重し，公正に自他の評価をしながら，他者の力を引き出すコミュニケーション能力を修得している。
・直面している問題状況を客観的に評価し，集団内の成員の得意な面を活かしながら，チームをマネジメントして協働作業に取り組む能力を修得している。
（情報リテラシー）
・多様な情報を自ら探し，適正な判断に基づいて取捨選択し，文脈や目的に応じて活用する能力を修得している。
（プレゼンテーション能力・発信力）
・自分が考えたことを，様々な分野で，文脈や目的に照らして編集するスキルを身に付け，他者に効果的に提示，表現する能力を修得している。
（創造的に想像する能力）
・既成概念にとらわれず，未知の世界や領域に感性を働かせ，失敗を恐れず挑戦し，新たなものや斬新な見方・考え方を創造的に想像する能力を修得している。
・変化を楽しみ，味わい，共感的に他者と関わって試行錯誤しながら，イメージを表現し，分かち合い，さらに表現し直すという螺旋的な学びのサイクルを構築する能力を修得している。
（社会貢献に向けた自主的・自立的行動力）

・こどもに関わる諸課題に対して適切に対応し，こどもの立場を大切にして，社会に貢献するための方略を考え，自主的・自立的行動に移す能力を修得している。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

現代社会学部現代こども学科のカリキュラムでは，ディプロマ・ポリシーに掲げた卒業時の到達目標の達成に向けて，主に次のようなカリキュラムを編成する。１年次には，こども学の基礎としてこどもに関する豊かな知識を構築・理解し，２年次には，深いこども理解に根差したこどもケアをデザインする経験を位置づける。３年次には，それまでの学びと実社会とを関係させ，自らの研究プロジェクトを立ち上げ，その学びをもとに４年次には，卒業研究などを通してこども学研究の成果を発信することによって，こども学を基軸とした，社会に貢献できる実践力を身に付けるカリキュラムを編成する。

また，本学科は小学校・幼稚園教員免許課程並びに保育士養成課程を有し，こどもを取り巻く様々な社会問題への深い関心と確かな理解に基づいて，未来を担うこどもが大切にされる社会をつくるために必要となる資質・能力をもった，こどもをケアする専門職を育てるカリキュラムも編成する。

【体系性】

・本学科の専門教育科目は，「導入科目」「入門・概論科目」「応用・各論科目」「ゼミナール科目」に区分して配置する。
・導入科目は，こども学の基礎として，入門･概論科目はこども理解として位置付ける。また，応用･各論科目は，「学びと育ちの内容」，「学びと育ちのアート」，「こども学の実践」という３つの領域を通して，こどもケアのデザインができるように組み立てる。ゼミナール科目は，こども学の発信として配置する。
・全学共通科目に関しては，全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目を配置する。さらに，他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供する。
・小学校・幼稚園教員免許課程並びに保育士養成課程に関しては，「学びと育ちの内容」，「学びと育ちのアート」において学んだ理論や方法を，教育実習等の現場で具体化する「こども学の実践」を図り，学年の進行に伴い，高度な実践力が身に付くように配置する。

【教育内容】

・共通学芸科目には，幅広い分野の教養を身に付け，情報収集・分析，表現するための基礎的知識や方法について理解するとともに，こどもに対する基礎的知識を修得するための科目を配置する。
・導入科目としてのこども学の基礎では，情報収集・分析，表現のための知識を身に付け，理解するとともに，コミュニケーション能力，情報リテラシーとプレゼンテーション能力･発信力を高め，主体的学修への意欲と協働しようとする態度を修得するために，初年次に「基礎演習」と「現代こども学概論」を配置する。
・入門・概論科目としてのこども理解では，現代社会に生きるこどもについての豊かな知識，ケアに基づく支援方法についての知識を身に付け，理解するとともに，国内外の多様性や歴史的な変化に対する関心をもち，批判的思考と問題発見・解決の能力を修得するために，初年次に「遊びの社会学」，「教育とこどもの社会史」，「こどもの発達心理学」，２年次には「こども産業論」，「世界のこども政策」，「こども家庭福祉」，「ジェンダー論」，「ユニセフとこども支援」などの科目を配置する。
・応用・各論科目としてのこどもケアのデザインにおける「学びと育ちの内容」に関しては，グローバルな視点に立って問題を解決するための知識に対する理解を深め，国内外の多様性と歴史的な変化に対する関心を高めるとともに，批判的思考と問題発見・解決の能力を身に付けるために，初年次に「幼児教育内容総論」，「こどもスポーツ論」，２年次に「世界の貧困問題とこども支援」，「障がい児保育」，３年次に「家族社会論」，「児童文学論」などの科目を配置する。
・「学びと育ちのアート」では，ケアに基づく支援方法に関する理解を深め，共感的姿勢と深く思考しようとする意欲をもって，専門性を向上させるために学び続ける態度を身に付けるとともに，コミュニケーション能力，情報リテラシーとプレゼンテーション能力を修得するために，初年次に「遊びと論理的思考」，「異文化体験論」，２年次に「学習環境デザイン」，「教育評価論」，「子育て支援」，３年次には「特別支援教育」，「こどもとアート」などの科目を配置する。
・「こども学の実践」では，既習の理論を実践に結びつけ，グローバルな視点に立った問題解決に必要となる知識への理解を深め，共感的姿勢と深く思考しようとする意欲をもって，専門性を高めようと学び続ける態度を修得するとともに，創造的に想像する能力や社会貢献に向けて自主的･自立的行動に移す能力を身に付けていくために，初年次に「フィールドワーク入門」，２年次に「海外こども事情A，B」，３年次に「コミュニケーションデザイン」，「インターンシップⅡ」（小学校や保育所，企業等において様々な社会的課題に対応する力を高める学び）を配置する。
・ゼミナール科目としてのこども学の発信では，情報リテラシーとプレゼンテーション能力・発信力を身に付け，こども学を基軸とした，創造的に想像する能力及び社会貢献に向けて自主的・自立的行動に移す能力を修得するために，初年次に「こども学演習」を位置づけ，４年間で学んだ理論や知識，スキル，体験などと実社会とを関連づけ，自らの研究プロジェクトを立ち上げ，こども学研究の成果を発信

するために，「応用演習Ⅰ，Ⅱ」，「卒業研究Ⅰ，Ⅱ」を配置する。
・免許・資格については，小学校教員免許課程，幼稚園教員免許課程，並びに保育士養成課程を設置する。
・小学校・幼稚園教員免許課程並びに保育士養成課程では，こどもの支援に関する専門的な知識とスキルを修得し，既成概念にとらわれず感性を働かせ，新たなものの見方・考え方を創造的に想像する能力の獲得を通して，専門的職業人として生涯にわたって自律的に学び続ける態度を身に付けるために，各課程に科目を配置する。
・教職課程では，学習指導要領及び幼稚園教育要領を踏まえ，学校現場で新たな教育課題に対応できるように，「学びと育ちの内容」として，教科に関する10の科目（国語，算数，理科，生活，社会，家庭，体育，音楽，図画工作，外国語（英語））と保育内容演習５科目（環境，ことば，健康，表現，人間関係）を配置する。また，「学びと育ちのアート」には，教育の基礎的理解に関する科目等，並びに「総合的な学習の時間の指導法」や各教科指導法を位置づける。さらに，「こども学の実践」として「初等教育実習A，B，C」を配置する。これらを通して，教科等の専門的内容と指導法を一体的に学び，確かな内容理解を基盤とした専門性と実践力の向上を図る。
・一方，保育士養成課程では，保育所保育指針を踏まえ，こどもの保育をめぐる諸課題に対応できるより質の高い実践力を身に付けるために，１年次に「保育者論」，「保育内容の理解と方法Ⅰ，Ⅱ」のほか，２年次に「障がい児保育」，「子育て支援」，「こどもの健康と安全」等の科目を配置し，２・３年次には，保育所並びに児童福祉施設等の社会福祉施設における「保育実習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」を配置する。これらを通して，保育士養成科目をはじめとする大学での学びを素地とした保育実習における学びを深め，専門性を向上させる。
・小学校教諭一種免許状の取得を条件として，表象文化学部英語英文学科の所定の科目を履修することにより，一定の人数に限り中学校教諭一種免許状（英語）および高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を可能とする。

【教育方法】
・こども学の基礎の科目では複数教員が多様な専門領域を生かしてきめ細やかな指導を行う。高校までの学びに対するイメージを更新する経験を重視し，４年間にわたって新たな学びを構築するための素地を養う。
・初年次教育の演習科目では，少人数クラスで実施することにより，一人ひとりが学びの主体者となって自ら考え，他者と協働し，責任を持って企画を実現できる環境をつくる。
・こども理解，「学びと育ちの内容」，「学びと育ちのアート」の科目では，グループワークやロールプレイを，教職課程や保育士養成課程関係科目ではこどもをめぐる多様な問題を具体的に想定した模擬授業・模擬保育等を，それぞれ積極的に活用し，知識の定着や技術の修得はもとより学習内容に対して自分なりに意味付ける機会を設ける。授業時間のみならず，自律的に学び続ける態度を身に付けるために，学びを実践化する過程を重視して指導する。
・「こども学の実践」の科目では，地域や国内・海外の教育・保育の現場でこどもや多様な人々と関わり，自ら問題を見つけ，必要な情報を収集し，考えをまとめ，発信するなど，大学での学びを具体的な文脈に生かして問題解決の方法を学ぶアクティブ・ラーニングを積極的に実施する。小学校・幼稚園教員免許課程や保育士養成課程では特に様々な現場における質の高い学びの実現に向けて，きめ細やかな事前・事後指導をより一層充実させ，大学での学びを実践化する中で見えてきた自身の課題をより丁寧に省察し，課題意識を明確にさせることにより，専門性向上への意欲を高める。
・こども学の発信である「応用演習Ⅰ，Ⅱ」「卒業研究Ⅰ，Ⅱ」では，各自の問題意識に基づくテーマをもとに理論と実践を結びつけた上で問題を設定し，多様な関心を持つ仲間や教員との議論･検討を通して，自身のこども学の発信となる卒業論文の作成を行う。そこでは，共に学ぶ集団の中で互いの力を引き出しあう質の高い協働学習を重視する。

【学修成果の測定方法】
・講義科目に関しては，授業に取り組む態度，小テスト，定期試験やレポート提出などの結果を踏まえ，総合的に評価する。アクティブ・ラーニングについてはグループワークに対する協働的な姿勢や内容的な貢献度，発表内容や制作物の充実度も加味する。
・演習科目に関しては，授業に取り組む態度やレポート提出，グループワークに対する協働的な姿勢や内容的な貢献度，発表内容や制作物の充実度について評価し，科目によっては学生による相互評価を参考にする。
・幼稚園・小学校の教職課程においては，文部科学省によって定められた学内での履修科目の修得と教育実習及び事前・事後指導によって，また保育士養成課程に関しては，厚生労働省によって定められた学内での履修科目の修得と保育実習及び事前・事後指導によって評価する。加えて，学びの履歴を蓄積したポートフォリオを通して省察された内容と，教職・保育職に関する専門的知識の学びをもとに評価する。
・「インターンシップⅡ」等の学外施設での学びについては，実習校園や企業等による評価を参照しつつ，本学担当教員による評価と事前･事後指導での学修成果を含めて評価する。
・卒業研究については，ゼミでの学びの過程を評価するとともに，卒業研究発表会（ポスター形式，論文，パフォーマンスなど）を行い，問題意識，発想，表現，論理性など複数の観点から総合的に評価する。

同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力

「DWCLA10」について

■ DWCLA10とは

本学が教育理念の１つとしている**リベラル・アーツ教育では**，幅広い学習を通して広い視野を拓く**教養教育と**深い知識や技能を体系的に身につける**専門教育に加え**，どの分野の学問を専攻する場合にも，また社会のどの分野に進む場合にも必要とされる，**学士としての基礎的・汎用的能力の獲得が重視されます。**

本学ではこれまでもリベラル・アーツ教育を実践しこのような基礎的・汎用的能力の涵養に力を注いできましたが，**学生の皆さんにこのことをよりよく理解してもらうために，基礎的･汎用的能力を，わかりやすい言葉で具体的に表現する**ことになりました。これが**「同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力」**（略して，本学の英語名称であるDoshisha Women's College of Liberal Arts にちなんで「DWCLA10」）です。

DWCLA10の個々の力は次ページのとおりで，それぞれの力についての説明は，定義ではなく例示となっています。**これらの力は学生の皆さんにとって卒業後の長い人生（キャリア）においてどの分野に進む場合にも共通して必要となるものであり，自立した社会人となるための基礎力となるものです。就職時にも重視される力でもあり，しっかりと身につけてもらいたい**と考えています。

■ DWCLA10のシラバス上での表示について

本学はこのような基礎的・汎用的能力の涵養にも力を注いでいる大学であることを学生の皆さんに知ってもらい，このような力の獲得にさらに自覚的に取り組んでもらいたいと考えています。しかし，これらの基礎的・汎用的能力には，それ自体を教えることやそれ自体を学ぶことが難しいものもあります。その多くは，学問体系を修得していく過程や，課外活動等に真剣に取り組む過程で結果として獲得できるものです。

そこで本学では，個々の授業科目の**シラバスの最後に表示される『獲得が期待される基礎的･汎用的能力DWCLA10』の欄に，その科目の履修を通して結果として身につけることが期待されるDWCLA10の力のいくつかを示すことになりました。**（この10の力以外の基礎的･汎用的能力の獲得が特に期待される授業では，その他の力が記載されている場合もあります。）これによって，**学生の皆さんに，知識や技能の修得のみではなくこのような基礎的・汎用的能力の獲得も重要であること，本学の教育ではそのことが重視されていることを理解してもらい，よりいっそう自覚的に授業に臨む契機としてもらいたいと考えています。これらの力は，各科目のテーマや課題に真剣に取り組み，壁にぶつかったときに考え工夫し行動しそれを１つ１つ乗り越えることによって身につくものだからです。**ただし，１つの科目でDWCLA10の内のいくつかの力が目に見えて身につくというものではありません。これらの力は卒業までに履修するすべての科目の積み重ねによって，あるいは課外活動等をも通して，少しずつ獲得していくことができるものであることを理解してください。授業期間終了後に「シラバスに記載のDWCLA10の能力が身につくような指導はしてもらえなかった」と考えるのは早計であり，そのように考える前に自分自身はその授業にどのように臨んだかを振り返ってもらいたいと考えています。

「この科目の勉強をしていてそれが何になるんだろう」と迷いが生じ興味を失っていくことがときにはあるかも知れません。そのようなときには，「獲得した知識は卒業後の人生に直接は役立たないものもあるかもわからないが，その科目の**真剣な学習過程（読書，調査，思考，議論，体験，発表，レポート作成など）を通して得られる基礎的･汎用的能力は，生きていく上での確実な力となる**」ことを理解して積極的な姿勢で授業に取り組んでほしいと考えています。

学生の皆さんが，このようなDWCLA10の取組みの趣旨をよく理解し，自らの将来を切り開く力をしっかりと身につけられることを期待します。

■ アクティブ・ラーニング（能動的学習）とDWCLA10

いかにしてDWCLA10の力を身につけるか。答えの１つはアクティブ・ラーニングにあります。アクティブ・ラーニングとは，知識・技能を無批判に獲得するのではなく，①深く考える，②考えをまとめる，③他者に伝える，④他者と議論しあるいは相互に評価し合う，⑤自らの考えを修正し鍛え直す，などの過程を通して知識・技能を真に自分のものとする能動的な学習のことです。課題に取り組む，調査する，体験する，制作するなどもアクティブ・ラーニングです。

これらのアクティブ・ラーニングは，大学での基本的な学習の方法であり，**DWCLA10の獲得に必要不可欠な学習方法です。**主として演習科目，実験・実習科目，ゼミ科目，インターンシップ科目などにおいて多く実践される学習方法ですが，講義科目でも様々な工夫により実践されています。いずれの場合にもアクティブ・ラーニングには，事前の準備学習が大前提になります。そのため，**全科目のシラバスに『準備学習等の内容』という項目が加わっています。**

学生の皆さんはその趣旨を理解し，授業外で十分な準備学習を行って授業に臨み，授業で実施されるアクティブ・ラーニングに積極的に参加するよう心がけてください。そのことにより，学生の皆さんが，深い専門知識・技能，広い教養に加え，基礎的・汎用的能力であるDWCLA10の力をしっかりと獲得されることを期待します。

DWCLA10：同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力

1．分析力
- ・情報を収集し分析する力
- ・現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- ・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する情況把握力

2．思考力
- ・自ら考える力
- ・論理的に思考する能力

3．創造力
- ・既存の概念に束縛されない自由な発想力
- ・既存のものを組み合わせて新たな価値を生み出す力

4．プレゼンテーション力
- ・自分の意見を分かりやすく伝える発信力
- ・説得力

5．コミュニケーション力
- ・世代，国籍，専門を越えた意思疎通・共感力
- ・外国語能力
- ・文字，言葉を越えた意思疎通
- ・相手を尊重した聴く力
- ・意見の違いや立場の違いを理解する力

6．リーダーシップ
- ・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力
- ・目的を設定し確実に実行する力
- ・他人に働きかけ巻き込む力
- ・チームで問題解決できるコラボレーション力

7．思いやる力
- ・違いを尊重する能力（個人レベル，社会・文化レベル）
- ・相手の気持ちになって行動する力

8．変化対応力
- ・複眼的な広い視野
- ・社会的変化，自己を取り巻く環境変化への対応力
- ・過去にとらわれない自由な発想力

9．自己管理力
- ・社会のルールや人との約束を守る規律性
- ・ストレスコントロール力：ストレス発生源に対応する力
- ・倫理観

10．自己実現力
- ・自己の適性を把握し伸ばす力
- ・社会の未来像と自己の将来像を見通す力
- ・自己の能力を発揮しつつ社会に貢献しようとする意欲
- ・生涯学習力

カリキュラム

現代社会学部　社会システム学科

（2025年度以降入学生適用）

現代社会学部　社会システム学科　教育理念・目標

＜教育理念＞

社会システム学科の教育は，21世紀の社会における課題を自ら発見し，他者と協力した問題解決により，社会に貢献することができる女性を育成する。いま女性の活躍の場は，国内外を問わず職場・家庭・地域など多様な社会生活の場面にわたっている。それらの場面において直面するのは，ひとつの学問領域だけでは解決できない複雑な問題である。社会システム学科では，幅広い分野にわたるさまざまな課題を多面的かつ総合的に理解し，新しい知識や技術を駆使しながら，解決策の提案・実証・評価までの一連の過程を経験する学びの機会を提供する。

そのために学科では，グループワーク，またワークショップやフィールドワーク，プロジェクト活動などの社会と関わる実践的な教育により，問題解決の実際を体験する機会を提供する。それらの実践的な学びを展開する上で必要となる，社会と向き合う汎用的な力を初年次に重点的に向上させる。更に，２年次以降の６つのコースにわたる多様な開設科目を，学生個々人の将来目標にあわせてコース横断的に自由に履修することで，自己成長できる仕組みにもなっている。こうした基礎の上に３年次以降の演習科目では，主体的に選択した専門的領域を更に深める。

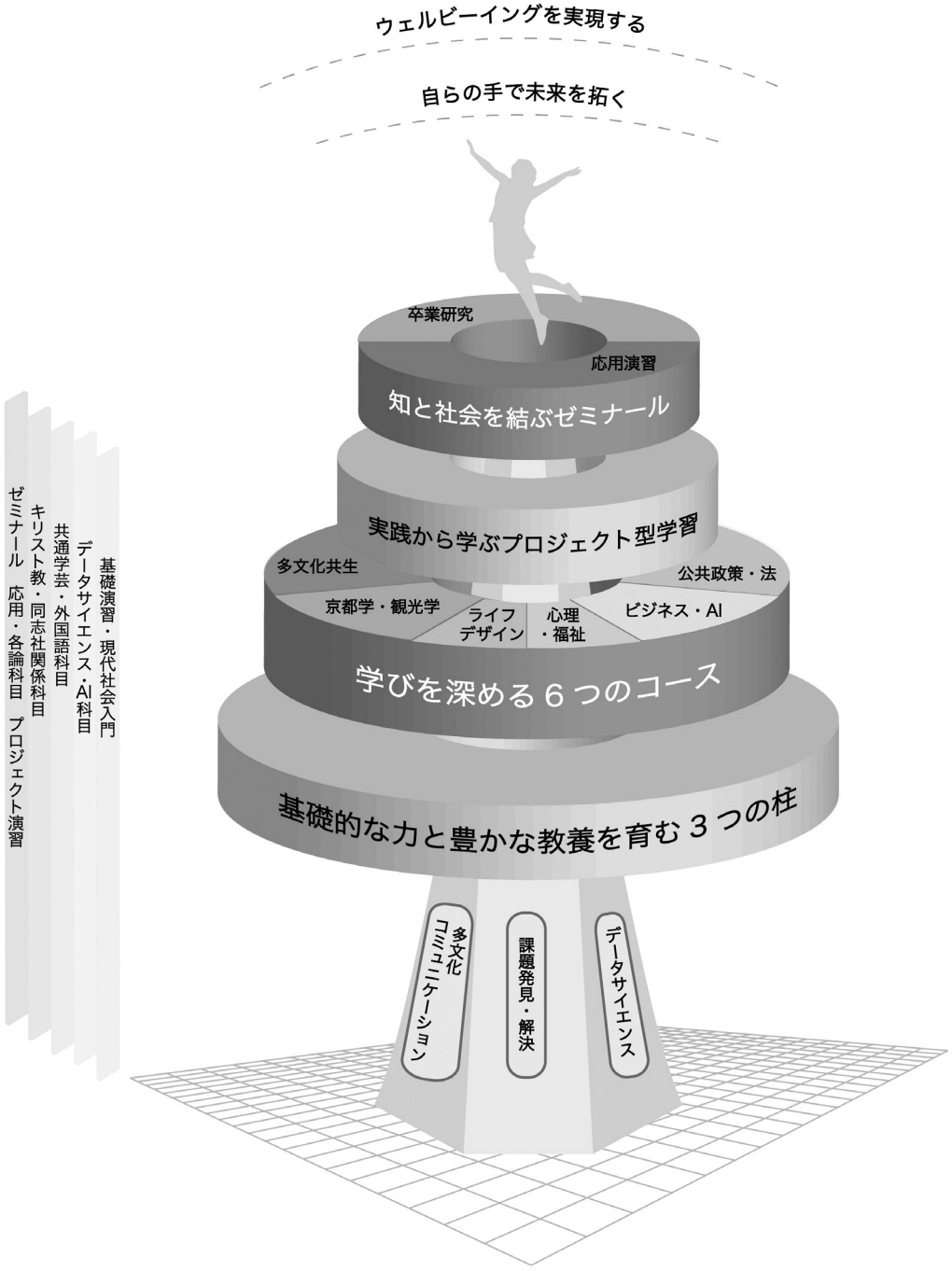
また，ネイティブスピーカーによる密度の高い英語特別プログラム（CASE）により，実践的な英語運用能力の向上をはかることができるのも，社会システム学科の教育の特徴のひとつである。

これらの社会とつながる実践的な学習をとおして，社会課題の解決につながる知見を深め，主体的に社会と関わり貢献するための力を修得する。

＜教育目標＞

社会システム学科の教育目標は，どのような生活場面やライフステージにあっても必要となる，社会と向き合う３つの基礎力（課題発見・解決，多文化コミュニケーション，データサイエンス）の向上，及びコースごとの専門的履修による創意あふれる人材の育成である。この教育目標が達成できるように，初年次に全員が「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」・「現代社会入門Ⅰ・Ⅱ」・「社会リサーチ入門」を通じて，大学での学びの基盤となる汎用的スキルを高める。概論科目では，社会科学の各部門に特有な対象と方法に関する知見を豊かにして行く。２年次からは，将来の専門領域に関する基本的知識を身に付けるために，「専門基礎演習」の受講を勧めている。あわせて，将来の進路を勘案して応用・各論科目の中から，主体的に選択した科目での勉学を進めていく。更にプロジェクト系科目において地域社会や関係諸団体等と連携・協働し，社会的実践を通じて課題に取り組む。３年次からは，「応用演習Ⅰ・Ⅱ」を足場にして，自らが選択した専門領域に関するインセンティブな学習を協調的に展開し，４年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」ではそれまでの勉学の集大成として，卒業論文その他の作成に積極的に務め，その成果をゼミや卒業研究発表会で公開する。

現代社会学部 社会システム学科　カリキュラム概念図



現代社会学部　社会システム学科　科目配置表<2025年度以降入学生>

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎・入門科目		●	基礎演習Ⅰ	1	●	基礎演習Ⅱ	1																			10
		●	現代社会入門Ⅰ	1	●	現代社会入門Ⅱ	1																			
					●	社会リサーチ入門	2	●	社会リサーチ応用	2																
					●	シティズンシップ入門	2																			
概論科目	A	◎	社会学概論	2	◎	文化人類学概論	2																			8
	B	◎	京都観光学概論	2																						
		◎	京都学概論	2	◎	博物館概論	2																			
	C	◎	教育学概論	2	◎	社会福祉学概論	2																			
		◎	心理学概論	2																						
	D	◎	経済学概論	2	◎	経営学概論	2																			
	E				◎	法学概論	2																			
					◎	政治学概論	2																			
応用・各論	多文化共生コース								オセアニア地域文化論	2		アメリカ地域文化論	2		地誌学	2		国際教育論	2							44
									ラテンアメリカ地域文化論	2					グローバル社会論	2										
									アジア地域文化論	2		アフリカ地域文化論	2					異文化理解	2							
									カルチュラルスタディーズ	2		エスニシティ論	2					移民難民論	2							
									多文化共生とこども	2		宗教と世界史	2					国際交流史	2							
									ヨーロッパ地域文化論	2																
									世界の貧困問題とこども支援	2					Academic Studies in Eng. Ⅲ（A）	2		Academic Studies in Eng. Ⅳ（A）	2							
									東洋の歴史	2		世界のこども政策	2		プロジェクト演習Ⅱ（A）	2		プロジェクト演習Ⅱ（A）	通年							
									博物館資料論	2																
									博物館展示論	2																
									World Affairs Ⅰ	2		World Affairs Ⅱ	2													
									Academic Studies in Eng. Ⅰ（A）	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ（A）	2													
									プロジェクト演習Ⅰ（A）	2		プロジェクト演習Ⅰ（A）	通年													
	京都学・観光学コース								観光地理論	2					京都の社会史	2		考古学	2							
									観光経営論	2		京都の美術史	2		日本の歴史	2		防災とまちづくりの地理学	2							
									ホスピタリティマネジメント論	2		京都観光論	2		地理学	2										
									地域調査法	2		京都文化論	2		博物館教育論	2		国際観光論	2							
									京都伝統芸能論	2		京都・大阪・奈良の歴史地理	2		博物館情報・メディア論	2		京都・大阪・奈良フィールドワーク	2							
									京都の文化財論	2		観光社会論	2		観光イノベーション論	2		博物館資料保存論	2							
												観光マーケティング論	2					博物館経営論	2							
												観光地域事業論	2		Academic Studies in Eng. Ⅲ（B）	2		Academic Studies in Eng. Ⅳ（B）	2							
									Tourism, Culture, and Technology Ⅰ	2		Tourism, Culture, and Technology Ⅱ	2		プロジェクト演習Ⅱ（B）	2		プロジェクト演習Ⅱ（B）	通年							
									Academic Studies in Eng. Ⅰ（B）	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ（B）	2													
									プロジェクト演習Ⅰ（B）	2		プロジェクト演習Ⅰ（B）	通年													
	心理・福祉コース								心理臨床学	2		対人関係心理学	2		障害学	2		家族臨床心理学	2							
												高齢者心理学	2		カウンセリング論	2		音楽療法	2							
									生涯発達心理学	2		現代青年の心理と行動	2		精神保健論	2										
									こども家庭福祉	2		高齢者の福祉	2		社会福祉支援論	2		刑事司法と福祉	2							
												メンタルヘルス・マネジメント	2		Academic Studies in Eng. Ⅲ（C）	2		Academic Studies in Eng. Ⅳ（C）	2							
									社会保障論	2		女性と社会保障	2		プロジェクト演習Ⅱ（C）	2		プロジェクト演習Ⅱ（C）	通年							
									Academic Studies in Eng. Ⅰ（C）	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ（C）	2													
									プロジェクト演習Ⅰ（C）	2		プロジェクト演習Ⅰ（C）	通年													
	ライフデザインコース								生命の倫理	2		現代社会と宗教	2					社会倫理学	2							
									教育社会学	2		宗教と人間	2		税と生活	2		現代教育学	2							
												生涯学習論	2		Academic Studies in Eng. Ⅲ（D）	2		Academic Studies in Eng. Ⅳ（D）	2							
									コミュニティマネジメント論	2		ジェンダー論	2		プロジェクト演習Ⅱ（D）	2		プロジェクト演習Ⅱ（D）	通年							
												女性史	2					ジェンダーの文化誌	2							
												レジャースポーツ論	2					家族社会論	2							
												ウエルネスライフ論	2					現代社会論	2							
									キャリア形成論	2		女性とリーダーシップ	2													
												ライフデザイニング	2													
									Academic Studies in Eng. Ⅰ（D）	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ（D）	2													
									プロジェクト演習Ⅰ（D）	2		プロジェクト演習Ⅰ（D）	通年													
	ビジネス・AIコース								金融論	2		国際金融論	2		財務諸表論	2		AI 実践演習	2							
									保険論	2		マーケティング論	2		女性起業家論	2										
									簿記論Ⅰ	2		簿記論Ⅱ	2		国際ビジネス論	2										
									消費者行動論	2		会計学	2		IT とベンチャービジネス	2										
									環境経済論	2		原価計算	2													
												マーケティング調査法	2													
												都市経済論	2		Academic Studies in Eng. Ⅲ（E）	2		Academic Studies in Eng. Ⅳ（E）	2							
									情報学	2		広告論	2		プロジェクト演習Ⅱ（E）	2		プロジェクト演習Ⅱ（E）	通年							
									社会情報論	2		情報ネットワーク基礎	2													
									人的資源論	2		証券キャピタルマーケット論	2													
												ディスクロージャー論	2													
												リスクマネジメント論	2													
									Academic Studies in Eng. Ⅰ（E）	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ（E）	2													
									プロジェクト演習Ⅰ（E）	2		プロジェクト演習Ⅰ（E）	通年													
												AI の社会実装	2													
									ファイナンシャルプランニング入門（FP 入門）	2		こども産業論	2													
	公共政策・法コース								民法Ⅰ	2		民法Ⅱ	2		公務員と法	2										
									地方行政論	2		商法	2		国連政策論	2		経済政策論	2							
									外交論	2		刑法各論	2		物権法の重要問題	2		債権法の重要問題	2							
									憲法	2		民事訴訟法	2		アジア外交史	2		社会政策	2							
									現代社会と犯罪	2		刑事訴訟法	2		Academic Studies in Eng. Ⅲ（F）	2		Academic Studies in Eng. Ⅳ（F）	2							
									刑法総論	2		家族法	2		プロジェクト演習Ⅱ（F）	2		プロジェクト演習Ⅱ（F）	通年							
									労働法	2		ジェンダー法	2													
									公共政策	2		公共哲学	2													
												国際社会と公共政策	2													
												財政学	2													
									Academic Studies in Eng. Ⅰ（F）	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ（F）	2													
									プロジェクト演習Ⅰ（F）	2		プロジェクト演習Ⅰ（F）	通年													
	コミュニケーション系科目		Communication Skills Ⅰ	1		Communication Skills Ⅱ	1	●	Academic Reading and Discussion Ⅰ	2	●	Academic Reading and Discussion Ⅱ	2													4
	情報リテラシー科目								情報リテラシー実習Ⅰ	2		[情報リテラシー実習Ⅰ]														4
									情報リテラシー実習Ⅱ	2		[情報リテラシー実習Ⅱ]														
									情報リテラシー実習Ⅲ	2		[情報リテラシー実習Ⅲ]														
									情報リテラシー実習Ⅳ	2		[情報リテラシー実習Ⅳ]														
									情報リテラシー実習Ⅴ	2		[情報リテラシー実習Ⅴ]														
	言語リテラシー科目		キャリアアップ英語Ⅰ	2		キャリアアップ英語Ⅱ	2		キャリアアップ英語Ⅲ	2		キャリアアップ英語Ⅳ	2		Communication Skills for Work Ⅰ	2		Communication Skills for Work Ⅱ	2							
						海外事情（アジアと女性）	2		Project-Based English Ⅰ	2		Project-Based English Ⅰ	通年		Project-Based English Ⅱ	2		Project-Based English Ⅱ	通年							
共通学芸科目			共通学芸選択科目			[共通学芸選択科目]																				10
			他学科科目			[他学科科目]																				
キリスト教・同志社関係科目		●	聖書A	2	●	聖書B	2																			6
		◎	キリスト教・同志社関係選択必修科目			[キリスト教・同志社関係選択必修科目]																				
外国語科目		●	Comprehensive English Ⅰ	1	●	Comprehensive English Ⅱ	1																			8
		●	Communication in English Ⅰ	1	●	Communication in English Ⅱ	1																			
		◎	フランス語，ドイツ語，中国語，イタリア語，スペイン語，ハングル																							
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																				2
データサイエンス・AI科目		◎	データサイエンス・AI 選択必修科目			[データサイエンス・AI 選択必修科目]																				2
ゼミナール科目									専門基礎演習	2				●	応用演習Ⅰ	2	●	応用演習Ⅱ	2	●	卒業研究Ⅰ	2	●	卒業研究Ⅱ	2	8
区分外		＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えた単位，他大学単位互換科目の単位等																								18
合計																										124
自由選択科目																					博物館実習	3		博物館実習	通年	

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はA，B，C，などは，選択必修グループを表す。（◎：A〜Eから3分野以上から8単位以上）
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［ ］内の科目は，再掲。

現代社会学部　社会システム学科　卒業必要単位（2025年度以降入学生適用）

科目区分			1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎・入門科目			必修　8単位	必修　2単位			10単位
概論科目		A	選択必修　8単位 A～Eの5つの科目群のうち，最低3つの科目群にわたって，8単位以上修得すること。				8単位
		B					
		C					
		D					
		E					
応用・各論科目	コース科目	多文化共生コース	選択するコース科目群（主専攻）から最低14単位以上修得すること。				44単位
		京都学・観光学コース					
		心理・福祉コース					
		ライフデザインコース					
		ビジネス・AIコース					
		公共政策・法コース					
	コミュニケーション系科目		必修　4単位				4単位
	リテラシー科目	情報リテラシー科目	2つの科目群から最低4単位以上修得すること。				4単位
		言語リテラシー科目					
共通学芸科目			※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位
キリスト教・同志社関係科目			必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
外国語科目			必修　4単位 選択必修　4単位				8単位
スポーツ・健康科目			選択必修　2単位				2単位
データサイエンス・AI科目			選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目					必修　4単位	必修　4単位	8単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計							106単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位を超えた単位，他大学単位互換科目の単位等）							18単位
卒業に必要な単位							124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い履修すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低18単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次の通り。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ	プロジェクト演習Ⅰ(A)～Ⅰ(F)
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA	プロジェクト演習Ⅱ(A)～Ⅱ(F)
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	国際教養プロジェクトA	インターンシップⅠB	Project-Based English Ⅰ
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外事情(アジアと女性)	インターンシップⅡ	Project-Based English Ⅱ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情A		
近代日本と同志社D		海外こども事情B		
		人間生活海外事情		

現代社会学部　社会システム学科　カリキュラム表（2025年度以降入学生適用）

基礎・入門科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
基礎演習Ⅰ	1	春1	1	必修	
基礎演習Ⅱ	1	秋1	1	必修	
現代社会入門Ⅰ	1	春1	1	必修	
現代社会入門Ⅱ	1	秋1	1	必修	
シティズンシップ入門	2	半2	1	必修	
社会リサーチ入門	2	秋2	1	必修	
社会リサーチ応用	2	春2	2	必修	

履修上の注意

基礎・入門科目はすべて必修である。
基礎演習Ⅰと現代社会入門Ⅰ，基礎演習Ⅱと現代社会入門Ⅱはそれぞれ隔週開講とする。

概論科目（最低 8 単位以上）

授業科目		単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修						
A	社会学概論	2	半2	1	選択必修8単位以上	
	文化人類学概論	2	半2	1		
B	京都観光学概論	2	半2	1		
	京都学概論	2	半2	1		
	博物館概論	2	半2	1		
C	教育学概論	2	半2	1		
	心理学概論	2	半2	1		
	社会福祉学概論	2	半2	1		
D	経済学概論	2	半2	1		
	経営学概論	2	半2	1		
E	法学概論	2	半2	1		
	政治学概論	2	半2	1		

履修上の注意

Ａ～Ｅの５つの群のうち，最低３つの科目群にわたって，８単位以上修得すること。
最低修得単位数を超えて修得した単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低44単位以上）

コース科目（選択するコース科目群（主専攻）から最低14単位を修得し，コース全体で44単位以上）
※コース選択は複数可（主専攻の他に，それぞれのコース科目群から14単位以上を修得することで副専攻の修了が可能）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
多文化共生コース					
オセアニア地域文化論	2	半2	2	選択	
アメリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
ヨーロッパ地域文化論	2	半2	2	選択	
ラテンアメリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
アフリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
アジア地域文化論	2	半2	2	選択	
エスニシティ論	2	半2	2	選択	
カルチュラルスタディーズ	2	半2	2	選択	
宗教と世界史	2	半2	2	選択	欠講
東洋の歴史	2	半2	2	選択	
多文化共生とこども	2	半2	2	選択	
世界のこども政策	2	半2	2	選択	
世界の貧困問題とこども支援	2	半2	2	選択	
博物館資料論	2	半2	2	選択	
博物館展示論	2	半2	2	選択	
World Affairs Ⅰ	2	半2	2	選択	
World Affairs Ⅱ	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅰ（A）	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅱ（A）	2	半2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅰ（A）	2	通2	2	選択	
国際教育論	2	半2	3	選択	欠講
グローバル社会論	2	半2	3	選択	
異文化理解	2	半2	3	選択	
移民難民論	2	半2	3	選択	
国際交流史	2	半2	3	選択	
地誌学	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅲ（A）	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅳ（A）	2	半2	3	選択	
プロジェクト演習Ⅱ（A）	2	通2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
京都学・観光学コース					
京都観光論	2	半2	2	選択	
京都の文化財論	2	半2	2	選択	
京都文化論	2	半2	2	選択	
京都の美術史	2	半2	2	選択	
京都伝統芸能論	2	半2	2	選択	
観光地理論	2	半2	2	選択	
京都・大阪・奈良の歴史地理	2	半2	2	選択	
観光経営論	2	半2	2	選択	
観光社会論	2	半2	2	選択	
観光マーケティング論	2	半2	2	選択	
ホスピタリティマネジメント論	2	半2	2	選択	
観光地域事業論	2	半2	2	選択	
地域調査法	2	半2	2	選択	欠講
Tourism, Culture, and Technology Ⅰ	2	半2	2	選択	
Tourism, Culture, and Technology Ⅱ	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅰ（B）	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅱ（B）	2	半2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅰ（B）	2	通2	2	選択	
京都の社会史	2	半2	3	選択	
日本の歴史	2	半2	3	選択	
考古学	2	半2	3	選択	
地理学	2	半2	3	選択	
防災とまちづくりの地理学	2	半2	3	選択	
観光イノベーション論	2	半2	3	選択	
国際観光論	2	半2	3	選択	
京都・大阪・奈良フィールドワーク	2	半2	3	選択	
博物館資料保存論	2	半2	3	選択	
博物館教育論	2	半2	3	選択	
博物館情報・メディア論	2	半2	3	選択	
博物館経営論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅲ（B）	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅳ（B）	2	半2	3	選択	
プロジェクト演習Ⅱ（B）	2	通2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
心理・福祉コース					
心理臨床学	2	半2	2	選択	
対人関係心理学	2	半2	2	選択	
生涯発達心理学	2	半2	2	選択	
現代青年の心理と行動	2	半2	2	選択	
高齢者心理学	2	半2	2	選択	
女性と社会保障	2	半2	2	選択	
こども家庭福祉	2	半2	2	選択	
社会保障論	2	半2	2	選択	
高齢者の福祉	2	半2	2	選択	
メンタルヘルス・マネジメント	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅰ（C）	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅱ（C）	2	半2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅰ（C）	2	通2	2	選択	
障害学	2	半2	3	選択	
カウンセリング論	2	半2	3	選択	
家族臨床心理学	2	半2	3	選択	
音楽療法	2	半2	3	選択	
社会福祉支援論	2	半2	3	選択	
精神保健論	2	半2	3	選択	
刑事司法と福祉	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅲ（C）	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅳ（C）	2	半2	3	選択	
プロジェクト演習Ⅱ（C）	2	通2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ライフデザインコース					
生命の倫理	2	半2	2	選択	
現代社会と宗教	2	半2	2	選択	
宗教と人間	2	半2	2	選択	
教育社会学	2	半2	2	選択	
生涯学習論	2	半2	2	選択	
ジェンダー論	2	半2	2	選択	
女性史	2	半2	2	選択	
キャリア形成論	2	半2	2	選択	
ライフデザイニング	2	半2	2	選択	
女性とリーダーシップ	2	半2	2	選択	
レジャースポーツ論	2	半2	2	選択	
ウェルネスライフ論	2	半2	2	選択	欠講
Academic Studies in English Ⅰ（D）	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅱ（D）	2	半2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅰ（D）	2	通2	2	選択	
コミュニティマネジメント論	2	半2	2	選択	
ジェンダーの文化誌	2	半2	3	選択	
社会倫理学	2	半2	3	選択	
現代教育学	2	半2	3	選択	
現代社会論	2	半2	3	選択	
家族社会論	2	半2	3	選択	
税と生活	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅲ（D）	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅳ（D）	2	半2	3	選択	
プロジェクト演習Ⅱ（D）	2	通2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ビジネス・AIコース					
金融論	2	半2	2	選択	
国際金融論	2	半2	2	選択	
保険論	2	半2	2	選択	
簿記論Ⅰ	2	半2	2	選択	
簿記論Ⅱ	2	半2	2	選択	
会計学	2	半2	2	選択	
マーケティング論	2	半2	2	選択	
消費者行動論	2	半2	2	選択	
原価計算	2	半2	2	選択	
環境経済論	2	半2	2	選択	
都市経済論	2	半2	2	選択	
マーケティング調査法	2	半2	2	選択	
広告論	2	半2	2	選択	
情報学	2	半2	2	選択	
情報ネットワーク基礎	2	半2	2	選択	
証券キャピタルマーケット論	2	半2	2	選択	
ディスクロージャー論	2	半2	2	選択	
社会情報論	2	半2	2	選択	
人的資源論	2	半2	2	選択	
ファイナンシャルプランニング入門（FP入門）	2	半2	2	選択	
リスクマネジメント論	2	半2	2	選択	
AIの社会実装	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅰ（E）	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅱ（E）	2	半2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅰ（E）	2	通2	2	選択	
こども産業論	2	半2	2	選択	
AI実践演習	2	半2	3	選択	
財務諸表論	2	半2	3	選択	
女性起業家論	2	半2	3	選択	
国際ビジネス論	2	半2	3	選択	
ITとベンチャービジネス	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅲ（E）	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅳ（E）	2	半2	3	選択	
プロジェクト演習Ⅱ（E）	2	通2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
公共政策・法コース					
地方行政論	2	半2	2	選択	
外交論	2	半2	2	選択	
憲法	2	半2	2	選択	欠講
民法Ⅰ	2	半2	2	選択	
民法Ⅱ	2	半2	2	選択	
現代社会と犯罪	2	半2	2	選択	
刑法総論	2	半2	2	選択	
刑法各論	2	半2	2	選択	
商法	2	半2	2	選択	欠講
民事訴訟法	2	半2	2	選択	
労働法	2	半2	2	選択	
刑事訴訟法	2	半2	2	選択	
家族法	2	半2	2	選択	
ジェンダー法	2	半2	2	選択	
公共政策	2	半2	2	選択	
公共哲学	2	半2	2	選択	欠講
国際社会と公共政策	2	半2	2	選択	
財政学	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅰ（F）	2	半2	2	選択	
Academic Studies in English Ⅱ（F）	2	半2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅰ（F）	2	通2	2	選択	
公務員と法	2	半2	3	選択	欠講
アジア外交史	2	半2	3	選択	
国連政策論	2	半2	3	選択	
物権法の重要問題	2	半2	3	選択	
債権法の重要問題	2	半2	3	選択	
社会政策	2	半2	3	選択	
経済政策論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅲ（F）	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅳ（F）	2	半2	3	選択	
プロジェクト演習Ⅱ（F）	2	通2	3	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
「プロジェクト演習Ⅰ（A～F）」「プロジェクト演習Ⅱ（A～F）」
選考に合格した学生のみ履修できる。

コミュニケーション系科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Academic Reading and Discussion Ⅰ	2	春2	2	必修	
Academic Reading and Discussion Ⅱ	2	秋2	2	必修	
選択					
Communication Skills Ⅰ	1	半2	1	選択	
Communication Skills Ⅱ	1	半2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される

リテラシー科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
情報リテラシー科目					
選択					
情報リテラシー実習Ⅰ	2	半2	2	選択	
情報リテラシー実習Ⅱ	2	半2	2	選択	
情報リテラシー実習Ⅲ	2	半2	2	選択	
情報リテラシー実習Ⅳ	2	半2	2	選択	
情報リテラシー実習Ⅴ	2	半2	2	選択	
言語リテラシー科目					
選択					
海外事情（アジアと女性）	2	秋2	1	選択	欠講
キャリアアップ英語Ⅰ	2	春2	1	選択	
キャリアアップ英語Ⅱ	2	秋2	1	選択	
Project-Based English Ⅰ	2	通2	2	選択	
キャリアアップ英語Ⅲ	2	春2	2	選択	
キャリアアップ英語Ⅳ	2	秋2	2	選択	
Project-Based English Ⅱ	2	通2	3	選択	
Communication Skills for Work Ⅰ	2	春2	3	選択	
Communication Skills for Work Ⅱ	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される

「海外事情（アジアと女性）」
　選考に合格した学生のみ履修できる。卒業年次生履修不可。

「Project-Based English Ⅰ」「Project-Based English Ⅱ」
　選考に合格した学生のみ履修できる。

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
人間と思想				
哲学Ａ	2	半2	1	
哲学Ｂ	2	半2	1	
西洋の思想Ａ	2	半2	1	欠講
西洋の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の思想Ａ	2	半2	1	欠講
日本の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学Ａ	2	半2	1	
心理学Ｂ	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論Ａ	2	半2	1	
国際関係論Ｂ	2	半2	1	
国際社会と経済Ａ	2	半2	1	
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会Ａ	2	半2	1	
人間と社会Ｂ	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
社会保障と福祉	2	半2	1	
介護概説	2	半2	1	
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性Ａ	2	半2	1	
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1	
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1	
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1	
アジア地域研究Ａ	2	半2	1	
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1	
日本古典芸能Ａ	2	半2	1	
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化Ａ	2	半2	1	
京都の文化Ｂ	2	半2	1	
京都の文化Ｃ	2	半2	1	
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2	
京都の歴史Ａ	2	半2	1	
京都の歴史Ｂ	2	半2	1	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
教育と人間				
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち，左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。
発達と学習の心理学	2	半2	2	
教育の制度と経営	2	半2	2	
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan StudiesＡ	2	秋2	1	
Japan StudiesＢ	2	秋2	1	
Japan StudiesＣ	2	秋2	1	
Japan StudiesＤ	2	秋2	1	
Japan StudiesＥ	2	秋2	1	欠講
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	
寄付講座	2	半2	1	
キャリア教育科目				
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップＩＡ	1	通1	2	
インターンシップＩＢ	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（本学Webサイト「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月(夏期)，10月(春期)に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan StudiesＡ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	選択必修	
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	2単位	
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	以上	
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFL Ⅰ	2			選択	
TOEFL Ⅱ	2			選択	
TOEFL Ⅲ	2			選択	
TOEIC Ⅰ	2			選択	
TOEIC Ⅱ	2			選択	
TOEIC Ⅲ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTS Ⅰ	2			選択	
IELTS Ⅱ	2			選択	
IELTS Ⅲ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語 4 単位を選択必修。「1つの言語 4 単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について
「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週 2 回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

3．語学特別プログラム

国際化の進んだ今日の社会状況の中で，極めて高度な語学運用能力を身につけるため，CASEプログラム（英語）を実施している。
受講するためには，特別な手続を必要とする。

CASE(Career and Academic Studies in English)プログラム(英語)

基本的には1年次から2年次の2年間のプログラムで，上級と中級のグレードがあり，Native Speaker教員による授業を，以下のとおり必修扱いで受講することになる。クラスが指定されている科目もあるので，開講科目表を参照のこと。更に1年延長して，3年次でも受講することができる。
参加希望の有無を入学式前後の英語適性検査時に調査する。希望者多数の場合は，英語プレイスメントテストの結果により選考する。2年次以降のクラス変更については，現代社会学部事務室まで問い合わせること。

＜新CASEプログラム＞2025年度以降入学生

CASEプログラム・プラクティショナー修了（2年間のCASEプログラム学習）の条件

（1年次）	上級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
	中級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
（2年次）	上級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		World Affairs Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Studies in English Ⅰ・Ⅱ（A～F）	(A)～(F)のいずれかのⅠ・Ⅱを1セットもしくはProject-Based English Ⅰから選択必修
		Project-Based English Ⅰ	
	中級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		World Affairs Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Studies in English Ⅰ・Ⅱ（A～F）	いずれかのⅠ・Ⅱを1セットで選択必修
		Tourism, Culture, and Technology Ⅰ・Ⅱ	

CASEプログラム・スカラー修了（＋1年間の追加CASEプログラム学習）の条件

（3年次）	Academic Studies in English Ⅲ・Ⅳ（A～F） 海外留学と帰国後報告レポート+プレゼン	いずれかを選択必修
	Project-Based English Ⅱ Communication Skills for Work Ⅰ・Ⅱ	いずれかを選択必修*

*2年次からCASEを希望する学生のみ

4．全般事項

a．1年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。

b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

d．「Study Abroad : English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修4単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する4単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，18単位＋4単位＝22単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

データサイエンス・AI科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
基礎					
選択必修					
データサイエンス・AI基礎	2	半2	1	選択必修2単位以上	
データサイエンス・ICT活用基礎	2	半2	1		
実践					
選択					
データサイエンスのためのAIプログラミング入門	2	半2	1	選択	
データサイエンスのための統計入門	2	半2	1	選択	
ことばのデータサイエンス	2	半2	1	選択	
実践から学ぶAI入門	2	半2	1	選択	

履修上の注意

1．最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
2．DWCLAデータサイエンス・AIプログラムについては，「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」のページで確認すること。

ゼミナール科目（最低8単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業研究Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業研究Ⅱ	2	秋2	4	必修	
選択					
専門基礎演習	2	春2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
博物館実習	3	通2	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

カリキュラム

現代社会学部　社会システム学科

（2024年度入学生適用）

現代社会学部　社会システム学科　教育理念・目標

＜教育理念＞

社会システム学科の教育は，21世紀の社会における課題を自ら発見し，他者と協力した問題解決により，社会に貢献することができる女性を育成する。いま女性の活躍の場は，国内外を問わず職場・家庭・地域など多様な社会生活の場面にわたっている。それらの場面において直面するのは，ひとつの学問領域だけでは解決できない複雑な問題である。社会システム学科では，幅広い分野にわたるさまざまな課題を多面的かつ総合的に理解し，新しい知識や技術を駆使しながら，解決策の提案・実証・評価までの一連の過程を経験する学びの機会を提供する。

そのために学科では，フィールドワークやインターンシップなどの社会と関わる実践的な教育により，問題解決の実際を体験する機会を提供する。それらの実践的な学びを展開する上で必要となる，社会と向き合う汎用的な力を初年次に重点的に向上させる。更に，２年次以降の５つのコースにわたる多様な開設科目を，学生個々人の将来目標にあわせてコース横断的に自由に履修することで，自己成長できる仕組みにもなっている。こうした基礎の上に３年次以降の演習科目では，主体的に選択した専門的領域を更に深める。

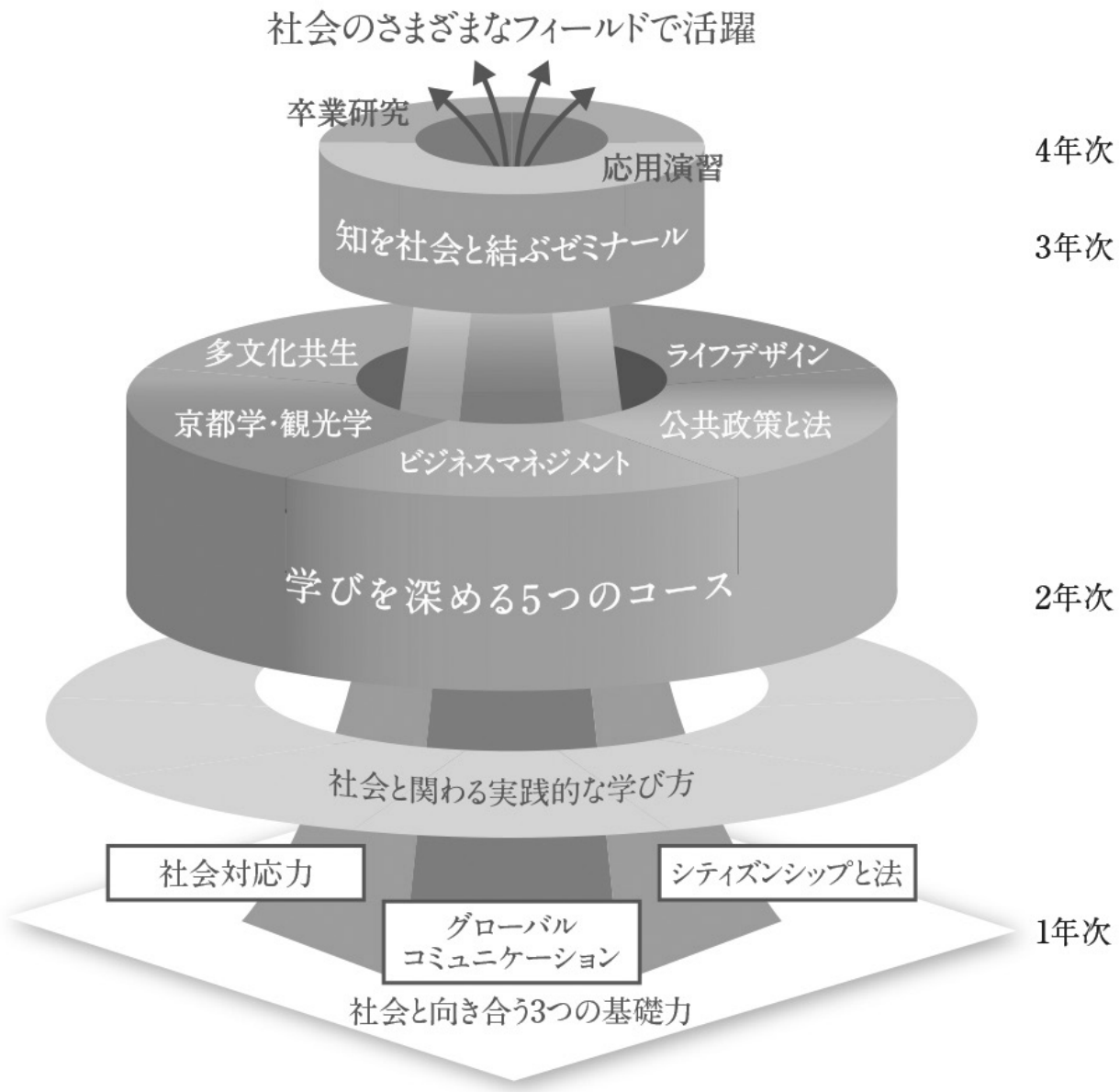
また，ネイティブスピーカーによる密度の高い英語特別プログラム（CASE）により，実践的な英語運用能力の向上をはかることができるのも，社会システム学科の教育の特徴のひとつである。

これらの社会とつながる実践的な学習をとおして，社会課題の解決につながる知見を深め，主体的に社会と関わり貢献するための力を修得する。

＜教育目標＞

社会システム学科の教育目標は，どのような生活場面やライフステージにあっても必要となる，社会と向き合う３つの基礎力（社会対応力・グローバルコミュニケーション・シティズンシップと法）の向上，及びコースごとの専門的履修による創意あふれる人材の育成である。この教育目標が達成できるように，初年次に全員が「基礎演習」・「現代社会入門」・「社会リサーチ入門」を通じて，大学での学びの基盤となる汎用的スキルを高める。概論科目では，社会科学の各部門に特有な対象と方法に関する知見を豊かにして行く。２年次からは，将来の専門領域に関する基本的知識を身に付けるために，「専門基礎演習」の受講を勧めている。あわせて，将来の進路を勘案して応用・各論科目の中から，主体的に選択した科目での勉学を進めていく。更にキャリアデザイン科目の受講により，修得した知識を社会で運用する実践知に変える取り組みを体験する。３年次からは，「応用演習Ⅰ・Ⅱ」を足場にして，自らが選択した専門領域に関するインセンティブな学習を協調的に展開し，４年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」ではそれまでの勉学の集大成として，卒業論文その他の作成に積極的に務め，その成果をゼミや卒業研究発表会で公開する。

現代社会学部 社会システム学科　カリキュラム概念図



現代社会学部　社会システム学科　科目配置表<2024年度入学生>

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次 必・選	1年次 春学期	1年次 単位	1年次 必・選	1年次 秋学期	1年次 単位	2年次 必・選	2年次 春学期	2年次 単位	2年次 必・選	2年次 秋学期	2年次 単位	3年次 必・選	3年次 春学期	3年次 単位	3年次 必・選	3年次 秋学期	3年次 単位	4年次 必・選	4年次 春学期	4年次 単位	4年次 必・選	4年次 秋学期	4年次 単位	卒業必要最低単位
基礎・入門科目		●	基礎演習	2	●	現代社会入門	2																			10
					●	社会リサーチ入門	2																			
					●	シティズンシップ入門	2																			
概論科目	A				○	文化人類学概論	2	●	法からみる現代社会	2															8
					○	比較文化概論（廃止）	2																			
	B	◎	観光学概論（廃止）	2																						
		◎	京都観光学概論	2																						
		◎	京都学概論	2	○	博物館概論	2																			
	C	○	社会学概論	2																						
		○	教育学概論	2	◎	倫理学概論（廃止）	2																			
		◎	心理学概論	2																						
	D	◎	経済学概論	2																						
					○	経営学概論	2																			
	E				○	法学概論	2																			
					○	政治学概論	2																			
応用・各論科目	多文化共生コース								オセアニア地域文化論	2		アメリカ地域文化論	2		アジア地域文化論	2									44
									ヨーロッパ地域文化論	2		ヨーロッパ地域文化論Ⅱ（廃止）	2		グローバル社会論	2		異文化理解	2						
									ラテンアメリカ地域文化論	2								移民難民論	2						
												アフリカ地域文化論	2												
									カルチュラルスタディーズ	2		エスニシティ論	2					国際交流史	2						
									国際関係史（廃止）	2		宗教と世界史	2												
									東洋の歴史Ⅰ	2		東洋の歴史Ⅱ（廃止）	2		地誌学Ⅰ	2		地誌学Ⅱ	2						
									多文化共生とこども	2		国際教育論	2												
									世界の貧困問題とこども支援	2					Academic Studies in Eng. Ⅰ(A)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(A)	2						
												世界のこども政策	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(B)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(B)	2						
	京都学・観光学コース								京都文化資料論（廃止）	2		京都の美術史	2		京都の社会史	2									
									観光地理論	2		京都観光論	2		日本の歴史Ⅰ	2		日本の歴史Ⅱ	2						
									観光経営論	2		京都文化論	2		考古学Ⅰ	2		考古学Ⅱ	2						
									京都伝統芸能論	2		京都・大阪・奈良の歴史地理	2		地理学	2		まちづくりの地理学	2						
									ホスピタリティマネジメント論	2		観光社会論	2		ホスピタリティ産業論	2		観光マーケティング論	2						
									京都の文化財論	2					観光イノベーション論	2										
									地域調査法	2		観光地域事業論	2					国際観光論	2						
									博物館資料論	2								京都・大阪・奈良フィールドワーク	2						
									博物館展示論	2					博物館教育論	2		博物館資料保存論	2						
															博物館情報・メディア論	2		博物館経営論	2						
									Tourism, Culture, and Technology Ⅰ	2		Tourism, Culture,and Technology Ⅱ	2					Academic Studies in Eng. Ⅱ(C)	2						
															Academic Studies in Eng. Ⅰ(C)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(D)	2						
															Academic Studies in Eng. Ⅰ(D)	2									
	ライフデザインコース								生命の倫理	2		現代社会と宗教	2		障害学	2		社会倫理学	2						
												宗教と人間	2					現代社会論	2						
									教育社会学	2		生涯学習論	2					現代教育学	2						
												ジェンダー論	2												
												女性史	2												
									心理臨床学	2		女性とリーダーシップ	2					ジェンダーの社会心理学	2						
												現代青年の心理と行動	2		情報社会心理学	2		家族臨床心理学	2						
									生涯発達心理学	2		対人関係心理学	2		カウンセリング論	2		音楽療法	2						
									こども家庭福祉	2		高齢者心理学	2		社会福祉支援論	2									
									キャリア形成論	2		社会福祉論	2					家族社会論	2						
												女性と社会保障	2					Academic Studies in Eng. Ⅱ(E)	2						
												レジャースポーツ論	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(E)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(F)	2						
									コミュニティマネジメント論	2		ウエルネスライフ論	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(F)	2									
	ビジネスマネジメントコース								金融論	2		国際金融論	2		経営哲学	2									
									保険論	2		マーケティング論	2												
									簿記論Ⅰ	2		簿記論Ⅱ	2												
												財政学	2		財務諸表論	2									
									消費者行動論	2		会計学	2												
									環境経済論	2		原価計算	2												
									国際企業論（廃止）	2		都市経済論	2					経済政策論	2						
												広告論	2					日本経済史	2						
									情報学	2		情報ネットワーク基礎	2		女性企業家論	2									
									社会情報論	2		マーケティング調査法	2		国際ビジネス論	2									
									経済学ステップアップ（廃止）	2		証券キャピタルマーケット論	2		IT とベンチャービジネス	2		AI 実践演習	2						
									経営学ステップアップ（廃止）	2		ディスクロージャー論	2												
									ビジネス統計・数学（廃止）	2		国際環境政策論（廃止）	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(G)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(G)	2						
									人的資源論	2		こども産業論	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(H)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(H)	2						
												AI の社会実装	2												
												リスクマネジメント論	2												
	公共政策と法コース								社会保障論	2					公務員と法	2									
									地方行政論	2					国連政策論	2		国際社会と公共政策	2						
									外交論	2		安全保障論（廃止）	2		物権法の重要問題	2									
									憲法	2		憲法Ⅱ（廃止）	2		刑法の重要問題	2									
									民法Ⅰ	2		民法Ⅱ	2		社会保障と法	2		債権法の重要問題	2						
									現代社会と犯罪	2		商法	2		税金と法	2		刑事司法の重要問題	2						
									刑法総論	2		刑法各論	2		国際社会協力政策論	2		社会政策	2						
									労働法	2		民事訴訟法	2		家族法の重要問題	2									
												刑事訴訟法	2		金融取引と法	2		社会安全政策論	2						
												家族法	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(I)	2									
												行政法（廃止）	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(J)	2									
												ジェンダー法	2					Academic Studies in Eng. Ⅱ(I)	2						
									公共政策	2		こどもと法（廃止）	2					Academic Studies in Eng. Ⅱ(J)	2						
												公共哲学	2												
	コミュニケーション系科目		Communication Skills Ⅰ	1		Communication Skills Ⅱ	1	●	Academic Reading and Discussion Ⅰ	2	●	Academic Reading and Discussion Ⅱ	2												4
									Academic Writing and Discussion Ⅰ	2		Academic Writing and Discussion Ⅱ	2												
	情報活用科目								情報リテラシー実習Ⅰ	2		[情報リテラシー実習Ⅰ]													
									情報リテラシー実習Ⅱ	2		[情報リテラシー実習Ⅱ]													
									情報リテラシー実習Ⅲ	2		[情報リテラシー実習Ⅲ]													
									情報リテラシー実習Ⅳ	2		[情報リテラシー実習Ⅳ]													
									情報リテラシー実習Ⅴ			[情報リテラシー実習Ⅴ]													
	キャリアデザイン科目					海外事情（アジアと女性）	2								Communication Skills for Work Ⅰ	2		Communication Skills for Work Ⅱ	2						4
												ライフデザイニング	2		English for Work Ⅰ	2		English for Work Ⅱ	2						
			キャリアアップ英語Ⅰ	2		キャリアアップ英語Ⅱ	2		World Affairs Ⅰ	2		World Affairs Ⅱ	2												
									キャリアアップ英語Ⅲ	2		キャリアアップ英語Ⅳ	2		インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年						
	プロジェクト科目								プロジェクト演習Ⅰ（廃止）	2		プロジェクト演習Ⅰ（廃止）	通年		プロジェクト演習Ⅱ	2		プロジェクト演習Ⅱ	2						
									プロジェクト演習Ⅰ（A）～（F）	2		[プロジェクト演習Ⅰ（A）～（F）]	通年		Project-Based English Ⅱ	2		Project-Based English Ⅱ	通年						
									Project-Based English Ⅰ	2		Project-Based English Ⅰ	通年												
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]																			10
キリスト教・同志社関係科目		●	聖書A	2	●	聖書B	2																		6
		◎	キリスト教・同志社関係選択必修科目			[キリスト教・同志社関係選択必修科目]																			
外国語科目		●	Comprehensive English Ⅰ	1	●	Comprehensive English Ⅱ	1																		8
		●	Communication in English Ⅰ	1	●	Communication in English Ⅱ	1																		
		◎	フランス語，ドイツ語，中国語，イタリア語，スペイン語，ハングル																						
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																			2
データサイエンス・AI科目		◎	データサイエンス・AI 選択必修科目			[データサイエンス・AI 選択必修科目]																			2
ゼミナール科目									専門基礎演習	2				●	応用演習Ⅰ	2	●	応用演習Ⅱ	2	●	卒業研究Ⅰ	2	●	卒業研究Ⅱ	2	8
区分外		＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えた単位，他大学単位互換科目の単位等																							18
合計																									124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又は A，B，C，などは，選択必修グループを表す。（○：A～Eから3分野以上から8単位以上）
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［ ］内の科目は，再掲。

自由選択科目																					博物館実習	3		博物館実習	通年	

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

現代社会学部　社会システム学科　卒業必要単位（2024年度入学生適用）

科目区分			1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎・入門科目			必修　8単位	必修　2単位			10単位
概論科目		A	選択必修　8単位 A～Eの5つの科目群のうち，最低3つの科目群にわたって，8単位以上修得すること。				8単位
		B					
		C					
		D					
		E					
応用・各論科目	コース科目	多文化共生コース	選択するコース科目群から最低14単位以上修得すること。				44単位
		京都学・観光学コース					
		ライフデザインコース					
		ビジネスマネジメントコース					
		公共政策と法コース					
	コミュニケーション系科目		必修　4単位				4単位
	総合キャリア科目	情報活用科目	3つの科目群から最低4単位以上修得すること。				4単位
		キャリアデザイン科目					
		プロジェクト科目					
共通学芸科目			※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位
キリスト教・同志社関係科目			必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
外国語科目			必修　4単位 選択必修　4単位				8単位
スポーツ・健康科目			選択必修　2単位				2単位
データサイエンス・AI科目			選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目					必修　4単位	必修　4単位	8単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計							106単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位を超えた単位，他大学単位互換科目の単位等）							18単位
卒業に必要な単位							124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い履修すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低18単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次の通り。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ	プロジェクト演習Ⅰ(A)～Ⅰ(F)
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA	プロジェクト演習Ⅱ
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	国際教養プロジェクトA	インターンシップⅠB	Project-Based English Ⅰ
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外事情(アジアと女性)	インターンシップⅡ	Project-Based English Ⅱ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情A		
近代日本と同志社D		海外こども事情B		
		人間生活海外事情		

現代社会学部　社会システム学科　カリキュラム表（2024年度入学生適用）

基礎・入門科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
基礎演習	2	春2	1	必修	
現代社会入門	2	秋2	1	必修	
社会リサーチ入門	2	秋2	1	必修	
シティズンシップ入門	2	半2	1	必修	
法からみる現代社会	2	春2	2	必修	

履修上の注意

基礎・入門科目はすべて必修である。

概論科目（最低 8 単位以上）

授業科目		単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修						
A	文化人類学概論	2	半2	1	選択必修8単位以上	
	比較文化概論	2	半2	1		廃止
B	観光学概論	2	半2	1		廃止
	京都観光学概論	2	半2	1		
	京都学概論	2	半2	1		
	博物館概論	2	半2	1		
C	社会学概論	2	半2	1		
	倫理学概論	2	半2	1		廃止
	教育学概論	2	半2	1		
	心理学概論	2	半2	1		変更
D	経済学概論	2	半2	1		
	経営学概論	2	半2	1		
E	法学概論	2	半2	1		
	政治学概論	2	半2	1		

履修上の注意

A ～ Eの 5 つの科目群の内，最低 3 つの科目群にわたって，8 単位以上修得すること。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
心理学概論	2	社会心理学概論

応用・各論科目（最低44単位以上）

コース科目（選択するコース科目群から最低14単位以上を修得し，コース全体で44単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
多文化共生コース					
オセアニア地域文化論	2	半2	2	選択	
アメリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
ヨーロッパ地域文化論	2	半2	2	選択	変更
ヨーロッパ地域文化論Ⅱ	2	半2	2	選択	廃止
ラテンアメリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
アフリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
エスニシティ論	2	半2	2	選択	
カルチュラルスタディーズ	2	半2	2	選択	
国際関係史	2	半2	2	選択	廃止
宗教と世界史	2	半2	2	選択	欠講
東洋の歴史Ⅰ	2	半2	2	選択	読替
東洋の歴史Ⅱ	2	半2	2	選択	廃止
多文化共生とこども	2	半2	2	選択	
国際教育論	2	半2	2	選択	欠講
世界の貧困問題とこども支援	2	半2	2	選択	
世界のこども政策	2	半2	2	選択	
アジア地域文化論	2	半2	3	選択	
グローバル社会論	2	半2	3	選択	
異文化理解	2	半2	3	選択	
移民難民論	2	半2	3	選択	
国際交流史	2	半2	3	選択	
地誌学Ⅰ	2	半2	3	選択	
地誌学Ⅱ	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(A)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(A)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(B)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(B)	2	半2	3	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
京都学・観光学コース					
京都観光論	2	半2	2	選択	
京都の文化財論	2	半2	2	選択	
京都文化論	2	半2	2	選択	
京都の美術史	2	半2	2	選択	
京都伝統芸能論	2	半2	2	選択	
京都文化資料論	2	半2	2	選択	廃止
観光地理論	2	半2	2	選択	
京都・大阪・奈良の歴史地理	2	半2	2	選択	
観光経営論	2	半2	2	選択	
観光社会論	2	半2	2	選択	
ホスピタリティマネジメント論	2	半2	2	選択	
観光地域事業論	2	半2	2	選択	
地域調査法	2	半2	2	選択	欠講
博物館資料論	2	半2	2	選択	
博物館展示論	2	半2	2	選択	
Tourism, Culture, and Technology Ⅰ	2	半2	2	選択	
Tourism, Culture,and Technology Ⅱ	2	半2	2	選択	
京都の社会史	2	半2	3	選択	
日本の歴史Ⅰ	2	半2	3	選択	
日本の歴史Ⅱ	2	半2	3	選択	
考古学Ⅰ	2	半2	3	選択	
考古学Ⅱ	2	半2	3	選択	
地理学	2	半2	3	選択	
まちづくりの地理学	2	半2	3	選択	
ホスピタリティ産業論	2	半2	3	選択	
観光マーケティング論	2	半2	3	選択	
観光イノベーション論	2	半2	3	選択	
国際観光論	2	半2	3	選択	
京都・大阪・奈良フィールドワーク	2	半2	3	選択	
博物館資料保存論	2	半2	3	選択	
博物館教育論	2	半2	3	選択	
博物館情報・メディア論	2	半2	3	選択	
博物館経営論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(C)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(C)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(D)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(D)	2	半2	3	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ライフデザインコース					
生命の倫理	2	半2	2	選択	
現代社会と宗教	2	半2	2	選択	
宗教と人間	2	半2	2	選択	
生涯学習論	2	半2	2	選択	
教育社会学	2	半2	2	選択	
ジェンダー論	2	半2	2	選択	
女性史	2	半2	2	選択	
女性とリーダーシップ	2	半2	2	選択	
心理臨床学	2	半2	2	選択	
対人関係心理学	2	半2	2	選択	
生涯発達心理学	2	半2	2	選択	
現代青年の心理と行動	2	半2	2	選択	
高齢者心理学	2	半2	2	選択	
社会福祉論	2	半2	2	選択	読替
女性と社会保障	2	半2	2	選択	
こども家庭福祉	2	半2	2	選択	
レジャースポーツ論	2	半2	2	選択	
ウエルネスライフ論	2	半2	2	選択	欠講
キャリア形成論	2	半2	2	選択	
コミュニティマネジメント論	2	半2	2	選択	
障害学	2	半2	3	選択	
社会倫理学	2	半2	3	選択	
現代教育学	2	半2	3	選択	
現代社会論	2	半2	3	選択	
情報社会心理学	2	半2	3	選択	欠講
ジェンダーの社会心理学	2	半2	3	選択	欠講
カウンセリング論	2	半2	3	選択	
家族臨床心理学	2	半2	3	選択	
音楽療法	2	半2	3	選択	
家族社会論	2	半2	3	選択	
社会福祉支援論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(E)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(E)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(F)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(F)	2	半2	3	選択	読替
ビジネスマネジメントコース					
金融論	2	半2	2	選択	
国際金融論	2	半2	2	選択	
保険論	2	半2	2	選択	
消費者行動論	2	半2	2	選択	変更
簿記論Ⅰ	2	半2	2	選択	
簿記論Ⅱ	2	半2	2	選択	
財政学	2	半2	2	選択	
会計学	2	半2	2	選択	
マーケティング論	2	半2	2	選択	
原価計算	2	半2	2	選択	
環境経済論	2	半2	2	選択	
都市経済論	2	半2	2	選択	
国際企業論	2	半2	2	選択	廃止
マーケティング調査法	2	半2	2	選択	
広告論	2	半2	2	選択	
情報学	2	半2	2	選択	
情報ネットワーク基礎	2	半2	2	選択	
経済学ステップアップ	2	半2	2	選択	廃止
証券キャピタルマーケット論	2	半2	2	選択	
経営学ステップアップ	2	半2	2	選択	廃止
ビジネス統計・数学	2	半2	2	選択	廃止
社会情報論	2	半2	2	選択	
こども産業論	2	半2	2	選択	
人的資源論	2	半2	2	選択	
リスクマネジメント論	2	半2	2	選択	
AIの社会実装	2	半2	2	選択	
ディスクロージャー論	2	半2	2	選択	
国際環境政策論	2	半2	2	選択	廃止
経営哲学	2	半2	3	選択	欠講
財務諸表論	2	半2	3	選択	
経済政策論	2	半2	3	選択	
女性企業家論	2	半2	3	選択	
国際ビジネス論	2	半2	3	選択	
ITとベンチャービジネス	2	半2	3	選択	
日本経済史	2	半2	3	選択	
AI実践演習	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(G)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(G)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(H)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(H)	2	半2	3	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
公共政策と法コース					
地方行政論	2	半2	2	選択	
外交論	2	半2	2	選択	
安全保障論	2	半2	2	選択	廃止
社会保障論	2	半2	2	選択	
憲法	2	半2	2	選択	変更・欠講
憲法Ⅱ	2	半2	2	選択	廃止
民法Ⅰ	2	半2	2	選択	
民法Ⅱ	2	半2	2	選択	
現代社会と犯罪	2	半2	2	選択	
刑法総論	2	半2	2	選択	
刑法各論	2	半2	2	選択	
商法	2	半2	2	選択	欠講
民事訴訟法	2	半2	2	選択	
労働法	2	半2	2	選択	
刑事訴訟法	2	半2	2	選択	
家族法	2	半2	2	選択	
行政法	2	半2	2	選択	廃止
ジェンダー法	2	半2	2	選択	
こどもと法	2	半2	2	選択	廃止
公共政策	2	半2	2	選択	
公共哲学	2	半2	2	選択	欠講
国際社会協力政策論	2	半2	3	選択	
公務員と法	2	半2	3	選択	欠講
国際社会と公共政策	2	半2	3	選択	
国連政策論	2	半2	3	選択	
物権法の重要問題	2	半2	3	選択	
債権法の重要問題	2	半2	3	選択	
刑法の重要問題	2	半2	3	選択	
刑事司法の重要問題	2	半2	3	選択	
社会保障と法	2	半2	3	選択	
税金と法	2	半2	3	選択	
金融取引と法	2	半2	3	選択	欠講
家族法の重要問題	2	半2	3	選択	
社会政策	2	半2	3	選択	
社会安全政策論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(I)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(I)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(J)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(J)	2	半2	3	選択	読替

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済みの場合は履修出来ないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
ヨーロッパの地域文化論	2	ヨーロッパの地域文化論Ⅰ
消費者行動論	2	流通論
憲法	2	憲法Ⅰ

読替措置について

次頁参照。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
社会福祉論	2	**社会福祉学概論**
東洋の歴史Ⅰ	2	**東洋の歴史**
Academic Studies in English Ⅰ(A)	2	Academic Studies in English Ⅰ(A)
Academic Studies in English Ⅱ(A)	2	Academic Studies in English Ⅱ(A)
Academic Studies in English Ⅰ(B)	2	Academic Studies in English Ⅰ(A)
Academic Studies in English Ⅱ(B)	2	Academic Studies in English Ⅱ(A)
Academic Studies in English Ⅰ(C)	2	Academic Studies in English Ⅰ(B)
Academic Studies in English Ⅱ(C)	2	Academic Studies in English Ⅱ(B)
Academic Studies in English Ⅰ(D)	2	Academic Studies in English Ⅰ(B)
Academic Studies in English Ⅱ(D)	2	Academic Studies in English Ⅱ(B)
Academic Studies in English Ⅰ(E)	2	Academic Studies in English Ⅰ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅱ(E)	2	Academic Studies in English Ⅱ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅰ(F)	2	Academic Studies in English Ⅰ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅱ(F)	2	Academic Studies in English Ⅱ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅰ(G)	2	Academic Studies in English Ⅰ(E)
Academic Studies in English Ⅱ(G)	2	Academic Studies in English Ⅱ(E)
Academic Studies in English Ⅰ(H)	2	Academic Studies in English Ⅰ(E)
Academic Studies in English Ⅱ(H)	2	Academic Studies in English Ⅱ(E)
Academic Studies in English Ⅰ(I)	2	Academic Studies in English Ⅰ(F)
Academic Studies in English Ⅱ(I)	2	Academic Studies in English Ⅱ(F)
Academic Studies in English Ⅰ(J)	2	Academic Studies in English Ⅰ(F)
Academic Studies in English Ⅱ(J)	2	Academic Studies in English Ⅱ(F)

＊Academic Studies in English Ⅰ(A)～Ⅰ(J)，Academic Studies in English Ⅱ(A)～Ⅱ(J)の新科目名及び授業コードは開講科目表にある「指定クラス等」の欄で十分確認すること

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

コミュニケーション系科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Academic Reading and Discussion Ⅰ	2	春2	2	必修	
Academic Reading and Discussion Ⅱ	2	秋2	2	必修	
選択					
Communication Skills Ⅰ	1	半2	1	選択	
Communication Skills Ⅱ	1	半2	1	選択	
Academic Writing and Discussion Ⅰ	2	半2	2	選択	
Academic Writing and Discussion Ⅱ	2	半2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

総合キャリア科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
情報活用科目					
選択					
情報リテラシー実習Ⅰ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅱ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅲ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅳ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅴ	2	半2	2	選択	変更
キャリアデザイン科目					
選択					
海外事情（アジアと女性）	2	秋2	1	選択	欠講
キャリアアップ英語Ⅰ	2	半2	1	選択	
キャリアアップ英語Ⅱ	2	半2	1	選択	
ライフデザイニング	2	半2	2	選択	
World Affairs Ⅰ	2	半2	2	選択	
World Affairs Ⅱ	2	半2	2	選択	
キャリアアップ英語Ⅲ	2	半2	2	選択	
キャリアアップ英語Ⅳ	2	半2	2	選択	
Communication Skills for Work Ⅰ	2	半2	3	選択	
Communication Skills for Work Ⅱ	2	半2	3	選択	
English for Work Ⅰ	2	半2	3	選択	欠講
English for Work Ⅱ	2	半2	3	選択	欠講
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	
プロジェクト科目					
選択					
プロジェクト演習Ⅰ	2	通2	2	選択	廃止
プロジェクト演習Ⅰ(A)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(B)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(C)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(D)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(E)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(F)	2	通2	2	選択	新設
Project-Based English Ⅰ	2	通2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅱ	2	通2	3	選択	
Project-Based English Ⅱ	2	通2	3	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「海外事情（アジアと女性）」
選考に合格した学生のみ履修できる。卒業年次生履修不可。
「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。
「プロジェクト演習Ⅰ(A)～Ⅰ(F)」「プロジェクト演習Ⅱ」
選考に合格した学生のみ履修できる。
「Project-Based EnglishⅠ」「Project-Based EnglishⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済みの場合は履修出来ないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
情報リテラシー実習Ⅰ	2	情報活用実習Ⅰ
情報リテラシー実習Ⅱ	2	情報活用実習Ⅱ
情報リテラシー実習Ⅲ	2	情報活用実習Ⅲ
情報リテラシー実習Ⅳ	2	情報活用実習Ⅳ
情報リテラシー実習Ⅴ	2	情報活用実習Ⅴ

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
人間と思想				
哲学Ａ	2	半2	1	
哲学Ｂ	2	半2	1	
西洋の思想Ａ	2	半2	1	欠講
西洋の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の思想Ａ	2	半2	1	欠講
日本の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学Ａ	2	半2	1	
心理学Ｂ	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論Ａ	2	半2	1	
国際関係論Ｂ	2	半2	1	
国際社会と経済Ａ	2	半2	1	
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会Ａ	2	半2	1	
人間と社会Ｂ	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
社会保障と福祉	2	半2	1	
介護概説	2	半2	1	
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性Ａ	2	半2	1	
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1	
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1	
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1	
アジア地域研究Ａ	2	半2	1	
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1	
日本古典芸能Ａ	2	半2	1	
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化Ａ	2	半2	1	
京都の文化Ｂ	2	半2	1	
京都の文化Ｃ	2	半2	1	
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2	
京都の歴史Ａ	2	半2	1	
京都の歴史Ｂ	2	半2	1	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
教育と人間				
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち，左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。
発達と学習の心理学	2	半2	2	
教育の制度と経営	2	半2	2	
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan StudiesＡ	2	秋2	1	
Japan StudiesＢ	2	秋2	1	
Japan StudiesＣ	2	秋2	1	
Japan StudiesＤ	2	秋2	1	
Japan StudiesＥ	2	秋2	1	欠講
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	
寄付講座	2	半2	1	
キャリア教育科目				
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップＩＡ	1	通1	2	
インターンシップＩＢ	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（本学Webサイト「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月(夏期)，10月(春期)に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan StudiesＡ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	選択必修	
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	2単位	
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	以上	
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	廃止
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	廃止
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFL Ⅰ	2			選択	
TOEFL Ⅱ	2			選択	
TOEFL Ⅲ	2			選択	
TOEIC Ⅰ	2			選択	
TOEIC Ⅱ	2			選択	
TOEIC Ⅲ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTS Ⅰ	2			選択	
IELTS Ⅱ	2			選択	
IELTS Ⅲ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語 4 単位を選択必修。「1つの言語 4 単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について

「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週 2 回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

3．語学特別プログラム

国際化の進んだ今日の社会状況の中で，極めて高度な語学運用能力を身につけるため，CASEプログラム（英語），ラピートプログラム（中国語）を実施している。
受講するためには，特別な手続を必要とする。

CASE(Career and Academic Studies in English)プログラム(英語)

1年次から 3 年次の 3 年間のプログラムで，上級と中級のグレードがあり，Native Speaker教員による授業を，以下のとおり必修扱いで受講することになる。クラスが指定されている科目もあるので，開講科目表を参照のこと。
参加希望の有無を入学式前後の英語適性検査時に調査する。希望者多数の場合は，英語プレイスメントテストの結果により選考する。2年次以降のクラス変更については，現代社会学部事務室まで問い合わせること。

（2023年度・2024年度入学生）

（1年次）	上級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
	中級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
（2年次）	上級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Writing and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Project-Based English Ⅰ	いずれかを選択必修
		World Affairs Ⅰ・Ⅱ	
	中級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Writing and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Tourism, Culture, and Technology Ⅰ・Ⅱ	いずれかを選択必修
		キャリアアップ英語Ⅲ・Ⅳ	
（3年次）	上級クラス	Academic Studies in English Ⅰ(A)・Ⅱ(A)	
		Academic Studies in English Ⅰ(C)・Ⅱ(C)	
		Academic Studies in English Ⅰ(E)・Ⅱ(E)	Ⅰ・Ⅱセットで
		Academic Studies in English Ⅰ(G)・Ⅱ(G)	8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(I)・Ⅱ(I)	
		Project-Based English Ⅱ	
	中級クラス	Academic Studies in English Ⅰ(B)・Ⅱ(B)	
		Academic Studies in English Ⅰ(D)・Ⅱ(D)	
		Academic Studies in English Ⅰ(F)・Ⅱ(F)	Ⅰ・Ⅱセットで
		Academic Studies in English Ⅰ(H)・Ⅱ(H)	8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(J)・Ⅱ(J)	
		Communication Skills for Work Ⅰ・Ⅱ	

ラピートプログラム（中国語）

2年次からの 2 年間のプログラムで，日本人教員による授業を週 2 コマと，Native Speaker教員による授業を週 2 コマ，計週 4 コマの授業を 2 年間にわたって受講することになる。「ラピート中国語Ⅰ」「ラピート中国語Ⅱ」の履修条件はないが，「ラピート中国語Ⅲ」「ラピート中国語Ⅳ」はⅠ・Ⅱを受講していることが履修の条件となる。

※プログラムに参加する場合，他の選択科目の履修に一部制約を受けることがある。不明な点については現代社会学部事務室まで問い合わせること。
「ラピート中国語Ⅰ」「ラピート中国語Ⅱ」は，2025年度が最後の開講となり，2026年度以降は開講しない。
「ラピート中国語Ⅲ」「ラピート中国語Ⅳ」は，2026年度が最後の開講となり，2027年度以降は開講しない。

4．全般事項

a．1年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。

b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

d．「Study Abroad : English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修4単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する4単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，18単位＋4単位＝22単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

データサイエンス・AI科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
基礎					
選択必修					
データサイエンス・AI基礎	2	半2	1	選択必修2単位以上	
データサイエンス・ICT活用基礎	2	半2	1		
実践					
選択					
データサイエンスのためのAIプログラミング入門	2	半2	1	選択	
データサイエンスのための統計入門	2	半2	1	選択	
ことばのデータサイエンス	2	半2	1	選択	
実践から学ぶAI入門	2	半2	1	選択	

履修上の注意

1．最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
2．DWCLAデータサイエンス・AIプログラムについては，「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」のページで確認すること。

ゼミナール科目（最低8単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業研究Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業研究Ⅱ	2	秋2	4	必修	
選択					
専門基礎演習	2	春2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
博物館実習	3	通2	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

カリキュラム

現代社会学部　社会システム学科

（2018～2023年度入学生適用）

現代社会学部　社会システム学科　教育理念・目標

＜教育理念＞

社会システム学科の教育は，21世紀の社会における課題を自ら発見し，他者と協力した問題解決により，社会に貢献することができる女性を育成する。いま女性の活躍の場は，国内外を問わず職場・家庭・地域など多様な社会生活の場面にわたっている。それらの場面において直面するのは，ひとつの学問領域だけでは解決できない複雑な問題である。社会システム学科では，幅広い分野にわたるさまざまな課題を多面的かつ総合的に理解し，新しい知識や技術を駆使しながら，解決策の提案・実証・評価までの一連の過程を経験する学びの機会を提供する。

そのために学科では，フィールドワークやインターンシップなどの社会と関わる実践的な教育により，問題解決の実際を体験する機会を提供する。それらの実践的な学びを展開する上で必要となる，社会と向き合う汎用的な力を初年次に重点的に向上させる。更に，２年次以降の５つのコースにわたる多様な開設科目を，学生個々人の将来目標にあわせてコース横断的に自由に履修することで，自己成長できる仕組みにもなっている。こうした基礎の上に３年次以降の演習科目では，主体的に選択した専門的領域を更に深める。

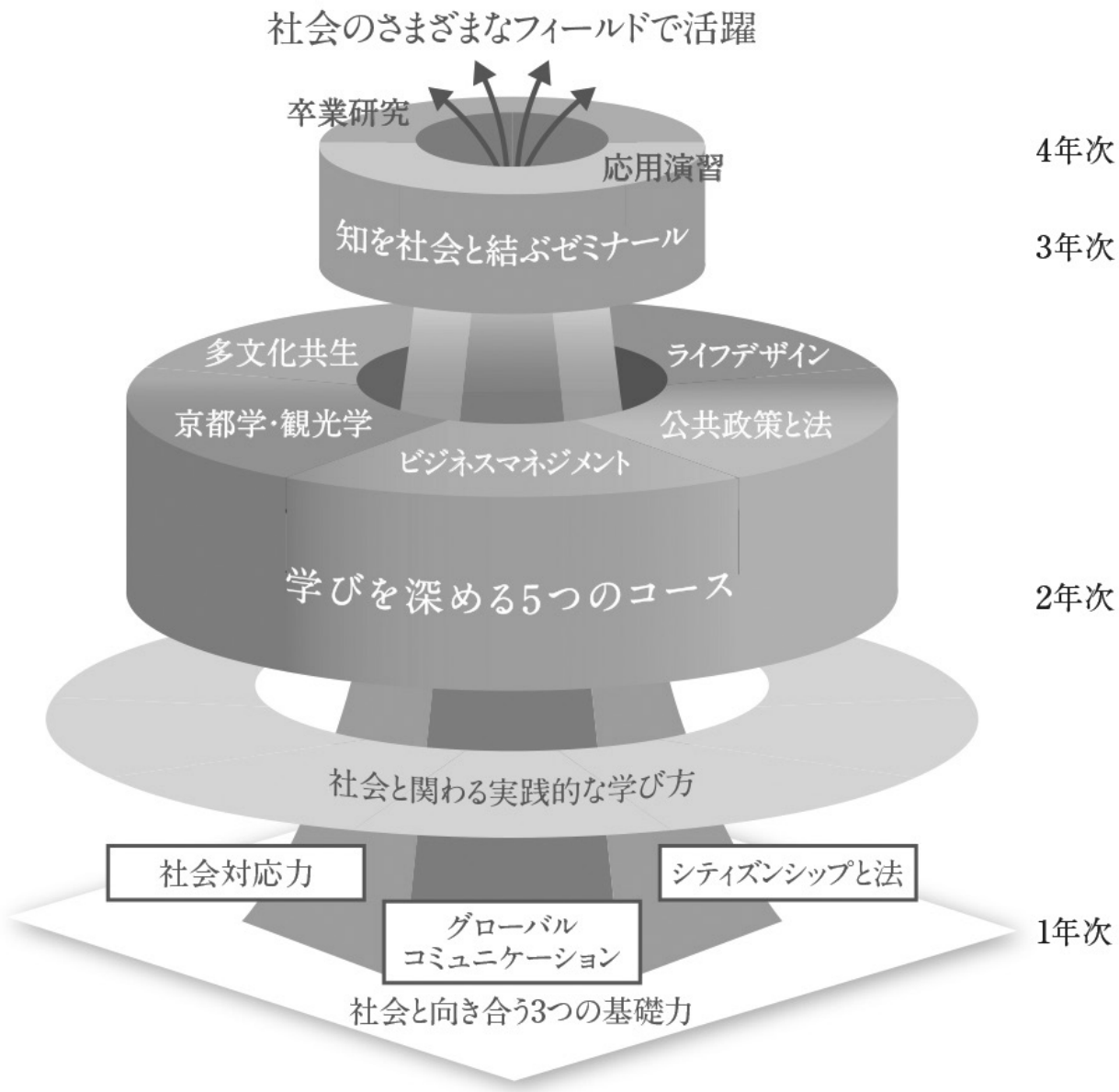
また，ネイティブスピーカーによる密度の高い英語特別プログラム（CASE）により，実践的な英語運用能力の向上をはかることができるのも，社会システム学科の教育の特徴のひとつである。

これらの社会とつながる実践的な学習をとおして，社会課題の解決につながる知見を深め，主体的に社会と関わり貢献するための力を修得する。

＜教育目標＞

社会システム学科の教育目標は，どのような生活場面やライフステージにあっても必要となる，社会と向き合う３つの基礎力（社会対応力・グローバルコミュニケーション・シティズンシップと法）の向上，及びコースごとの専門的履修による創意あふれる人材の育成である。この教育目標が達成できるように，初年次に全員が「基礎演習」・「現代社会入門」・「社会リサーチ入門」を通じて，大学での学びの基盤となる汎用的スキルを高める。概論科目では，社会科学の各部門に特有な対象と方法に関する知見を豊かにして行く。２年次からは，将来の専門領域に関する基本的知識を身に付けるために，「専門基礎演習」の受講を勧めている。あわせて，将来の進路を勘案して応用・各論科目の中から，主体的に選択した科目での勉学を進めていく。更にキャリアデザイン科目の受講により，修得した知識を社会で運用する実践知に変える取り組みを体験する。３年次からは，「応用演習Ⅰ・Ⅱ」を足場にして，自らが選択した専門領域に関するインセンティブな学習を協調的に展開し，４年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」ではそれまでの勉学の集大成として，卒業論文その他の作成に積極的に務め，その成果をゼミや卒業研究発表会で公開する。

現代社会学部 社会システム学科　カリキュラム概念図



現代社会学部　社会システム学科　科目配置表<2018〜2023年度入学生>

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次 必・選	1年次 春学期	1年次 単位	1年次 必・選	1年次 秋学期	1年次 単位	2年次 必・選	2年次 春学期	2年次 単位	2年次 必・選	2年次 秋学期	2年次 単位	3年次 必・選	3年次 春学期	3年次 単位	3年次 必・選	3年次 秋学期	3年次 単位	4年次 必・選	4年次 春学期	4年次 単位	4年次 必・選	4年次 秋学期	4年次 単位	卒業必要最低単位
基礎・入門科目		●	基礎演習	2	●	現代社会入門	2																			10
					●	社会リサーチ入門	2																			
					●	シティズンシップ入門	2	●	法からみる現代社会	2															
概論科目	A				◎	文化人類学概論	2																			8
					◎	比較文化概論（廃止）	2																			
	B	◎	観光学概論（廃止）	2																						
		◎	京都観光学概論	2																						
		◎	京都学概論	2	◎	博物館概論	2																			
	C	◎	社会学概論	2																						
		◎	教育学概論	2	◎	倫理学概論（廃止）	2																			
		◎	心理学概論	2																						
	D	◎	経済学概論	2																						
					◎	経営学概論	2																			
	E				◎	法学概論	2																			
					◎	政治学概論	2																			
応用・各論科目	多文化共生コース								オセアニア地域文化論	2		アメリカ地域文化論	2		アジア地域文化論	2									44
									ヨーロッパ地域文化論	2		ヨーロッパ地域文化論Ⅱ（廃止）	2		グローバル社会論	2		異文化理解	2						
									ラテンアメリカ地域文化論	2								移民難民論	2						
												アフリカ地域文化論	2												
									ヨーロッパの人と社会（廃止）	2		ヨーロッパの人と文化（廃止）	2					国際交流史	2						
									カルチュラルスタディーズ	2		エスニシティ論	2												
									国際関係史（廃止）	2		宗教と世界史	2		地誌学Ⅰ	2		地誌学Ⅱ	2						
												アジア太平洋地域発展論（廃止）	2												
									東洋の歴史Ⅰ	2		東洋の歴史Ⅱ（廃止）	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(A)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(A)	2						
									多文化共生とこども	2		国際教育論	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(B)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(B)	2						
									世界の貧困問題とこども支援	2		ユニセフとこども支援（廃止）	2												
												世界のこども政策	2												
	京都学・観光学コース														京都の社会史	2									
									京都文化資料論（廃止）	2		京都の美術史	2		日本の歴史Ⅰ	2		日本の歴史Ⅱ	2						
									観光地理論	2		京都観光論	2		考古学Ⅰ	2		考古学Ⅱ	2						
									観光経営論	2		京都文化論	2		地理学	2		まちづくりの地理学	2						
									京都の文化財論	2		京都・大阪・奈良の歴史地理	2		ホスピタリティ産業論	2		観光マーケティング論	2						
									ホスピタリティマネジメント論	2		観光社会論	2		観光イノベーション論	2									
									京都伝統芸能論	2								国際観光論	2						
									地域調査法	2		観光地域事業論	2					京都フィールドワーク（廃止）	2						
									博物館資料論	2								京都・大阪・奈良フィールドワーク	2						
									博物館展示論	2					博物館教育論	2		博物館情報・メディア論	2						
															博物館情報・メディア論	2									
									Tourism, Culture, and Technology Ⅰ	2		Tourism, Culture,and Technology Ⅱ	2					博物館経営論	2						
															Academic Studies in Eng. Ⅰ(C)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(C)	2						
															Academic Studies in Eng. Ⅰ(D)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(D)	2						
	ライフデザインコース								生命の倫理	2		現代社会と宗教	2		障害学	2		社会倫理学	2						
												宗教と人間	2					ケアの人間学（廃止）	2						
									教育社会学	2		生涯学習論	2					現代社会論	2						
												ジェンダー論	2					現代教育学	2						
												女性史	2												
									心理臨床学	2		女性とリーダーシップ	2					ジェンダーの社会心理学	2						
												現代青年の心理と行動	2		情報社会心理学	2									
									生涯発達心理学	2		対人関係心理学	2		カウンセリング論	2		家族臨床心理学	2						
									こども家庭福祉	2		高齢者心理学	2		社会福祉支援論	2		音楽療法	2						
									キャリア形成論	2		社会福祉論	2					家族社会論	2						
												女性と社会保障	2												
												社会福祉調査法（廃止）	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(E)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(E)	2						
												レジャースポーツ論	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(F)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(F)	2						
									コミュニティマネジメント論	2		ウエルネスライフ論	2												
	ビジネスマネジメントコース								金融論	2		国際金融論	2		経営哲学	2									
									保険論	2		マーケティング論	2												
									簿記論Ⅰ	2		簿記論Ⅱ	2												
												財政学	2		財務諸表論	2									
									消費者行動論	2		会計学	2												
									環境経済論	2		原価計算	2												
									国際企業論（廃止）	2		都市経済論	2					経済政策論	2						
												広告論	2					ベンチャービジネス論（廃止）	2						
									情報学	2		情報ネットワーク基礎	2		ネットビジネス論（廃止）	2		日本経済史	2						
									社会情報論	2		マーケティング調査法	2		女性企業家論	2									
									経済学ステップアップ（廃止）	2		証券キャピタルマーケット論	2		国際ビジネス論	2									
									経営学ステップアップ（廃止）	2		ディスクロージャー論	2		IT とベンチャービジネス	2		AI 実践演習	2						
									ビジネス統計・数学（廃止）	2		国際環境政策論（廃止）	2												
									人的資源論	2		こども産業論	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(G)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(G)	2						
									企業の社会的責任（廃止）	2		AI の社会実装	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(H)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(H)	2						
												リスクマネジメント論	2												
	公共政策と法コース								社会保障論	2					現代の政治（廃止）	2									
									地方行政論	2					公務員と法	2		国際社会と公共政策	2						
									外交論	2		安全保障論（廃止）	2		国連政策論	2									
									憲法	2		憲法Ⅱ（廃止）	2		都市政策論（廃止）	2									
									民法Ⅰ	2		民法Ⅱ	2		物権法の重要問題	2		債権法の重要問題	2						
									現代社会と犯罪	2		商法	2		刑法の重要問題	2		刑事司法の重要問題	2						
									刑法総論	2		刑法各論	2		社会保障と法	2									
									労働法	2		民事訴訟法	2		税金と法	2		知的財産権法（廃止）	2						
												刑事訴訟法	2		国際社会協力政策論	2		社会政策	2						
									国際法（廃止）	2		家族法	2		企業と法（廃止）	2		社会安全政策論	2						
												行政法（廃止）	2		家族法の重要問題	2									
												ジェンダー法	2		金融取引と法	2									
												こどもと法（廃止）	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(I)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(I)	2						
									公共政策	2		公共哲学	2		Academic Studies in Eng. Ⅰ(J)	2		Academic Studies in Eng. Ⅱ(J)	2						
	コミュニケーション系科目		Communication Skills Ⅰ	1		Communication Skills Ⅱ	1	●	Academic Reading and Discussion Ⅰ	2	●	Academic Reading and Discussion Ⅱ	2												4
									Academic Writing and Discussion Ⅰ	2		Academic Writing and Discussion Ⅱ	2												
	情報活用科目								情報リテラシー実習Ⅰ	2															
									情報リテラシー実習Ⅱ	2															
									情報リテラシー実習Ⅲ	2															
									情報リテラシー実習Ⅳ	2															
									情報リテラシー実習Ⅴ																
	キャリアデザイン科目					海外事情（アジアと女性）	2					ライフデザイニング	2		Communication Skills for Work Ⅰ	2		Communication Skills for Work Ⅱ	2						4
												World Affairs Ⅰ	2		English for Work Ⅰ	2		English for Work Ⅱ	2						
			キャリアアップ英語Ⅰ	2		キャリアアップ英語Ⅱ	2					キャリアアップ英語Ⅲ	2												
	プロジェクト科目								プロジェクト演習Ⅰ（廃止）	2		プロジェクト演習Ⅰ（廃止）	通年		プロジェクト演習Ⅱ（廃止）	2		プロジェクト演習Ⅱ	通年						
									プロジェクト演習Ⅰ（A）〜(F)	2		［プロジェクト演習Ⅰ（A）〜(F)］	通年		Project-Based English Ⅱ	2		Project-Based English Ⅱ	通年						
									Project-Based English Ⅰ	2		Project-Based English Ⅰ	通年												
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			［共通学芸選択科目］ ［他学科科目］																			10
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	● ［キリスト教・同志社関係選択必修科目］	聖書Ｂ	2																		6
外国語科目		●	英語講読ⅠＡ（2018年度入学生のみ適用）	1	●	英語講読ⅠＢ（2018年度入学生のみ適用）	1																		8
		●	英語コミュニケーションⅠA（2018年度入学生のみ適用）	1	●	英語コミュニケーションⅠB（2018年度入学生のみ適用）	1																		
		●	Comprehensive English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1																		
		●	Communication in English Ⅰ（2018年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1																		
		◎	フランス語、ドイツ語、中国語、イタリア語、スペイン語、ハングル																						
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			［スポーツ・健康選択必修科目］																			2
データサイエンス・AI科目			データサイエンス・AI選択科目			［データサイエンス・AI選択科目］																			0
ゼミナール科目									専門基礎演習	2				●	応用演習Ⅰ	2	●	応用演習Ⅱ	2	●	卒業研究Ⅰ	2	●	卒業研究Ⅱ	2	8
区分外		＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えた単位、他大学単位互換科目の単位等																							20
合計																									124
自由選択科目			コンピュータ活用	2																	博物館実習	3		博物館実習	通年	

<凡例>
1．必・選欄の●は必修を，◎又はA．B．C．などは，選択必修グループを表す。（◎：A〜Eから3分野以上から8単位以上）
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

※　網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

現代社会学部　社会システム学科　卒業必要単位（2018～2023 年度入学生適用）

科目区分			1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業必要最低単位
基礎・入門科目			必修　8 単位	必修　2 単位			10単位
概論科目		A B C D E	選択必修　8 単位 A～E の 5 つの 科目群のうち， 最低 3 つの科目群にわたって， 8 単位以上修得すること。				8 単位
応用・各論科目	コース科目	多文化共生コース 京都学・観光学コース ライフデザインコース ビジネスマネジメントコース 公共政策と法コース	選択するコース科目群から最低14単位以上修得すること。				44単位
応用・各論科目	コミュニケーション系科目		必修　4 単位				4 単位
応用・各論科目	総合キャリア科目	情報活用科目 キャリアデザイン科目 プロジェクト科目	3 つの科目群から最低 4 単位以上修得すること。				4 単位
共通学芸科目			※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位
キリスト教・同志社関係科目			必修　4 単位 選択必修　2 単位				6 単位
外国語科目			必修　4 単位 選択必修　4 単位				8 単位
スポーツ・健康科目			選択必修　2 単位				2 単位
データサイエンス・AI 科目							0 単位
ゼミナール科目					必修　4 単位	必修　4 単位	8 単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計							104単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位を超えた単位，他大学単位互換科目の単位等）							20単位
卒業に必要な単位							124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞
各科目区分ごとに，上記の要件に従い履修すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞
最低20単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次の通り。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞
総計124単位以上
注）自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞
年間49単位。1 学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ	プロジェクト演習Ⅰ(A)～Ⅰ(F)
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA	プロジェクト演習Ⅱ
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	国際教養プロジェクトA	インターンシップⅠB	Project-Based English Ⅰ
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外事情(アジアと女性)	インターンシップⅡ	Project-Based English Ⅱ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情A		
近代日本と同志社D		海外こども事情B		
		人間生活海外事情		

現代社会学部　社会システム学科　カリキュラム表（2018〜2023年度入学生適用）

基礎・入門科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
基礎演習	2	春2	1	必修	
現代社会入門	2	秋2	1	必修	
社会リサーチ入門	2	秋2	1	必修	
シティズンシップ入門	2	半2	1	必修	
法からみる現代社会	2	春2	2	必修	

履修上の注意

基礎・入門科目はすべて必修である。

概論科目（最低 8 単位以上）

授業科目		単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修						
A	文化人類学概論	2	半2	1	選択必修 8 単位以上	
	比較文化概論	2	半2	1		廃止
B	観光学概論	2	半2	1		廃止
	京都観光学概論	2	半2	1		
	京都学概論	2	半2	1		
	博物館概論	2	半2	1		
C	社会学概論	2	半2	1		
	倫理学概論	2	半2	1		廃止
	教育学概論	2	半2	1		
	心理学概論	2	半2	1		変更
D	経済学概論	2	半2	1		
	経営学概論	2	半2	1		
E	法学概論	2	半2	1		
	政治学概論	2	半2	1		

履修上の注意

A 〜 E の 5 つの科目群の内，最低 3 つの科目群にわたって，8 単位以上修得すること。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
心理学概論	2	社会心理学概論

応用・各論科目（最低44単位以上）

コース科目（選択するコース科目群から最低14単位以上を修得し，コース全体で44単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
多文化共生コース					
オセアニア地域文化論	2	半2	2	選択	
アメリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
ヨーロッパ地域文化論	2	半2	2	選択	変更
ヨーロッパ地域文化論Ⅱ	2	半2	2	選択	廃止
ラテンアメリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
アフリカ地域文化論	2	半2	2	選択	
ヨーロッパの人と社会	2	半2	2	選択	廃止
ヨーロッパの人と文化	2	半2	2	選択	廃止
エスニシティ論	2	半2	2	選択	
カルチュラルスタディーズ	2	半2	2	選択	
国際関係史	2	半2	2	選択	廃止
宗教と世界史	2	半2	2	選択	欠講
アジア太平洋地域発展論	2	半2	2	選択	廃止
東洋の歴史Ⅰ	2	半2	2	選択	読替
東洋の歴史Ⅱ	2	半2	2	選択	廃止
多文化共生とこども	2	半2	2	選択	
国際教育論	2	半2	2	選択	欠講
世界の貧困問題とこども支援	2	半2	2	選択	
ユニセフとこども支援	2	半2	2	選択	廃止
世界のこども政策	2	半2	2	選択	
アジア地域文化論	2	半2	3	選択	
グローバル社会論	2	半2	3	選択	
異文化理解	2	半2	3	選択	
移民難民論	2	半2	3	選択	
国際交流史	2	半2	3	選択	
地誌学Ⅰ	2	半2	3	選択	
地誌学Ⅱ	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(A)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(A)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(B)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(B)	2	半2	3	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
京都学・観光学コース					
京都観光論	2	半2	2	選択	
京都の文化財論	2	半2	2	選択	
京都文化論	2	半2	2	選択	
京都の美術史	2	半2	2	選択	
京都伝統芸能論	2	半2	2	選択	
京都文化資料論	2	半2	2	選択	廃止
観光地理論	2	半2	2	選択	
京都・大阪・奈良の歴史地理	2	半2	2	選択	変更
観光経営論	2	半2	2	選択	
観光社会論	2	半2	2	選択	
ホスピタリティマネジメント論	2	半2	2	選択	
観光地域事業論	2	半2	2	選択	
地域調査法	2	半2	2	選択	欠講
博物館資料論	2	半2	2	選択	
博物館展示論	2	半2	2	選択	
Tourism, Culture, and Technology Ⅰ	2	半2	2	選択	
Tourism, Culture,and Technology Ⅱ	2	半2	2	選択	
京都の社会史	2	半2	3	選択	
日本の歴史Ⅰ	2	半2	3	選択	
日本の歴史Ⅱ	2	半2	3	選択	
考古学Ⅰ	2	半2	3	選択	
考古学Ⅱ	2	半2	3	選択	
地理学	2	半2	3	選択	
まちづくりの地理学	2	半2	3	選択	
ホスピタリティ産業論	2	半2	3	選択	
観光マーケティング論	2	半2	3	選択	
観光イノベーション論	2	半2	3	選択	
国際観光論	2	半2	3	選択	
京都フィールドワーク	2	半2	3	選択	廃止
京都・大阪・奈良フィールドワーク	2	半2	3	選択	
博物館資料保存論	2	半2	3	選択	
博物館教育論	2	半2	3	選択	
博物館情報・メディア論	2	半2	3	選択	
博物館経営論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(C)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(C)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(D)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(D)	2	半2	3	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ライフデザインコース					
生命の倫理	2	半2	2	選択	
現代社会と宗教	2	半2	2	選択	
宗教と人間	2	半2	2	選択	
生涯学習論	2	半2	2	選択	
教育社会学	2	半2	2	選択	
ジェンダー論	2	半2	2	選択	
女性史	2	半2	2	選択	
女性とリーダーシップ	2	半2	2	選択	
心理臨床学	2	半2	2	選択	
対人関係心理学	2	半2	2	選択	
生涯発達心理学	2	半2	2	選択	
現代青年の心理と行動	2	半2	2	選択	
高齢者心理学	2	半2	2	選択	
社会福祉論	2	半2	2	選択	読替
女性と社会保障	2	半2	2	選択	
社会福祉調査法	2	半2	2	選択	廃止
こども家庭福祉	2	半2	2	選択	変更
レジャースポーツ論	2	半2	2	選択	
ウエルネスライフ論	2	半2	2	選択	欠講
キャリア形成論	2	半2	2	選択	
コミュニティマネジメント論	2	半2	2	選択	
障害学	2	半2	3	選択	
社会倫理学	2	半2	3	選択	
ケアの人間学	2	半2	3	選択	廃止
現代教育学	2	半2	3	選択	
現代社会論	2	半2	3	選択	
情報社会心理学	2	半2	3	選択	欠講
ジェンダーの社会心理学	2	半2	3	選択	欠講
カウンセリング論	2	半2	3	選択	
家族臨床心理学	2	半2	3	選択	
音楽療法	2	半2	3	選択	
家族社会論	2	半2	3	選択	
社会福祉支援論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(E)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(E)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(F)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(F)	2	半2	3	選択	読替
ビジネスマネジメントコース					
金融論	2	半2	2	選択	
国際金融論	2	半2	2	選択	
保険論	2	半2	2	選択	
消費者行動論	2	半2	2	選択	変更
簿記論Ⅰ	2	半2	2	選択	
簿記論Ⅱ	2	半2	2	選択	
財政学	2	半2	2	選択	
会計学	2	半2	2	選択	
マーケティング論	2	半2	2	選択	
原価計算	2	半2	2	選択	
環境経済論	2	半2	2	選択	
都市経済論	2	半2	2	選択	
国際企業論	2	半2	2	選択	廃止
マーケティング調査法	2	半2	2	選択	
広告論	2	半2	2	選択	
情報学	2	半2	2	選択	
情報ネットワーク基礎	2	半2	2	選択	
経済学ステップアップ	2	半2	2	選択	廃止
証券キャピタルマーケット論	2	半2	2	選択	
経営学ステップアップ	2	半2	2	選択	廃止
ビジネス統計・数学	2	半2	2	選択	廃止
企業の社会的責任	2	半2	2	選択	廃止
社会情報論	2	半2	2	選択	
こども産業論	2	半2	2	選択	
人的資源論	2	半2	2	選択	
リスクマネジメント論	2	半2	2	選択	
AIの社会実装	2	半2	2	選択	
ディスクロージャー論	2	半2	2	選択	履修年次変更
国際環境政策論	2	半2	2	選択	履修年次変更・廃止
経営哲学	2	半2	3	選択	欠講
財務諸表論	2	半2	3	選択	
経済政策論	2	半2	3	選択	
ベンチャービジネス論	2	半2	3	選択	廃止
ネットビジネス論	2	半2	3	選択	廃止
女性企業家論	2	半2	3	選択	
国際ビジネス論	2	半2	3	選択	
ITとベンチャービジネス	2	半2	3	選択	
日本経済史	2	半2	3	選択	
AI実践演習	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(G)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(G)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(H)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(H)	2	半2	3	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
公共政策と法コース					
地方行政論	2	半2	2	選択	
外交論	2	半2	2	選択	
安全保障論	2	半2	2	選択	廃止
社会保障論	2	半2	2	選択	
憲法	2	半2	2	選択	変更・欠講
憲法Ⅱ	2	半2	2	選択	廃止
民法Ⅰ	2	半2	2	選択	
民法Ⅱ	2	半2	2	選択	
現代社会と犯罪	2	半2	2	選択	
刑法総論	2	半2	2	選択	
刑法各論	2	半2	2	選択	
商法	2	半2	2	選択	欠講
民事訴訟法	2	半2	2	選択	
労働法	2	半2	2	選択	
刑事訴訟法	2	半2	2	選択	
家族法	2	半2	2	選択	
国際法	2	半2	2	選択	廃止
行政法	2	半2	2	選択	廃止
ジェンダー法	2	半2	2	選択	
こどもと法	2	半2	2	選択	廃止
公共政策	2	半2	2	選択	
公共哲学	2	半2	2	選択	欠講
現代の政治	2	半2	3	選択	廃止
国際社会協力政策論	2	半2	3	選択	
公務員と法	2	半2	3	選択	欠講
国際社会と公共政策	2	半2	3	選択	
国連政策論	2	半2	3	選択	
都市政策論	2	半2	3	選択	廃止
物権法の重要問題	2	半2	3	選択	
債権法の重要問題	2	半2	3	選択	
刑法の重要問題	2	半2	3	選択	
刑事司法の重要問題	2	半2	3	選択	
企業と法	2	半2	3	選択	廃止
社会保障と法	2	半2	3	選択	
税金と法	2	半2	3	選択	
知的財産権法	2	半2	3	選択	廃止
金融取引と法	2	半2	3	選択	欠講
家族法の重要問題	2	半2	3	選択	
社会政策	2	半2	3	選択	
社会安全政策論	2	半2	3	選択	
Academic Studies in English Ⅰ(I)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(I)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅰ(J)	2	半2	3	選択	読替
Academic Studies in English Ⅱ(J)	2	半2	3	選択	読替

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
京都・大阪・奈良の歴史地理	2	京都・大阪の歴史地理
こども家庭福祉	2	こども福祉論
ヨーロッパの地域文化論	2	ヨーロッパの地域文化論Ⅰ
消費者行動論	2	流通論
憲法	2	憲法Ⅰ

読替措置について

次頁参照。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
社会福祉論	2	**社会福祉学概論**
東洋の歴史Ⅰ	2	**東洋の歴史**
Academic Studies in English Ⅰ(A)	2	Academic Studies in English Ⅰ(A)
Academic Studies in English Ⅱ(A)	2	Academic Studies in English Ⅱ(A)
Academic Studies in English Ⅰ(B)	2	Academic Studies in English Ⅰ(A)
Academic Studies in English Ⅱ(B)	2	Academic Studies in English Ⅱ(A)
Academic Studies in English Ⅰ(C)	2	Academic Studies in English Ⅰ(B)
Academic Studies in English Ⅱ(C)	2	Academic Studies in English Ⅱ(B)
Academic Studies in English Ⅰ(D)	2	Academic Studies in English Ⅰ(B)
Academic Studies in English Ⅱ(D)	2	Academic Studies in English Ⅱ(B)
Academic Studies in English Ⅰ(E)	2	Academic Studies in English Ⅰ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅱ(E)	2	Academic Studies in English Ⅱ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅰ(F)	2	Academic Studies in English Ⅰ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅱ(F)	2	Academic Studies in English Ⅱ(C)/(D)
Academic Studies in English Ⅰ(G)	2	Academic Studies in English Ⅰ(E)
Academic Studies in English Ⅱ(G)	2	Academic Studies in English Ⅱ(E)
Academic Studies in English Ⅰ(H)	2	Academic Studies in English Ⅰ(E)
Academic Studies in English Ⅱ(H)	2	Academic Studies in English Ⅱ(E)
Academic Studies in English Ⅰ(I)	2	Academic Studies in English Ⅰ(F)
Academic Studies in English Ⅱ(I)	2	Academic Studies in English Ⅱ(F)
Academic Studies in English Ⅰ(J)	2	Academic Studies in English Ⅰ(F)
Academic Studies in English Ⅱ(J)	2	Academic Studies in English Ⅱ(F)

＊Academic Studies in English Ⅰ(A)～Ⅰ(J)，Academic Studies in English Ⅱ(A)～Ⅱ(J)の新科目名及び授業コードは開講科目表にある「指定クラス等」の欄で十分確認すること

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

コミュニケーション系科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Academic Reading and Discussion Ⅰ	2	春2	2	必修	
Academic Reading and Discussion Ⅱ	2	秋2	2	必修	
選択					
Communication Skills Ⅰ	1	半2	1	選択	
Communication Skills Ⅱ	1	半2	1	選択	
Academic Writing and Discussion Ⅰ	2	半2	2	選択	
Academic Writing and Discussion Ⅱ	2	半2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

総合キャリア科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
情報活用科目					
選択					
情報リテラシー実習Ⅰ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅱ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅲ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅳ	2	半2	2	選択	変更
情報リテラシー実習Ⅴ	2	半2	2	選択	変更
キャリアデザイン科目					
選択					
海外事情（アジアと女性）	2	秋2	1	選択	欠講
キャリアアップ英語Ⅰ	2	半2	1	選択	
キャリアアップ英語Ⅱ	2	半2	1	選択	
ライフデザイニング	2	半2	2	選択	
World Affairs Ⅰ	2	半2	2	選択	
World Affairs Ⅱ	2	半2	2	選択	
キャリアアップ英語Ⅲ	2	半2	2	選択	
キャリアアップ英語Ⅳ	2	半2	2	選択	
Communication Skills for Work Ⅰ	2	半2	3	選択	
Communication Skills for Work Ⅱ	2	半2	3	選択	
English for Work Ⅰ	2	半2	3	選択	欠講
English for Work Ⅱ	2	半2	3	選択	欠講
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	
プロジェクト科目					
選択					
プロジェクト演習Ⅰ	2	通2	2	選択	廃止
プロジェクト演習Ⅰ(A)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(B)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(C)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(D)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(E)	2	通2	2	選択	新設
プロジェクト演習Ⅰ(F)	2	通2	2	選択	新設
Project-Based English Ⅰ	2	通2	2	選択	
プロジェクト演習Ⅱ	2	通2	3	選択	
Project-Based English Ⅱ	2	通2	3	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「海外事情（アジアと女性）」
選考に合格した学生のみ履修できる。卒業年次生履修不可。
「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。
「プロジェクト演習Ⅰ(A)～Ⅰ(F)」「プロジェクト演習Ⅱ」
選考に合格した学生のみ履修できる。
「Project-Based EnglishⅠ」「Project-Based EnglishⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済みの場合は履修出来ないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
情報リテラシー実習Ⅰ	2	情報活用実習Ⅰ
情報リテラシー実習Ⅱ	2	情報活用実習Ⅱ
情報リテラシー実習Ⅲ	2	情報活用実習Ⅲ
情報リテラシー実習Ⅳ	2	情報活用実習Ⅳ
情報リテラシー実習Ⅴ	2	情報活用実習Ⅴ

共通学芸科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1	欠講	
西洋の思想Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の思想Ａ	2	半2	1	欠講	
日本の思想Ｂ	2	半2	1	欠講	
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1		
自然科学史	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
データサイエンス基礎	2	秋2	1	2022~2023年度入学生のみ履修可 読替	
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1		
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学Ａ
文化人類学Ｂ	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち，左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan StudiesＡ	2	秋2	1		
Japan StudiesＢ	2	秋2	1		
Japan StudiesＣ	2	秋2	1		
Japan StudiesＤ	2	秋2	1		
Japan StudiesＥ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1		
寄付講座	2	半2	1		
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（本学Webサイト「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月（夏期），10月（春期）に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan StudiesＡ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

（前頁より続く）

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
データサイエンス基礎	2	データサイエンス・AI基礎

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語（2018年度入学生適用）					
英語講読ＩＡ	1	春2	1	必修	読替
英語講読ＩＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーションＩＡ	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーションＩＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語（2019年度以降入学生適用）					
Comprehensive EnglishⅠ	1	春2	1	必修	
Comprehensive EnglishⅡ	1	秋2	1	必修	
Communication in EnglishⅠ	1	春2	1	必修	
Communication in EnglishⅡ	1	秋2	1	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	廃止
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	廃止
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	廃止
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	廃止
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	廃止
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	廃止
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	廃止
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	廃止
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	廃止
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	廃止
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語4単位を選択必修。「1つの言語4単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計4単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計4単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について

「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週2回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

3．語学特別プログラム

国際化の進んだ今日の社会状況の中で，極めて高度な語学運用能力を身につけるため，CASEプログラム（英語），ラピートプログラム（中国語）を実施している。

受講するためには，特別な手続を必要とする。

CASE(Career and Academic Studies in English)プログラム(英語)

1年次から3年次の3年間のプログラムで，上級と中級のグレードがあり，Native Speaker教員による授業を，以下のとおり必修扱いで受講することになる。クラスが指定されている科目もあるので，開講科目表を参照のこと。

参加希望の有無を入学式前後の英語適性検査時に調査する。希望者多数の場合は，英語プレイスメントテストの結果により選考する。2年次以降のクラス変更については，現代社会学部事務室まで問い合わせること。

（2023年度入学生）

（1年次）	上級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
	中級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
（2年次）	上級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Writing and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Project-Based English Ⅰ	いずれかを選択必修
		World Affairs Ⅰ・Ⅱ	いずれかを選択必修
	中級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Writing and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Tourism, Culture, and Technology Ⅰ・Ⅱ	いずれかを選択必修
		キャリアアップ英語Ⅲ・Ⅳ	いずれかを選択必修
（3年次）	上級クラス	Academic Studies in English Ⅰ(A)・Ⅱ(A)	
		Academic Studies in English Ⅰ(C)・Ⅱ(C)	
		Academic Studies in English Ⅰ(E)・Ⅱ(E)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(G)・Ⅱ(G)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(I)・Ⅱ(I)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Project-Based English Ⅱ	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
	中級クラス	Academic Studies in English Ⅰ(B)・Ⅱ(B)	
		Academic Studies in English Ⅰ(D)・Ⅱ(D)	
		Academic Studies in English Ⅰ(F)・Ⅱ(F)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(H)・Ⅱ(H)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(J)・Ⅱ(J)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Communication Skills for Work Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修

（2022年度以前入学生）

（1年次）	上級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
	中級クラス	Comprehensive English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication in English Ⅰ・Ⅱ	
		Communication Skills Ⅰ・Ⅱ	
（2年次）	上級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Writing and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Project-Based English Ⅰ	4単位選択必修
		World Affairs Ⅰ・Ⅱ	4単位選択必修
		国際教養学科科目，JSP科目，英語英文学科科目※	4単位選択必修
	中級クラス	Academic Reading and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Academic Writing and Discussion Ⅰ・Ⅱ	
		Tourism, Culture, and Technology Ⅰ・Ⅱ	4単位選択必修
		国際教養学科科目，JSP科目，英語英文学科科目※	4単位選択必修
		キャリアアップ英語Ⅲ・Ⅳ	4単位選択必修
（3年次）	上級クラス	Academic Studies in English Ⅰ(A)・Ⅱ(A)	
		Academic Studies in English Ⅰ(C)・Ⅱ(C)	
		Academic Studies in English Ⅰ(E)・Ⅱ(E)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(G)・Ⅱ(G)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(I)・Ⅱ(I)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		国際教養学科科目，JSP科目，英語英文学科科目※	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Project-Based English Ⅱ	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
	中級クラス	Academic Studies in English Ⅰ(B)・Ⅱ(B)	
		Academic Studies in English Ⅰ(D)・Ⅱ(D)	
		Academic Studies in English Ⅰ(F)・Ⅱ(F)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(H)・Ⅱ(H)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Academic Studies in English Ⅰ(J)・Ⅱ(J)	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		国際教養学科科目，JSP科目，英語英文学科科目※	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修
		Communication Skills for Work Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱセットで8単位選択必修

※「Presentation Skills Ⅰ・Ⅱ」，「Studies in English A ～ K」，「Advanced Studies in English A～L」，「Advanced Presentation Ⅰ・Ⅱ」

ラピートプログラム（中国語）

2年次からの2年間のプログラムで，日本人教員による授業を週2コマと，Native Speaker教員による授業を週2コマ，計週4コマの授業を2年間にわたって受講することになる。募集は1年次の11月中旬に実施するので，掲示等に注意しておくこと。

※プログラムに参加する場合，他の選択科目の履修に一部制約を受けることがある。不明な点については現代社会学部事務室まで問い合わせること。

4．全般事項

a．1年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。

b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

d．「Study Abroad : English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive English Ⅰ
英語講読ⅠB	1	Comprehensive English Ⅱ
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in English Ⅰ
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in English Ⅱ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。

登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修4単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する4単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，20単位＋4単位＝24単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

データサイエンス・AI科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
実践					
選択					
データサイエンスのためのAIプログラミング入門	2	半2	1	選択	
データサイエンスのための統計入門	2	半2	1	選択	
ことばのデータサイエンス	2	半2	1	選択	
実践から学ぶAI入門	2	半2	1	選択	

履修上の注意

1．最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
2．DWCLAデータサイエンス・AIプログラムについては，「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」のページで確認すること。

ゼミナール科目（最低8単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業研究Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業研究Ⅱ	2	秋2	4	必修	
選択					
専門基礎演習	2	春2	2	選択	

履修上の注意

選択科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
コンピュータ活用	2	半2	1	自由選択	読替
博物館実習	3	通2	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
コンピュータ活用	2	データサイエンス・ICT活用基礎

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

カリキュラム

現代社会学部　現代こども学科

（2025年度以降入学生適用）

現代社会学部　現代こども学科　教育理念・目標

〈教育理念〉

現代社会学部現代こども学科は，同志社女子大学の教育理念である「キリスト教主義」，「国際主義」，「リベラル・アーツ」を礎として，こどもの視点からよりよい社会の創造をめざし，その実現のために行動できる人物を育成する。

第一に，自分のためだけでなく，こども（他者）のために学び生きることができる者（キリスト教主義）。

第二に，世界的な視野に立って，人類や自然の共生に取り組むことのできる者（国際主義）。

第三に，多様で学際的な学問を修めることで広範な視野を養い，総合的な判断力と創造力を身に付けることのできる者（リベラル・アーツ主義）。

〈目標〉

教育理念の実現に向けて，こどもを多面的に理解しながら，日本や世界のこどもを取り巻く社会的諸課題を学際的に探究し，その解決方法を創造的にデザインし，発信していく力を育てる。

こどもに関わる専門的内容を修得して世界の見方を広げるとともに，課題の探究を通して，あらゆる分野で必要な「問題解決能力」と「コミュニケーション能力」を身に付ける。

〈カリキュラムの特徴〉

先に掲げた教育理念・目標の達成に向けて，子どもの権利条約を踏まえて，こども学を【生きる】【守られる】【育つ】【参加する】の 4 つの領域から構成されるものとして捉え，各領域に関連する専門教育科目を配置し，学年進行とともに系統的，発展的に学びが深まる教育内容とする。

具体的には，専門教育科目を，【生きる】【守られる】【育つ】【参加する】の領域で構成し，各領域に 2 つのユニットを設ける。【生きる】には《こどもと発達》《こどもと福祉》を，【守られる】には《こどもとケア》《こどもと多様性》を，【育つ】には《こどもと教育》《こどもと社会》を，【参加する】には《こどもと遊び》《こどもと表現》を設け，それぞれに専門教育科目を配置する。

導入科目では，こども学の基礎として，こども学の領域と総合性を理解し，大学での学修方法と研究アプローチなどの基礎的知識を修得する。

入門・概論科目では，現代社会に生きるこどもについての豊かな知識を身に付け，国内外の多様性や歴史的変化に対する関心をもち，批判的思考と問題発見・解決能力を修得する。

応用・各論科目では，こども学に関する高度な専門的知識・技能を学修する。

領域【生きる】では，こどもを取り巻く社会のウェルビーイングを高めるために必要な知識・技能を学ぶ。

領域【守られる】では，グローバルな視点に立ってこどもを取り巻く国内外の問題を理解し，批判的思考，および，問題発見・解決能力を身に付ける。

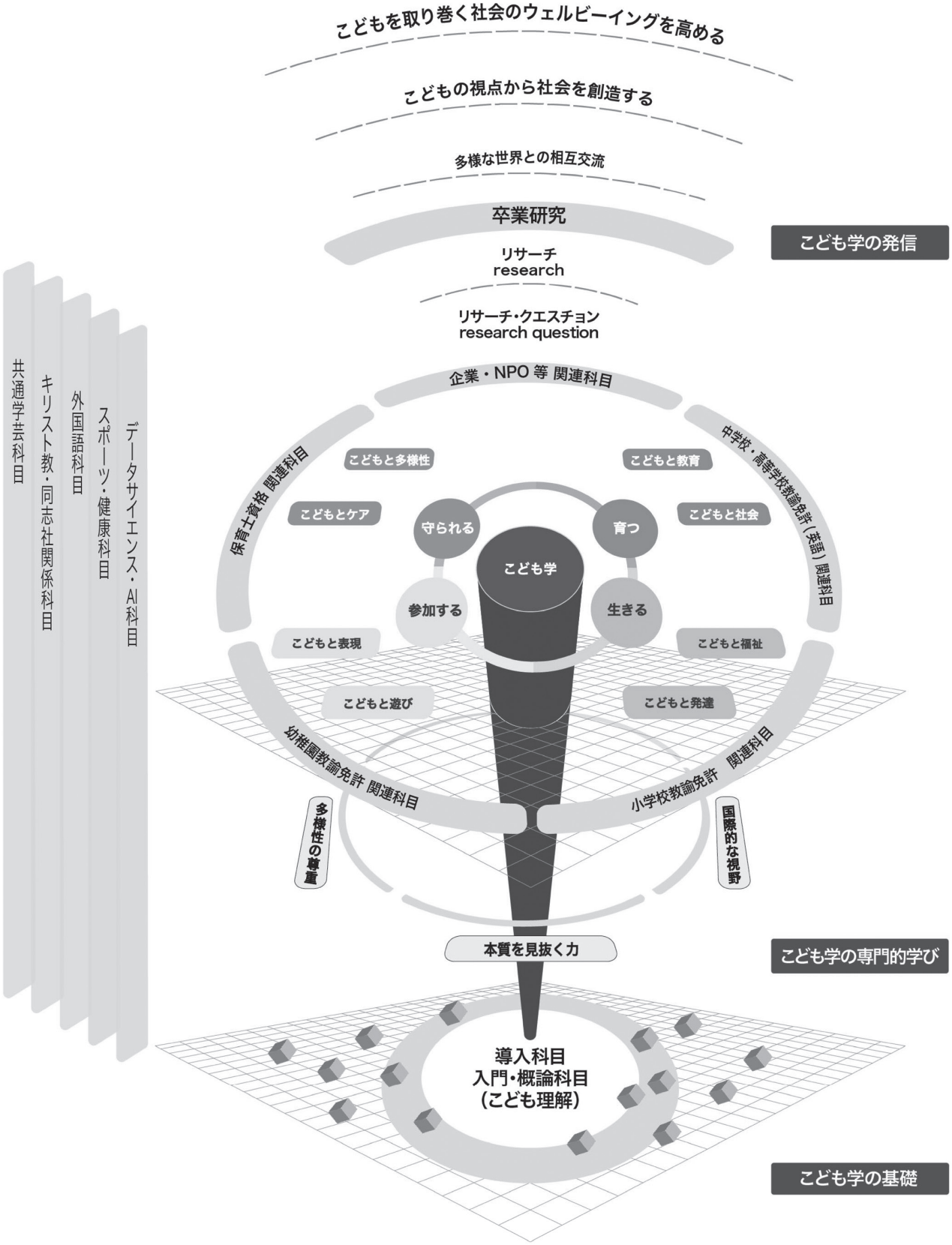
領域【育つ】では，こどもの保育・教育に関する知識・技能，および，コミュニケーション能力・マネジメント能力，情報リテラシーを修得する。

領域【参加する】では，こどもと遊び，表現，身体性に関する知識について学ぶとともに，創造的に想像する能力を身に付ける。

ゼミナール科目では，こども学をさらに深く探究的に学び，キャリアの実現に向けた総合力を身に付ける。

免許資格については，保育士資格，幼稚園教諭一種免許，小学校教諭一種免許，中学校・高等学校教諭一種免許（英語）の取得に関わる科目を配置し，こどもの支援に関する専門的な知識・技能を修得するとともに，専門的職業人として生涯にわたって自律的に学び続ける態度を身に付ける。

現代社会学部 現代こども学科　カリキュラム概念図



2025～GK

現代社会学部　現代こども学科　科目配置表 <2025年度以降入学生 >

開講期は年度によって異なることがあります。

			1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
			必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
導入科目			●	基礎演習	1																						3
			●	現代こども学概論	2																						
入門・概論科目			A	遊びの社会学	2	●	教育とこどもの社会史	2	A	教育社会学	2	A	地域社会とこども	2													14
			A	児童文化論	2	●	こどもの発達心理学	2				A	世界のこども政策	2													
			A	こどもスポーツ論	2	A	こどもと風俗	2		生涯発達心理学	2	A	こども産業論	2													
				社会学概論	2	A	社会福祉学概論	2		ジェンダー論	2																必修 4 単位
				文化人類学概論	2		京都学概論	2		生命の倫理	2																選択必修 A 群 6 単位
				京都観光学概論	2		博物館概論	2		社会的養護Ⅰ	2															
				教育学概論	2		経営学概論	2																			
				心理学概論	2		法学概論	2																			
				経済学概論	2		政治学概論	2																			
応用・各論科目	生きる	こどもと発達							B	こどもと人間関係	1	B	対人関係心理学	2	B	こども理解の理論と方法	2									52
									B	児童理解と生徒・進路指導	2				B	教育相談	2									
		こどもと福祉				B	こどもと健康	1	●	こども家庭福祉	2		レジャースポーツ論	2												
									B	生涯学習論	2															
	守られる	こどもとケア	B	ボランティア活動論	2							●	特別支援教育	2	B	こどもの医療	2	B	家族臨床心理学	2						
															B	こども家庭支援の心理学	2									
															B	こども家庭支援論	2									
		こどもと多様性	B	異文化体験論	2				●	多文化共生とこども	2															
									B	世界の貧困問題とこども支援	2															
	育つ	こどもと教育	●	教職論	2	B	保育者論	2	B	こども英語論	2	B	教育評価論	2	B	道徳教育論	2									
			B	教育の歴史	2	B	数の社会学	2	B	理科実験・ものづくり	2	B	教育方法と技術（ICT の活用を含む）	2	B	特別活動論	2									
									B	学習環境デザイン	2					教職演習	2									
									B	教育課程論	2															
		こどもと社会	B	地球環境論	2	B	こどもと環境	1	●	こどもデータサイエンス	2	B	コミュニケーションデザイン	2				B	現代社会論	2						
												B	こどもキャリアデザイン演習	1				B	家族社会論	2						
	参加する	こどもと遊び				●	保育内容総論	2	B	自然環境体験論	2							B	児童文学論	2						
						B	現代アニメ研究	2																		
			B	遊びと論理的思考	2	B	こどもの遊び実践論	2	B	こどもと言葉	1															
		こどもと表現		身体表現	2				B	幼児音楽	2	B	こどもと造形表現	1				B	こどもとアート	2						
												B	こどもと音楽表現	1				B	メディア表現ワークショップ	2						
										ピアノ奏法Ⅰ	1		ピアノ奏法Ⅱ	1		ピアノ奏法Ⅲ	1		ピアノ奏法Ⅳ	1						
	免許・資格科目（注）						こどもの保健	2		国語	2		社会	2		音楽	2		音楽科指導法	2						必修 14 単位 選択必修 B 群 16 単位
							保育内容の理解と方法Ⅰ	2		算数	2		国語科指導法	2		図画工作	2		体育科指導法	2						
							保育内容の理解と方法Ⅱ	2		理科	2		社会科指導法	2		家庭	2		外国語（英語）科指導法	2						
										生活	2		算数科指導法	2		体育	2									
										保育カリキュラム論	2		理科指導法	2		外国語（英語）	2									
										乳児保育Ⅰ	2		生活科指導法	2		図画工作科指導法	2									
										こどもの健康と安全	1		保育内容（環境）	2		家庭科指導法	2									
													保育内容（言葉）	2		総合的な学習の時間の指導法	1									
													保育内容指導法総論	2		保育内容（健康）	2									
													こどもの食と栄養	2		保育内容（人間関係）	2									
													乳児保育Ⅱ	1		保育内容（表現）	2									
													子育て支援	1					障がい児保育	2						
																社会的養護Ⅱ	1									
	こども学の実践					●	フィールドワーク入門	2		海外こども事情A	2					初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	5		初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	通年						
										海外こども事情B	2															
										保育実習ⅠA	2		保育実習ⅠA	通年		初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	3		初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	通年						
										保育実習指導ⅠA	1		保育実習指導ⅠA	通年		初等教育実習C	2		初等教育実習C	通年						
										インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年		保育実習ⅠB	2		保育実習ⅠB	通年						
																保育実習指導ⅠB	1		保育実習指導ⅠB	通年						
																保育実習Ⅱ	2		保育実習Ⅱ	通年						
																保育実習Ⅲ	2		保育実習Ⅲ	通年						
																保育実習指導Ⅱ	1		保育実習指導Ⅱ	通年						
																保育実習指導Ⅲ	1		保育実習指導Ⅲ	通年						
共通学芸科目				共通学芸選択科目			［共通学芸選択科目］		●	教育の原理	2	●	教育の制度と経営	2											保育・教職実践演習（幼・小）	2	12 必修 6 単位
				日本国憲法	2		保育原理	2	●	発達と学習の心理学	2															
				他学科科目			［他学科科目］																			
キリスト教・同志社関係科目			●	聖書A	2	●	聖書B	2																		6
			◎	キリスト教・同志社関係選択必修科目			［キリスト教・同志社関係選択必修科目］																			
外国語科目			●	Comprehensive English Ⅰ	1	●	Comprehensive English Ⅱ	1																		8
			●	Communication in English Ⅰ	1	●	Communication in English Ⅱ	1																		
			◎	フランス語，ドイツ語，中国語，イタリア語，スペイン語，ハングル																						
スポーツ・健康科目			◎	スポーツ・健康選択必修科目			［スポーツ・健康選択必修科目］																			2
データサイエンス・AI科目			◎	データサイエンス・AI選択必修科目			［データサイエンス・AI選択必修科目］																			2
ゼミナール科目						●	こども学演習	1							●	応用演習Ⅰ	2	●	応用演習Ⅱ	2	●	卒業研究Ⅰ	2	●	卒業研究Ⅱ	2	9
区分外				＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																						24
合計																										132

<凡例>
1．必・選欄の「●」は必修，「◎，又は，A．B．」は選択必修。
2．［ ］内の科目は，再掲。

（注）免許・資格取得に必要な科目は，「免許・資格関係履修要項」を参照すること

現代社会学部　現代こども学科　卒業必要単位（2025年度以降入学生適用）

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
導入科目	必修　3単位				3単位
入門・概論科目	必修　4単位 選択必修A群　6単位				14単位
応用・各論科目	必修　14単位 選択必修B群　16単位				52単位
共通学芸科目		必修　6単位	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。		12単位
キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位				8単位
スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
データサイエンス・AI科目	選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目	必修　1単位		必修　4単位	必修　4単位	9単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計					108単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）					24単位
卒業に必要な単位					132単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低24単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計132単位以上
注）自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．自由選択科目
4．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ	保育実習ⅠA
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA	保育実習指導ⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	国際教養プロジェクトA	インターンシップⅠB	保育実習ⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外事情(アジアと女性)	インターンシップⅡ	保育実習指導ⅠB
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情A		保育実習Ⅱ
近代日本と同志社D		海外こども事情B		保育実習指導Ⅱ
		人間生活海外事情		保育実習Ⅲ
				保育実習指導Ⅲ
			初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	
			初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	
			初等教育実習C	

教職課程又は保育士養成課程履修希望者は，必ず別冊「免許・資格関係履修要項」を熟読すること。

現代社会学部　現代こども学科　カリキュラム表（2025年度以降入学生適用）

導入科目（3単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
基礎演習	1	春2	1	必修	
現代こども学概論	2	春2	1	必修	

履修上の注意

導入科目はすべて必修科目である。

入門・概論科目（最低14単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
教育とこどもの社会史	2	半2	1	必修	
こどもの発達心理学	2	半2	1	必修	
選択必修A群					
遊びの社会学	2	半2	1	選択必修6単位以上	
児童文化論	2	半2	1		
こどもスポーツ論	2	半2	1		
こどもと風俗	2	半2	1		
社会福祉学概論	2	半2	1		
教育社会学	2	半2	2		
地域社会とこども	2	半2	2		
世界のこども政策	2	半2	2		
こども産業論	2	半2	2		
選択					
社会学概論	2	半2	1	選択	
文化人類学概論	2	半2	1	選択	
京都観光学概論	2	半2	1	選択	
京都学概論	2	半2	1	選択	
博物館概論	2	半2	1	選択	
教育学概論	2	半2	1	選択	
心理学概論	2	半2	1	選択	
経済学概論	2	半2	1	選択	
経営学概論	2	半2	1	選択	
法学概論	2	半2	1	選択	
政治学概論	2	半2	1	選択	
生涯発達心理学	2	半2	2	選択	
ジェンダー論	2	半2	2	選択	
生命の倫理	2	半2	2	選択	
社会的養護Ⅰ	2	春2	2	選択	

履修上の注意

必修4単位，選択必修A群より6単位を含め，最低14単位以上修得すること。
選択必修A群において，6単位を超えて修得した科目の単位は，入門・概論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低52単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
教職論	2	半2	1	必修	
保育内容総論	2	秋2	1	必修	
フィールドワーク入門	2	半2	1	必修	
こども家庭福祉	2	春2	2	必修	
特別支援教育	2	半2	2	必修	
多文化共生とこども	2	半2	2	必修	
こどもデータサイエンス	2	半2	2	必修	
選択必修Ｂ群					
こどもと健康	1	秋1	1	選択必修16単位以上	
こどもと環境	1	秋1	1		
ボランティア活動論	2	半2	1		
異文化体験論	2	半2	1		
教育の歴史	2	半2	1		
保育者論	2	秋2	1		
数の社会学	2	半2	1		
地球環境論	2	半2	1		
現代アニメ研究	2	半2	1		
遊びと論理的思考	2	半2	1		
こどもの遊び実践論	2	半2	1		
こどもと人間関係	1	春1	2		
こどもと言葉	1	春1	2		
こどもと造形表現	1	秋1	2		
こどもと音楽表現	1	秋1	2		
児童理解と生徒・進路指導	2	半2	2		
対人関係心理学	2	半2	2		
生涯学習論	2	半2	2		
世界の貧困問題とこども支援	2	半2	2		
こども英語論	2	半2	2		
理科実験・ものづくり	2	半2	2		
学習環境デザイン	2	半2	2		
教育課程論	2	半2	2		
教育方法と技術（ICTの活用を含む）	2	半2	2		
教育評価論	2	半2	2		
コミュニケーションデザイン	2	半2	2		
こどもキャリアデザイン演習	1	半2	2		
自然環境体験論	2	半2	2		
幼児音楽	2	半2	2		
こども理解の理論と方法	2	春2	3		
教育相談	2	半2	3		
こどもの医療	2	半2	3		
家族臨床心理学	2	半2	3		
こども家庭支援の心理学	2	春2	3		
こども家庭支援論	2	春2	3		
道徳教育論	2	半2	3		
特別活動論	2	半2	3		
現代社会論	2	半2	3		
家族社会論	2	半2	3		
児童文学論	2	半2	3		
こどもとアート	2	半2	3		
メディア表現ワークショップ	2	半2	3		
選択					
レジャースポーツ論	2	半2	2	選択	
国語	2	半2	2	選択	
社会	2	半2	2	選択	
理科	2	半2	2	選択	
生活	2	半2	2	選択	
算数	2	半2	2	選択	
家庭	2	半2	3	選択	
体育	2	半2	3	選択	
音楽	2	半2	3	選択	
図画工作	2	半2	3	選択	
外国語（英語）	2	半2	3	選択	
保育内容（環境）	2	半2	2	選択	
保育内容（言葉）	2	半2	2	選択	
保育内容（表現）	2	半2	3	選択	
保育内容（健康）	2	半2	3	選択	
保育内容（人間関係）	2	半2	3	選択	
乳児保育Ⅰ	2	春2	2	選択	
障がい児保育	2	秋2	3	選択	
社会的養護Ⅱ	1	春2	3	選択	
算数科指導法	2	半2	2	選択	
国語科指導法	2	半2	2	選択	
社会科指導法	2	半2	2	選択	
理科指導法	2	半2	2	選択	
生活科指導法	2	半2	2	選択	
家庭科指導法	2	半2	3	選択	
図画工作科指導法	2	半2	3	選択	
体育科指導法	2	半2	3	選択	
音楽科指導法	2	半2	3	選択	
外国語（英語）科指導法	2	半2	3	選択	
総合的な学習の時間の指導法	1	半2	3	選択	
保育内容指導法総論	2	秋2	2	選択	
保育カリキュラム論	2	春2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
こどもの保健	2	秋2	1	選択	
保育内容の理解と方法Ⅰ	2	秋2	1	選択	
保育内容の理解と方法Ⅱ	2	秋2	1	選択	
こどもの健康と安全	1	春2	2	選択	
こどもの食と栄養	2	秋2	2	選択	
子育て支援	1	秋2	2	選択	
乳児保育Ⅱ	1	秋2	2	選択	
身体表現	2	半2	1	選択	
海外こども事情Ａ	2	半2	2	選択	欠講
海外こども事情Ｂ	2	半2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅰ	1	春2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅲ	1	春2	3	選択	
ピアノ奏法Ⅳ	1	秋2	3	選択	
教職演習	2	半2	3	選択	
インターンシップⅡ	2	通2	2	選択	
保育実習ＩＡ	2	通2	2	選択	
保育実習指導ＩＡ	1	通1/2	2	選択	
保育実習Ⅱ	2	通2	3	選択	
保育実習指導Ⅱ	1	通1/2	3	選択	
初等教育実習Ａ（事前・事後指導を含む）	5	通2	3	選択	
初等教育実習Ｂ（事前・事後指導を含む）	3	通2	3	選択	
初等教育実習Ｃ	2	通2	3	選択	
保育実習ＩＢ	2	通2	3	選択	
保育実習指導ＩＢ	1	通1/2	3	選択	
保育実習Ⅲ	2	通2	3	選択	
保育実習指導Ⅲ	1	通1/2	3	選択	

履修上の注意

必修14単位，選択必修Ｂ群より16単位を含め，最低52単位を修得すること。
選択必修Ｂ群において，16単位を超えて修得した科目の単位は，応用・各論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

次の科目を履修することができる者は，保育士養成課程学生に限る。
「こどもの食と栄養」「保育内容の理解と方法Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅱ」「乳児保育Ⅱ」「こどもの健康と安全」「障がい児保育」「社会的養護Ⅱ」「子育て支援」「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」

「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」はいずれか１科目しか履修できない。

「保育実習指導ＩＡ」「保育実習指導ＩＢ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」において，それぞれの実習科目の事前・事後指導を行うため，実習指導科目とそれに対応する実習科目はセット登録すること。
「保育実習Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」及び「保育実習指導Ⅲ」から３単位選択必修

個別の授業科目に関する注意

１．「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。

２．以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

ａ．「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育原理」「保育者論」「こどもの保健」「保育内容総論」「こどもの発達心理学」「こども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「乳児保育Ⅰ」

ｂ．「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「社会福祉学概論」「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」

ｃ．「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「乳児保育Ⅱ」「保育カリキュラム論」

ｄ．「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「社会的養護Ⅱ」「こども家庭支援論」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」

共通学芸科目（必修科目 6 単位を含めて最低12単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
教育と人間				
保育原理	2	秋2	1	
教育の原理	2	半2	2	必修
発達と学習の心理学	2	半2	2	必修
教育の制度と経営	2	半2	2	必修
保育･教職実践演習(幼・小)	2	半2	4	
人間と思想				
哲学Ａ	2	半2	1	
哲学Ｂ	2	半2	1	
西洋の思想Ａ	2	半2	1	欠講
西洋の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の思想Ａ	2	半2	1	
日本の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学Ａ	2	半2	1	
心理学Ｂ	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論Ａ	2	半2	1	
国際関係論Ｂ	2	半2	1	
国際社会と経済Ａ	2	半2	1	
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会Ａ	2	半2	1	
人間と社会Ｂ	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
社会保障と福祉	2	半2	1	
介護概説	2	半2	1	
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性Ａ	2	半2	1	
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1	
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1	
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1	
アジア地域研究Ａ	2	半2	1	
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1	
日本古典芸能Ａ	2	半2	1	
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化Ａ	2	半2	1	
京都の文化Ｂ	2	半2	1	
京都の文化Ｃ	2	半2	1	
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2	
京都の歴史Ａ	2	半2	1	
京都の歴史Ｂ	2	半2	1	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan StudiesＡ	2	秋2	1	
Japan StudiesＢ	2	秋2	1	
Japan StudiesＣ	2	秋2	1	
Japan StudiesＤ	2	秋2	1	
Japan StudiesＥ	2	秋2	1	欠講
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	
寄付講座	2	半2	1	
キャリア教育科目				
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップＩＡ	1	通1	2	
インターンシップＩＢ	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目は備考欄に必修と記載されているものを除き，すべて選択科目である。
学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（本学Webサイト「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低履修単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月(夏期)，10月(春期)に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan StudiesＡ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	選択必修	
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	2単位	
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	以上	
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFL Ⅰ	2			選択	
TOEFL Ⅱ	2			選択	
TOEFL Ⅲ	2			選択	
TOEIC Ⅰ	2			選択	
TOEIC Ⅱ	2			選択	
TOEIC Ⅲ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTS Ⅰ	2			選択	
IELTS Ⅱ	2			選択	
IELTS Ⅲ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語 4 単位を選択必修。「1つの言語 4 単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について

「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週 2 回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

3．語学特別プログラム

国際化の進んだ今日の社会状況の中で，極めて高度な語学運用能力を身につけるため，ラピートプログラム（中国語）を実施している。
受講するためには，特別な手続を必要とする。

ラピートプログラム（中国語）

2年次からの2年間のプログラムで，日本人教員による授業を週2コマと，Native Speaker教員による授業を週2コマ，計週4コマの授業を2年間にわたって受講することになる。募集は1年次の11月下旬に実施するので，掲示等に注意しておくこと。

※プログラムに参加する場合，他の選択科目の履修の一部制約を受けることがある。不明な点については現代社会学部事務室まで問い合わせること。

4．全般事項

a．1年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。

b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

d．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修4単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する4単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，14単位＋4単位＝18単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

データサイエンス・AI科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
基礎					
選択必修					
データサイエンス・AI基礎	2	半2	1	選択必修2単位以上	
データサイエンス・ICT活用基礎	2	半2	1		
実践					
選択					
データサイエンスのためのAIプログラミング入門	2	半2	1	選択	
データサイエンスのための統計入門	2	半2	1	選択	
ことばのデータサイエンス	2	半2	1	選択	
実践から学ぶAI入門	2	半2	1	選択	

履修上の注意

1．最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
2．DWCLAデータサイエンス・AIプログラムについては，「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」のページで確認すること。

ゼミナール科目（9単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
こども学演習	1	秋2	1	必修	
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業研究Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業研究Ⅱ	2	秋2	4	必修	

履修上の注意

ゼミナール科目はすべて必修である。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
教職特別演習Ⅰ	2	半2	3	自由選択	
教職特別演習Ⅱ	2	半2	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

カリキュラム

現代社会学部　現代こども学科

（2024年度入学生適用）

現代社会学部　現代こども学科　教育理念・目標

こどもは，社会の重要な構成員であると共に，社会の変化を映し出す鏡です。本学科の目標は，こどもを多面的に理解しながら，日本や世界のこどもを取り巻く社会的諸課題を学際的に探究し，その解決方法を創造的にデザインし，発信していく力を育てることです。

このように，こどもに関わる専門的内容を修得して世界の見方を広げるとともに，課題の探究を通して，あらゆる分野で必要な「問題解決能力」と「コミュニケーション能力」を身に付けることを目指しています。これらの力は，未来を担うこどもが大切にされる社会をつくるために，教育，福祉，こども産業をはじめとする企業など，様々な職業分野で生かすことができます。

そして，何より大切にしている本学科の教育理念は，「こども」という窓口を通して，自分をどのように成長させるかということです。次のような人間教育を重視しているのです。

第一に，自分のためだけではなく，こども（他者）のためにも学び生きること。（キリスト教主義）

第二に，世界的な視野に立って，人類や自然の共生に取り組むこと。（国際主義）

第三に，多様で学際的な学問を修めることで広範な視野を養い，総合的な判断力と創造力を身に付けること。（リベラル・アーツ主義）

このような教育理念を実現するための本学科のカリキュラムには，以下のような特徴があります。

⑴１年次の導入教育の充実

大学で学ぶことの意味と大学４年間の見通しを，「こども」をとりまく諸問題に取り組むことで考えていきます（「現代こども学概論」）。更には豊かな人間関係を築ける少人数クラスで，学びの技法も身に付けていきます（「基礎演習」）。

⑵こども理解を基礎とした学び

まず，こどもとは何かを幅広く理解します。こどもの遊び，こども産業，こどもの文化，こどもの発達，児童虐待など。更にはこうしたこども理解を支える多様な学問も，共通学芸科目（思想，環境，社会，女性，文化，歴史，教育などの分野）として学んでいき，総合的な判断力と創造力を身に付けることを目指しています。

⑶こどもをケアするという原理

近代の教育において支配的であった，知識や技術を与える「ティーチング」の原理は，学校におけるいじめや不登校など，限界を示すようになってきました。本学科では，昔から人類が営んできた「ケア」することを原理とすることにしました。これはひとことで言えば，互いに心をくだく（心をくばる）関係です。「ケア」が理想とするのは，「誰もが他人から応えられ仲間に入れてもらえ，一人ぼっちで置き去りにされ傷つけられるような人はいない」人間関係です。隣人を愛し，他者に仕える心にもつながっていきます。そのために，どのような環境をデザインしていけばいいのか，こども理解の科目の基礎の上に立って考えていきます。これらは，学びと育ちの内容とアート（技術）の科目系列で学んでいきます。

⑷世界的な広い視野

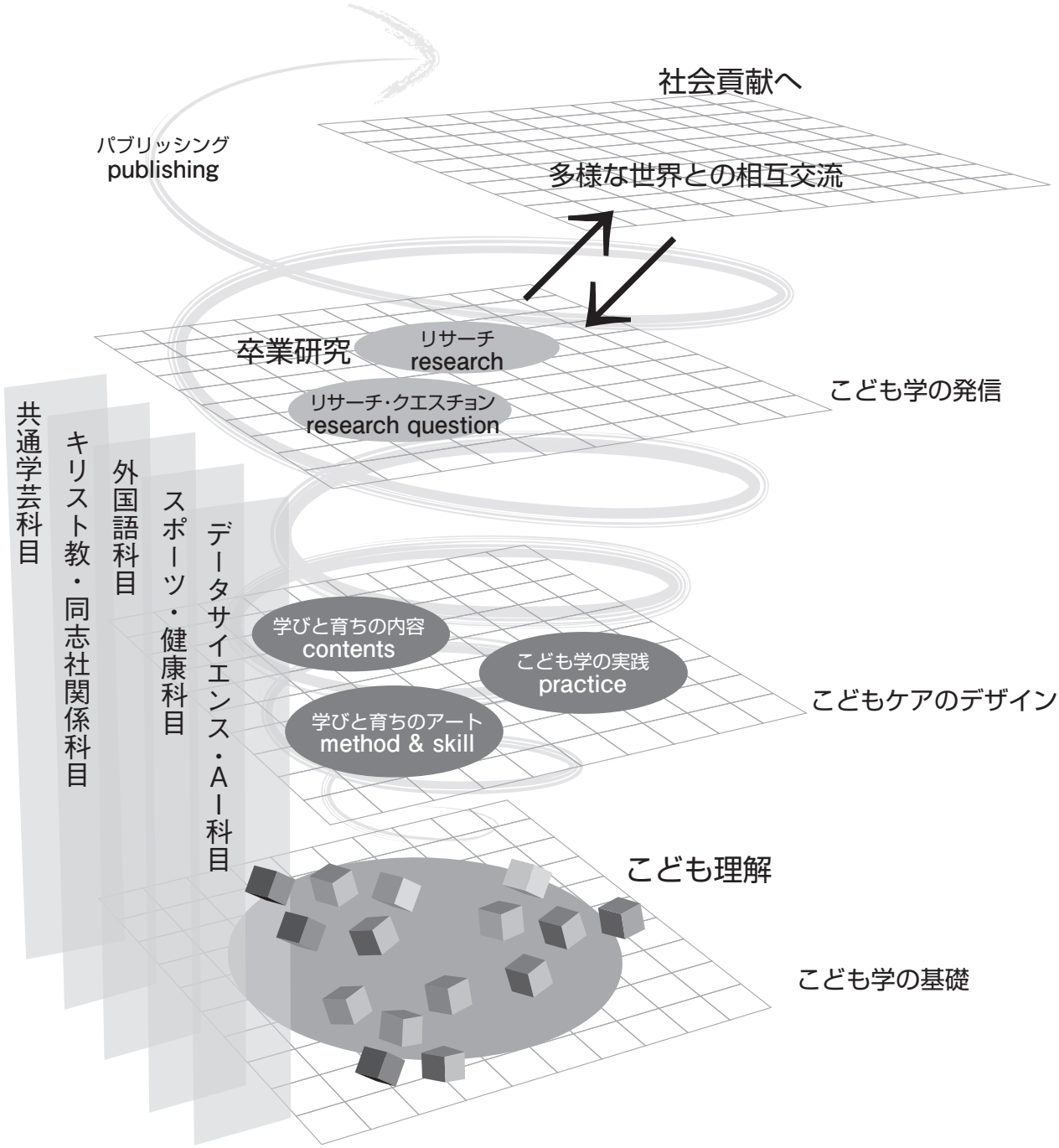
世界のこどもが置かれている状況や，様々な国のこども政策を学び，世界的な広い視野に立って，こどもについて考えていきます。「世界の貧困問題とこども支援」，「多文化共生とこども」，「世界のこども政策」などの授業科目や，実際に海外に出かけて学びを深める「海外こども事情」などがあります。

⑸発信・社会貢献

こどもについて学ぶ中で，様々なリサーチすべき課題が見出されてきます。それを「応用演習」や「卒業研究」などのゼミナール科目で探究していきます。その学びの成果を社会へ発信していき，社会と相互交流していきます。地域のこどもたちとの交流など，ささやかながらも社会貢献につながっていくこともあります。その経験が，自分のためだけではなく，他者のためにも学び生きることにつながっていきます。

以上のような特色あるカリキュラムによって学ぶ中で，ひとりひとりが人間として成長できることを目指しています。

現代社会学部 現代こども学科　カリキュラム概念図



現代社会学部　現代こども学科　科目配置表 <2024年度入学生 >

開講期は年度によって異なることがあります。

			1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要最低単位
			必・選	春学期	単位	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	秋学期	単位	
導入科目	こども学の基礎		●	基礎演習	1																		3
			●	現代こども学概論	2																		
入門・概論科目	こども理解					● 教育とこどもの社会史	2	A	教育社会学	2	A こども産業論	2											14 必修4単位 選択必修A群 6単位
						● こどもの発達心理学	2				A 社会福祉論	2											
			A	遊びの社会学	2			A	国際スポーツ文化論（廃止）	2	A 地域社会とこども	2											
			A	児童文化論	2			A	こどもと風俗	2	A こども家庭福祉	2	A	世界のこども政策	2								
				社会学概論	2						社会的養護Ⅰ	2											
				教育学概論	2				倫理学概論（廃止）	2				ジェンダー論	2	こども理解の理論と方法	2						
											生涯発達心理学	2											
				心理学概論	2						生命の倫理	2											
応用・各論科目	こどもケアのデザイン	学びと育ちの内容	B	地球環境論	2			B	現代アニメ研究	2	B 多文化共生とこども	2						B	現代社会論	2			64 必修18単位 選択必修B群 22単位
			B	こどもスポーツ論	2			B	数の社会学	2	B 世界の貧困問題とこども支援	2	B	こどもと法（廃止）	2	こどもの医療	2	B	児童文学論	2			
											B 理科実験・ものづくり	2						B	家族社会論	2			
											B こども英語論	2		レジャースポーツ論	2								
											国語	2				家庭	2						
														社会	2	体育	2						
											算数	2				音楽	2						
											理科	2				図画工作	2						
				こどもと言葉	1						生活	2				外国語（英語）	2		こどもと健康	1			
				こどもと人間関係	1						こどもと造形表現	1		こどもと音楽表現	1				こどもと環境	1			
						● 幼児教育内容総論	2							保育内容（環境）	2	保育内容（健康）	2						
														保育内容（ことば）	2	保育内容（表現）	2						
																保育内容（人間関係）	2						
																こども家庭支援の心理学	2						
											乳児保育Ⅰ	2		障がい児保育	2	社会的養護Ⅱ	1						
		学びと育ちのアート	B	遊びと論理的思考	2			B	学習環境デザイン	2	B 生涯学習論	2						B	家族臨床心理学	2			
			B	教育の歴史	2			B	自然環境体験論	2	B 教育評価論	2	B	特別支援教育	2			B	こどもとアート	2			
			B	異文化体験論	2			B	幼児音楽	2	B 対人関係心理学	2											
						● 教職論	2	●	教育課程論	2	● 教育方法と技術（ICTの活用を含む）	2	●	道徳教育論	2								
								●	児童理解と生徒・進路指導	2			●	特別活動論	2								
											国語科指導法	1	●	教育相談	2								
											社会科指導法	1		家庭科指導法	1	体育科指導法	1						
											算数科指導法	1		図画工作科指導法	1	音楽科指導法	1						
											理科指導法	1		総合的な学習の時間の指導法	1	外国語（英語）科指導法	1						
											生活科指導法	1											
									幼児教育課程総論	2	幼児教育指導法総論	2											
						保育者論	2		こどもの健康と安全	1	子育て支援	1		こども家庭支援論	2								
						こどもの保健	2				乳児保育Ⅱ	1											
						保育内容の理解と方法Ⅰ	2				こどもの食と栄養	2											
						保育内容の理解と方法Ⅱ	2																
		こども学の実践	B	ボランティア活動論	2	● フィールドワーク入門	2	B	こどもデータサイエンス	2	B コミュニケーションデザイン	2						B	メディア表現ワークショップ	2			
				身体表現	2	B こどもの遊び実践論	2		ピアノ奏法Ⅰ	1	B こどもキャリアデザイン演習	1		教職演習	2								
									海外こども事情A	2	ピアノ奏法Ⅱ	1											
									海外こども事情B	2				ピアノ奏法Ⅲ	1	ピアノ奏法Ⅳ	1						
									インターンシップⅡ	2	インターンシップⅡ	通年											
														初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	5	初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	通年						
														初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	3	初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	通年						
														初等教育実習C	2	初等教育実習C	通年						
														保育実習ⅠA	2	保育実習ⅠB	通年						
											保育実習ⅠA	2		保育実習ⅠB	1	保育実習指導ⅠB	通年						
											保育実習指導ⅠA	1		保育実習Ⅱ	2	保育実習Ⅱ	通年						
														保育実習Ⅲ	2	保育実習Ⅲ	通年						
														保育実習指導Ⅱ	1	保育実習指導Ⅱ	通年						
														保育実習指導Ⅲ	1	保育実習指導Ⅲ	通年						
共通学芸科目				共通学芸選択科目			[共通学芸選択科目]		● 教育の原理	2	● 教育の制度と経営	2										教職実践演習（幼・小）	2	12 必修6単位
				日本国憲法	2		保育原理	2	● 発達と学習の心理学	2													
				他学科科目			[他学科科目]																
キリスト教・同志社関係科目			●	聖書A	2	●	聖書B	2															6
			◎	キリスト教・同志社関係選択必修科目			[キリスト教・同志社関係選択必修科目]																
外国語科目			●	Comprehensive English Ⅰ	1	●	Comprehensive English Ⅱ	1															8
			●	Communication in English Ⅰ	1	●	Communication in English Ⅱ	1															
			◎	フランス語，ドイツ語，中国語，イタリア語，スペイン語，ハングル																			
スポーツ・健康科目			◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																2
データサイエンス・AI科目			◎	データサイエンス・AI選択必修科目			[データサイエンス・AI選択必修科目]																2
ゼミナール科目	こども学の発信					●	こども学演習	1					●	応用演習Ⅰ	2	● 応用演習Ⅱ	2	●	卒業研究Ⅰ	2	● 卒業研究Ⅱ	2	9
区分外				＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																			12
合計																							132

<凡例>
1. 必・選欄の●は必修を，◎又はA．B．などは選択必修グループを表す。
2. 共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3. [ ] 内の科目は，再掲。

自由選択科目																教職特別演習Ⅰ	2		[教職特別演習Ⅰ]			教職特別演習Ⅱ	2		[教職特別演習Ⅱ]		

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

現代社会学部　現代こども学科　卒業必要単位（2024年度入学生適用）

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
導入科目	必修　3単位				3単位
入門・概論科目	必修　4単位 選択必修A群　6単位				14単位
応用・各論科目	必修　18単位 選択必修B群　22単位				64単位
共通学芸科目		必修　6単位 ※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。			12単位
キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位				8単位
スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
データサイエンス・AI科目	選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目	必修　1単位		必修　4単位	必修　4単位	9単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計					120単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）					12単位
卒業に必要な単位					132単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低12単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計132単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．自由選択科目
4．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ	保育実習ⅠA
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA	保育実習指導ⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	国際教養プロジェクトA	インターンシップⅠB	保育実習ⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外事情(アジアと女性)	インターンシップⅡ	保育実習指導ⅠB
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情A		保育実習Ⅱ
近代日本と同志社D		海外こども事情B		保育実習指導Ⅱ
		人間生活海外事情		保育実習Ⅲ
				保育実習指導Ⅲ
			初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	
			初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	
			初等教育実習C	

教職課程又は保育士養成課程履修希望者は，必ず別冊「免許・資格関係履修要項」を熟読すること。

現代社会学部　現代こども学科　カリキュラム表（2024年度入学生適用）

導入科目（3単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
基礎演習	1	春2	1	必修	
現代こども学概論	2	春2	1	必修	

履修上の注意

導入科目はすべて必修科目である。

入門・概論科目（最低14単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
教育とこどもの社会史	2	半2	1	必修	
こどもの発達心理学	2	半2	1	必修	
選択必修A群					
遊びの社会学	2	半2	1	選択必修6単位以上	
児童文化論	2	半2	1		
こどもと風俗	2	半2	1		
教育社会学	2	半2	2		
地域社会とこども	2	半2	2		
国際スポーツ文化論	2	半2	2		廃止
世界のこども政策	2	半2	2		
こども産業論	2	半2	2		
社会福祉論	2	半2	2		読替
こども家庭福祉	2	春2	2		
選択					
社会学概論	2	半2	1	選択	
倫理学概論	2	半2	1	選択	廃止
教育学概論	2	半2	1	選択	
心理学概論	2	半2	1	選択	変更
生涯発達心理学	2	半2	2	選択	
ジェンダー論	2	半2	2	選択	
生命の倫理	2	半2	2	選択	
社会的養護Ⅰ	2	春2	2	選択	
こども理解の理論と方法	2	春2	3	選択	

履修上の注意

必修4単位，選択必修A群より6単位を含め，最低14単位以上修得すること。
選択必修A群において，6単位を超えて修得した科目の単位は，入門・概論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
社会福祉論	2	社会福祉学概論

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
心理学概論	2	社会心理学概論

廃止科目について

廃止科目の修得単位は当該区分において有効。

応用・各論科目（最低64単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
教職論	2	半2	1	必修	
教育課程論	2	半2	2	必修	
児童理解と生徒・進路指導	2	半2	2	必修	
教育方法と技術（ICTの活用を含む）	2	半2	2	必修	
道徳教育論	2	半2	3	必修	
特別活動論	2	半2	3	必修	
教育相談	2	半2	3	必修	
幼児教育内容総論	2	秋2	1	必修	読替
フィールドワーク入門	2	半2	1	必修	
選択必修Ｂ群					
地球環境論	2	半2	1	選択必修22単位以上	
数の社会学	2	半2	1		
こどもスポーツ論	2	半2	1		
現代アニメ研究	2	半2	1		
こどもと法	2	半2	2		廃止
多文化共生とこども	2	半2	2		
世界の貧困問題とこども支援	2	半2	2		
こども英語論	2	半2	2		
理科実験・ものづくり	2	半2	2		
現代社会論	2	半2	3		
家族社会論	2	半2	3		
児童文学論	2	半2	3		
こどもの医療	2	半2	3		
異文化体験論	2	半2	1		
教育の歴史	2	半2	1		
遊びと論理的思考	2	半2	1		
学習環境デザイン	2	半2	2		
生涯学習論	2	半2	2		
教育評価論	2	半2	2		
自然環境体験論	2	半2	2		
対人関係心理学	2	半2	2		
幼児音楽	2	半2	2		
特別支援教育	2	半2	3		
家族臨床心理学	2	半2	3		
こどもとアート	2	半2	3		
ボランティア活動論	2	半2	1		
こどもの遊び実践論	2	半2	1		
コミュニケーションデザイン	2	半2	2		
こどもデータサイエンス	2	半2	2		
こどもキャリアデザイン演習	1	半2	2		
メディア表現ワークショップ	2	半2	3		
選択					
レジャースポーツ論	2	半2	2	選択	
こどもと言葉	1	春2	1	選択	
こどもと人間関係	1	春2	1	選択	
国語	2	半2	2	選択	
社会	2	半2	2	選択	
理科	2	半2	2	選択	
生活	2	半2	2	選択	
算数	2	半2	2	選択	
こどもと造形表現	1	春2	2	選択	
こどもと音楽表現	1	秋2	2	選択	
家庭	2	半2	3	選択	
体育	2	半2	3	選択	
音楽	2	半2	3	選択	
図画工作	2	半2	3	選択	
外国語(英語)	2	半2	3	選択	
こどもと健康	1	秋2	3	選択	
こどもと環境	1	秋2	3	選択	
保育内容(環境)	2	半2	2	選択	
保育内容(ことば)	2	半2	2	選択	読替
保育内容(表現)	2	半2	3	選択	
保育内容(健康)	2	半2	3	選択	
保育内容(人間関係)	2	半2	3	選択	
乳児保育Ⅰ	2	春2	2	選択	
障がい児保育	2	秋2	2	選択	
社会的養護Ⅱ	1	春2	3	選択	
こども家庭支援の心理学	2	春2	3	選択	
算数科指導法	1	半2	2	選択	
国語科指導法	1	半2	2	選択	
社会科指導法	1	半2	2	選択	
理科指導法	1	半2	2	選択	
生活科指導法	1	半2	2	選択	
家庭科指導法	1	半2	3	選択	
図画工作科指導法	1	半2	3	選択	
体育科指導法	1	半2	3	選択	
音楽科指導法	1	半2	3	選択	
外国語(英語)科指導法	1	半2	3	選択	
総合的な学習の時間の指導法	1	半2	3	選択	
幼児教育指導法総論	2	秋2	2	選択	読替
幼児教育課程総論	2	春2	2	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
保育者論	2	秋2	1	選択	
こどもの保健	2	秋2	1	選択	
保育内容の理解と方法Ⅰ	2	秋2	1	選択	
保育内容の理解と方法Ⅱ	2	秋2	1	選択	
こどもの健康と安全	1	春2	2	選択	
こどもの食と栄養	2	秋2	2	選択	
子育て支援	1	秋2	2	選択	
乳児保育Ⅱ	1	秋2	2	選択	
こども家庭支援論	2	春2	3	選択	
身体表現	2	半2	1	選択	
海外こども事情Ａ	2	半2	2	選択	欠講
海外こども事情Ｂ	2	半2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅰ	1	春2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅲ	1	春2	3	選択	
ピアノ奏法Ⅳ	1	秋2	3	選択	
教職演習	2	半2	3	選択	
インターンシップⅡ	2	通2	2	選択	
保育実習ＩＡ	2	通2	2	選択	
保育実習指導ＩＡ	1	通1/2	2	選択	
保育実習Ⅱ	2	通2	3	選択	
保育実習指導Ⅱ	1	通1/2	3	選択	
初等教育実習Ａ(事前・事後指導を含む)	5	通2	3	選択	
初等教育実習Ｂ(事前・事後指導を含む)	3	通2	3	選択	
初等教育実習Ｃ	2	通2	3	選択	
保育実習ＩＢ	2	通2	3	選択	
保育実習指導ＩＢ	1	通1/2	3	選択	
保育実習Ⅲ	2	通2	3	選択	
保育実習指導Ⅲ	1	通1/2	3	選択	

履修上の注意

必修18単位，選択必修Ｂ群より22単位を含め，最低64単位を修得すること。
選択必修Ｂ群において，22単位を超えて修得した科目の単位は，応用・各論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

次の科目を履修することができる者は，保育士養成課程学生に限る。
「こどもの食と栄養」「保育内容の理解と方法Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅱ」「乳児保育Ⅱ」「こどもの健康と安全」「障がい児保育」「社会的養護Ⅱ」「子育て支援」「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」

「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」はいずれか１科目しか履修できない。

「保育実習指導ＩＡ」「保育実習指導ＩＢ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」において，それぞれの実習科目の事前・事後指導を行うため，実習指導科目とそれに対応する実習科目はセット登録すること。
「保育実習Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」及び「保育実習指導Ⅲ」から３単位選択必修

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
幼児教育内容総論	2	保育内容総論
保育内容（ことば）	2	保育内容（言葉）
幼児教育指導法総論	2	保育内容指導法総論
幼児教育課程総論	2	保育カリキュラム論

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

個別の授業科目に関する注意

１．「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。

２．以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。
ａ．「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育原理」「保育者論」「こどもの保健」「幼児教育内容総論」「こどもの発達心理学」「こども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「乳児保育Ⅰ」
ｂ．「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「社会福祉論」
ｃ．「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「乳児保育Ⅱ」「幼児教育課程総論」
ｄ．「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「社会的養護Ⅱ」「こども家庭支援論」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」

廃止科目について

廃止科目の修得単位は当該区分において有効。

2024GK

共通学芸科目（必修科目 6 単位を含めて最低12単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
教育と人間				
保育原理	2	秋2	1	
教育の原理	2	半2	2	必修
発達と学習の心理学	2	半2	2	必修
教育の制度と経営	2	半2	2	必修
教職実践演習(幼・小)	2	半2	4	
人間と思想				
哲学Ａ	2	半2	1	
哲学Ｂ	2	半2	1	
西洋の思想Ａ	2	半2	1	欠講
西洋の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の思想Ａ	2	半2	1	
日本の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学Ａ	2	半2	1	
心理学Ｂ	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論Ａ	2	半2	1	
国際関係論Ｂ	2	半2	1	
国際社会と経済Ａ	2	半2	1	
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会Ａ	2	半2	1	
人間と社会Ｂ	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
社会保障と福祉	2	半2	1	
介護概説	2	半2	1	
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性Ａ	2	半2	1	
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1	
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1	
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1	
アジア地域研究Ａ	2	半2	1	
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1	
日本古典芸能Ａ	2	半2	1	
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化Ａ	2	半2	1	
京都の文化Ｂ	2	半2	1	
京都の文化Ｃ	2	半2	1	
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2	
京都の歴史Ａ	2	半2	1	
京都の歴史Ｂ	2	半2	1	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan StudiesＡ	2	秋2	1	
Japan StudiesＢ	2	秋2	1	
Japan StudiesＣ	2	秋2	1	
Japan StudiesＤ	2	秋2	1	
Japan StudiesＥ	2	秋2	1	欠講
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	
寄付講座	2	半2	1	
キャリア教育科目				
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップＩＡ	1	通1	2	
インターンシップＩＢ	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目は備考欄に必修と記載されているものを除き，すべて選択科目である。
学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（本学Webサイト「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低履修単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月(夏期)，10月(春期)に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan StudiesＡ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	選択必修	
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	2単位	
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	以上	
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFL Ⅰ	2			選択	
TOEFL Ⅱ	2			選択	
TOEFL Ⅲ	2			選択	
TOEIC Ⅰ	2			選択	
TOEIC Ⅱ	2			選択	
TOEIC Ⅲ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTS Ⅰ	2			選択	
IELTS Ⅱ	2			選択	
IELTS Ⅲ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語 4 単位を選択必修。「1つの言語 4 単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について

「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週 2 回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

3．語学特別プログラム

国際化の進んだ今日の社会状況の中で，極めて高度な語学運用能力を身につけるため，ラピートプログラム（中国語）を実施している。
受講するためには，特別な手続を必要とする。

ラピートプログラム（中国語）

2年次からの2年間のプログラムで，日本人教員による授業を週2コマと，Native Speaker教員による授業を週2コマ，計週4コマの授業を2年間にわたって受講することになる。募集は1年次の11月下旬に実施するので，掲示等に注意しておくこと。

※プログラムに参加する場合，他の選択科目の履修の一部制約を受けることがある。不明な点については現代社会学部事務室まで問い合わせること。

4．全般事項

a．1年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。

b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

d．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修4単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する4単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，14単位＋4単位＝18単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

データサイエンス・AI科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
基礎					
選択必修					
データサイエンス・AI基礎	2	半2	1	選択必修2単位以上	
データサイエンス・ICT活用基礎	2	半2	1		
実践					
選択					
データサイエンスのためのAIプログラミング入門	2	半2	1	選択	
データサイエンスのための統計入門	2	半2	1	選択	
ことばのデータサイエンス	2	半2	1	選択	
実践から学ぶAI入門	2	半2	1	選択	

履修上の注意

1．最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
2．DWCLAデータサイエンス・AIプログラムについては，「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」のページで確認すること。

ゼミナール科目（9単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
こども学演習	1	秋2	1	必修	
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業研究Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業研究Ⅱ	2	秋2	4	必修	

履修上の注意

ゼミナール科目はすべて必修である。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
教職特別演習Ⅰ	2	半2	3	自由選択	
教職特別演習Ⅱ	2	半2	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

カリキュラム

現代社会学部　現代こども学科

（2022～2023年度入学生適用）

現代社会学部　現代こども学科　教育理念・目標

こどもは，社会の重要な構成員であると共に，社会の変化を映し出す鏡です。本学科の目標は，こどもを多面的に理解しながら，日本や世界のこどもを取り巻く社会的諸課題を学際的に探究し，その解決方法を創造的にデザインし，発信していく力を育てることです。

このように，こどもに関わる専門的内容を修得して世界の見方を広げるとともに，課題の探究を通して，あらゆる分野で必要な「問題解決能力」と「コミュニケーション能力」を身に付けることを目指しています。これらの力は，未来を担うこどもが大切にされる社会をつくるために，教育，福祉，こども産業をはじめとする企業など，様々な職業分野で生かすことができます。

そして，何より大切にしている本学科の教育理念は，「こども」という窓口を通して，自分をどのように成長させるかということです。次のような人間教育を重視しているのです。

第一に，自分のためだけではなく，こども（他者）のためにも学び生きること。（キリスト教主義）

第二に，世界的な視野に立って，人類や自然の共生に取り組むこと。（国際主義）

第三に，多様で学際的な学問を修めることで広範な視野を養い，総合的な判断力と創造力を身に付けること。（リベラル・アーツ主義）

このような教育理念を実現するための本学科のカリキュラムには，以下のような特徴があります。

⑴１年次の導入教育の充実

大学で学ぶことの意味と大学４年間の見通しを，「こども」をとりまく諸問題に取り組むことで考えていきます（「現代こども学概論」）。更には豊かな人間関係を築ける少人数クラスで，学びの技法も身に付けていきます（「基礎演習」）。

⑵こども理解を基礎とした学び

まず，こどもとは何かを幅広く理解します。こどもの遊び，こども産業，こどもの文化，こどもの発達，児童虐待など。更にはこうしたこども理解を支える多様な学問も，共通学芸科目（思想，環境，社会，女性，文化，歴史，教育などの分野）として学んでいき，総合的な判断力と創造力を身に付けることを目指しています。

⑶こどもをケアするという原理

近代の教育において支配的であった，知識や技術を与える「ティーチング」の原理は，学校におけるいじめや不登校など，限界を示すようになってきました。本学科では，昔から人類が営んできた「ケア」することを原理とすることにしました。これはひとことで言えば，互いに心をくだく（心をくばる）関係です。「ケア」が理想とするのは，「誰もが他人から応えられ仲間に入れてもらえ，一人ぼっちで置き去りにされ傷つけられるような人はいない」人間関係です。隣人を愛し，他者に仕える心にもつながっていきます。そのために，どのような環境をデザインしていけばいいのか，こども理解の科目の基礎の上に立って考えていきます。これらは，学びと育ちの内容とアート（技術）の科目系列で学んでいきます。

⑷世界的な広い視野

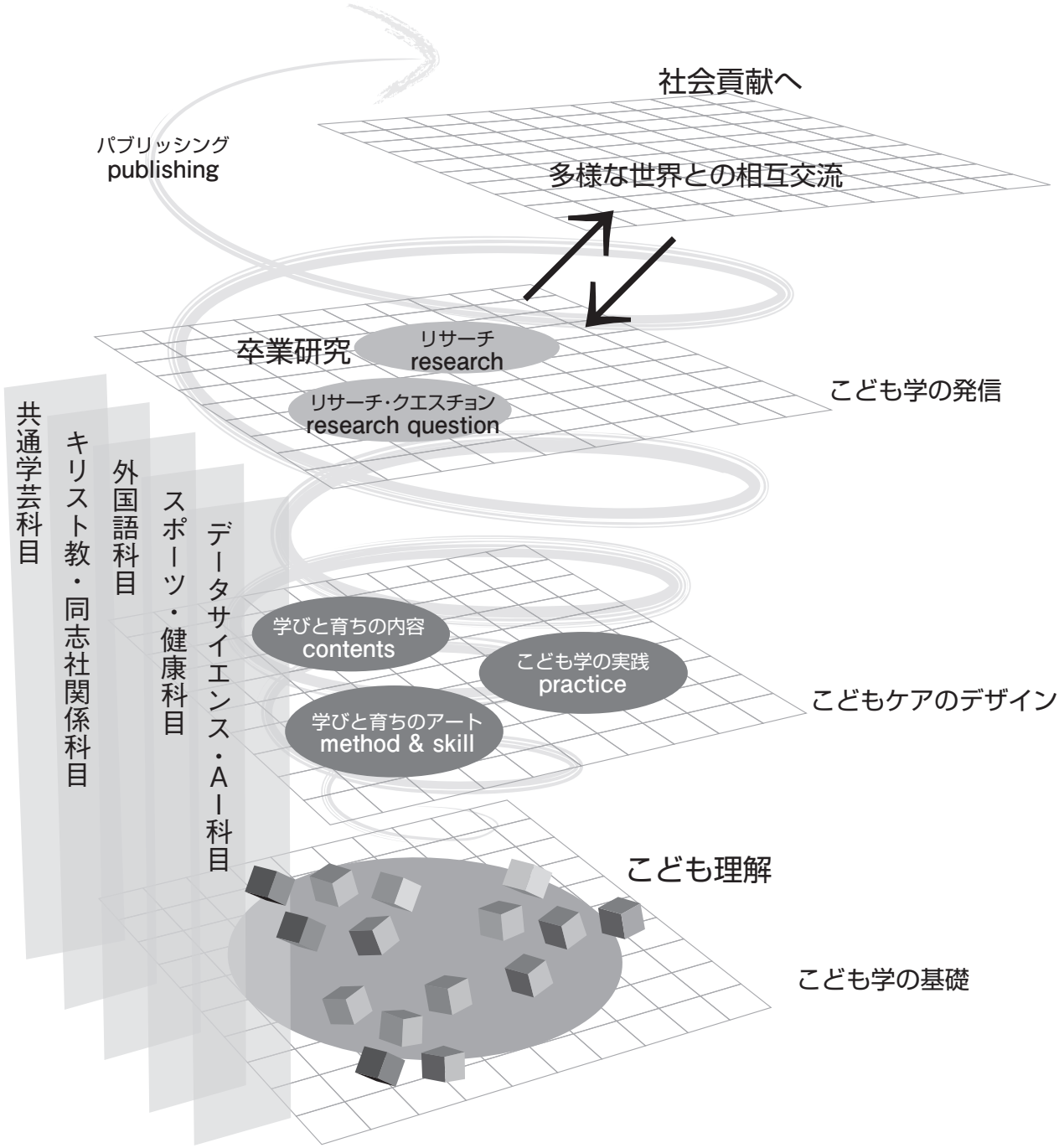
世界のこどもが置かれている状況や，様々な国のこども政策を学び，世界的な広い視野に立って，こどもについて考えていきます。「世界の貧困問題とこども支援」，「多文化共生とこども」，「世界のこども政策」などの授業科目や，実際に海外に出かけて学びを深める「海外こども事情」などがあります。

⑸発信・社会貢献

こどもについて学ぶ中で，様々なリサーチすべき課題が見出されてきます。それを「応用演習」や「卒業研究」などのゼミナール科目で探究していきます。その学びの成果を社会へ発信していき，社会と相互交流していきます。地域のこどもたちとの交流など，ささやかながらも社会貢献につながっていくこともあります。その経験が，自分のためだけではなく，他者のためにも学び生きることにつながっていきます。

以上のような特色あるカリキュラムによって学ぶ中で，ひとりひとりが人間として成長できることを目指しています。

現代社会学部 現代こども学科　カリキュラム概念図



現代社会学部　現代こども学科　科目配置表 <2022〜2023年度入学生 >

開講期は年度によって異なることがあります。

			1年次					2年次					3年次					4年次					卒業必要最低単位
			必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
導入科目	こども学の基礎		●	基礎演習	1																					3
			●	現代こども学概論	2																					
入門・概論科目	こども理解					●	教育とこどもの社会史	2	A	教育社会学	2	A	こども産業論	2											14 必修4単位 選択必修A群 6単位
						●	こどもの発達心理学	2				A	社会福祉論	2											
			A	遊びの社会学	2				A	国際スポーツ文化論（廃止）	2	A	地域社会とこども	2											
			A	児童文化論	2	A	こどもと風俗	2	A	こども家庭福祉	2	A	世界のこども政策	2											
												A	ユニセフとこども支援（廃止）	2											
				社会学概論	2					社会的養護Ⅰ	2					こども理解の理論と方法	2								
				教育学概論	2		倫理学概論（廃止）	2					ジェンダー論	2											
										生涯発達心理学	2														
				心理学概論	2					生命の倫理	2														
応用・各論科目	こどもケアのデザイン	学びと育ちの内容	B	地球環境論	2	B	現代アニメ研究	2	B	多文化共生とこども	2				B	こどもの医療	2	B	現代社会論	2						64 必修18単位 選択必修B群 22単位
			B	こどもスポーツ論	2	B	数の社会学	2	B	世界の貧困問題とこども支援	2	B	こどもと法（廃止）	2				B	児童文学論	2					
									B	理科実験・ものづくり	2							B	家族社会論	2					
									B	こども英語論	2		レジャースポーツ論	2											
										国語	2					家庭	2								
													社会	2		体育	2								
										算数	2					音楽	2								
										理科	2					図画工作	2								
				こどもと言葉	1					生活	2					外国語（英語）	2		こどもと健康	1					
				こどもと人間関係	1					こどもと造形表現	1		こどもと音楽表現	1					こどもと環境	1					
						●	幼児教育内容総論	2					保育内容（環境）	2		保育内容（健康）	2								
													保育内容（ことば）	2		保育内容（表現）	2								
																保育内容（人間関係）	2								
																こども家庭支援の心理学	2								
										乳児保育Ⅰ	2		障がい児保育	2		社会的養護Ⅱ	1								
		学びと育ちのアート	B	遊びと論理的思考	2	B	幼児・児童教育論（廃止）	2	B	学習環境デザイン	2	B	生涯学習論	2				B	家族臨床心理学	2					
			B	教育の歴史	2				B	自然環境体験論	2	B	教育評価論	2	B	特別支援教育	2	B	こどもとアート	2					
			B	異文化体験論	2				B	幼児音楽	2	B	対人関係心理学	2				B	こども調査統計法（廃止）	2					
						●	教職論	2	●	教育課程論	2	●	教育方法と技術（ICTの活用を含む）	2	●	道徳教育論	2								
									●	児童理解と生徒・進路指導	2				●	特別活動論	2								
													国語科指導法	1	●	教育相談	2								
													社会科指導法	1		家庭科指導法	1		体育科指導法	1				
													算数科指導法	1		図画工作科指導法	1		音楽科指導法	1				
													理科指導法	1		総合的な学習の時間の指導法	1		外国語（英語）科指導法	1				
													生活科指導法	1											
										幼児教育課程総論	2		幼児教育指導法総論	2											
							保育者論	2		こどもの健康と安全	1		子育て支援	1		こども家庭支援論	2								
							こどもの保健	2					乳児保育Ⅱ	1											
							保育内容の理解と方法Ⅰ	2					こどもの食と栄養	2											
							保育内容の理解と方法Ⅱ	2																	
		こども学の実践	B	ボランティア活動論	2	●	フィールドワーク入門	2	B	こどもデータサイエンス	2	B	コミュニケーションデザイン	2				B	メディア表現ワークショップ	2					
				身体表現	2	B	こどもの遊び実践論	2		ピアノ奏法Ⅰ	1	B	こどもキャリアデザイン演習	1		教職演習	2								
										海外こども事情A	2		ピアノ奏法Ⅱ	1											
										海外こども事情B	2					ピアノ奏法Ⅲ	1		ピアノ奏法Ⅳ	1					
										インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年											
																初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	5		初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	通年					
																初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	3		初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	通年					
																初等教育実習C	2		初等教育実習C	通年					
																保育実習ⅠA	2		保育実習ⅠB	通年					
										保育実習ⅠA	2		保育実習ⅠA	通年		保育実習指導ⅠB	1		保育実習指導ⅠB	通年					
										保育実習指導ⅠA	1		保育実習指導ⅠA	通年		保育実習Ⅱ	2		保育実習Ⅱ	通年					
																保育実習Ⅲ	2		保育実習Ⅲ	通年					
																保育実習指導Ⅱ	1		保育実習指導Ⅱ	通年					
																保育実習指導Ⅲ	1		保育実習指導Ⅲ	通年					
共通学芸科目				共通学芸選択科目			[共通学芸選択科目]		●	教育の原理	2	●	教育の制度と経営	2										教職実践演習（幼・小）	2	12 必修6単位
				日本国憲法	2		保育原理	2	●	発達と学習の心理学	2														
				他学科科目			[他学科科目]																		
キリスト教・同志社関係科目			●	聖書A	2	●	聖書B	2																	6
			◎	キリスト教・同志社関係選択必修科目			[キリスト教・同志社関係選択必修科目]																		
外国語科目			●	Comprehensive English Ⅰ	1	●	Comprehensive English Ⅱ	1																	8
			●	Communication in English Ⅰ	1	●	Communication in English Ⅱ	1																	
			◎	フランス語，ドイツ語，中国語，イタリア語，スペイン語，ハングル																					
スポーツ・健康科目			◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																		2
データサイエンス・AI科目				データサイエンス・AI選択科目			[データサイエンス・AI選択科目]																		0
ゼミナール科目	こども学の発信					●	こども学演習	1							●	応用演習Ⅰ	2	●	応用演習Ⅱ	2	●	卒業研究Ⅰ	2	●	卒業研究Ⅱ	2	9
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							14
合計																										132

<凡例>
1．必・選欄の●は必修を，◎又はA．B．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［ ］内の科目は，再掲。

自由選択科目		コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

現代社会学部　現代こども学科　卒業必要単位（2022～2023年度入学生適用）

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
導入科目	必修　3単位				3単位
入門・概論科目	必修　4単位 選択必修A群　6単位				14単位
応用・各論科目	必修　18単位 選択必修B群　22単位				64単位
共通学芸科目		必修　6単位	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。		12単位
キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位				8単位
スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
データサイエンス・AI科目					0単位
ゼミナール科目	必修　1単位		必修　4単位	必修　4単位	9単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計					118単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）					14単位
卒業に必要な単位					132単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低14単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計132単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．自由選択科目
4．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ	保育実習ⅠA
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA	保育実習指導ⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	国際教養プロジェクトA	インターンシップⅠB	保育実習ⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外事情(アジアと女性)	インターンシップⅡ	保育実習指導ⅠB
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情A		保育実習Ⅱ
近代日本と同志社D		海外こども事情B		保育実習指導Ⅱ
		人間生活海外事情		保育実習Ⅲ
				保育実習指導Ⅲ
			初等教育実習A（事前・事後指導を含む）	
			初等教育実習B（事前・事後指導を含む）	
			初等教育実習C	

教職課程又は保育士養成課程履修希望者は，必ず別冊「免許・資格関係履修要項」を熟読すること。

現代社会学部　現代こども学科　カリキュラム表（2022～2023年度入学生適用）

導入科目（3単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
基礎演習	1	春2	1	必修	
現代こども学概論	2	春2	1	必修	

履修上の注意

導入科目はすべて必修科目である。

入門・概論科目（最低14単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
教育とこどもの社会史	2	半2	1	必修	
こどもの発達心理学	2	半2	1	必修	
選択必修A群					
遊びの社会学	2	半2	1		
児童文化論	2	半2	1		
こどもと風俗	2	半2	1		
教育社会学	2	半2	2		
地域社会とこども	2	半2	2	選択必修	
国際スポーツ文化論	2	半2	2	6単位	廃止
ユニセフとこども支援	2	半2	2	以上	廃止
世界のこども政策	2	半2	2		
こども産業論	2	半2	2		
社会福祉論	2	半2	2		読替
こども家庭福祉	2	春2	2		
選択					
社会学概論	2	半2	1	選択	
倫理学概論	2	半2	1	選択	廃止
教育学概論	2	半2	1	選択	
心理学概論	2	半2	1	選択	変更
生涯発達心理学	2	半2	2	選択	
ジェンダー論	2	半2	2	選択	
生命の倫理	2	半2	2	選択	
社会的養護Ⅰ	2	春2	2	選択	
こども理解の理論と方法	2	春2	3	選択	

履修上の注意

必修4単位，選択必修A群より6単位を含め，最低14単位以上修得すること。
選択必修A群において，6単位を超えて修得した科目の単位は，入門・概論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
な単位に算入される。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
社会福祉論	2	社会福祉学概論

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
心理学概論	2	社会心理学概論

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

応用・各論科目（最低64単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
教職論	2	半2	1	必修	
教育課程論	2	半2	2	必修	
児童理解と生徒・進路指導	2	半2	2	必修	
教育方法と技術（ICTの活用を含む）	2	半2	2	必修	
道徳教育論	2	半2	3	必修	
特別活動論	2	半2	3	必修	
教育相談	2	半2	3	必修	
幼児教育内容総論	2	秋2	1	必修	読替
フィールドワーク入門	2	半2	1	必修	
選択必修Ｂ群					
地球環境論	2	半2	1		
数の社会学	2	半2	1		
こどもスポーツ論	2	半2	1		
現代アニメ研究	2	半2	1		
こどもと法	2	半2	2		廃止
多文化共生とこども	2	半2	2		
世界の貧困問題とこども支援	2	半2	2		
こども英語論	2	半2	2		
理科実験・ものづくり	2	半2	2		
現代社会論	2	半2	3		
家族社会論	2	半2	3		
児童文学論	2	半2	3		
こどもの医療	2	半2	3		
幼児・児童教育論	2	半2	1		廃止
異文化体験論	2	半2	1		
教育の歴史	2	半2	1	選択必修	
遊びと論理的思考	2	半2	1	22単位	
学習環境デザイン	2	半2	2	以上	
生涯学習論	2	半2	2		
教育評価論	2	半2	2		
自然環境体験論	2	半2	2		
対人関係心理学	2	半2	2		
幼児音楽	2	半2	2		
こども調査統計法	2	半2	3		廃止
特別支援教育	2	半2	3		
家族臨床心理学	2	半2	3		
こどもとアート	2	半2	3		
ボランティア活動論	2	半2	1		
こどもの遊び実践論	2	半2	1		
コミュニケーションデザイン	2	半2	2		
こどもデータサイエンス	2	半2	2		
こどもキャリアデザイン演習	1	半2	2		
メディア表現ワークショップ	2	半2	3		
選択					
レジャースポーツ論	2	半2	2	選択	
こどもと言葉	1	春2	1	選択	
こどもと人間関係	1	春2	1	選択	
国語	2	半2	2	選択	
社会	2	半2	2	選択	
理科	2	半2	2	選択	
生活	2	半2	2	選択	
算数	2	半2	2	選択	
こどもと造形表現	1	春2	2	選択	
こどもと音楽表現	1	秋2	2	選択	
家庭	2	半2	3	選択	
体育	2	半2	3	選択	
音楽	2	半2	3	選択	
図画工作	2	半2	3	選択	
外国語(英語)	2	半2	3	選択	
こどもと健康	1	秋2	3	選択	
こどもと環境	1	秋2	3	選択	
保育内容(環境)	2	半2	2	選択	
保育内容(ことば)	2	半2	2	選択	読替
保育内容(表現)	2	半2	3	選択	
保育内容(健康)	2	半2	3	選択	
保育内容(人間関係)	2	半2	3	選択	
乳児保育Ⅰ	2	春2	2	選択	
障がい児保育	2	秋2	2	選択	
社会的養護Ⅱ	1	春2	3	選択	
こども家庭支援の心理学	2	春2	3	選択	
算数科指導法	1	半2	2	選択	
国語科指導法	1	半2	2	選択	
社会科指導法	1	半2	2	選択	
理科指導法	1	半2	2	選択	
生活科指導法	1	半2	2	選択	
家庭科指導法	1	半2	3	選択	
図画工作科指導法	1	半2	3	選択	
体育科指導法	1	半2	3	選択	
音楽科指導法	1	半2	3	選択	
外国語(英語)科指導法	1	半2	3	選択	
総合的な学習の時間の指導法	1	半2	3	選択	
幼児教育指導法総論	2	秋2	2	選択	読替
幼児教育課程総論	2	春2	2	選択	読替

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
保育者論	2	秋2	1	選択	
こどもの保健	2	秋2	1	選択	
保育内容の理解と方法Ⅰ	2	秋2	1	選択	
保育内容の理解と方法Ⅱ	2	秋2	1	選択	
こどもの健康と安全	1	春2	2	選択	
こどもの食と栄養	2	秋2	2	選択	
子育て支援	1	秋2	2	選択	
乳児保育Ⅱ	1	秋2	2	選択	
こども家庭支援論	2	春2	3	選択	
身体表現	2	半2	1	選択	
海外こども事情Ａ	2	半2	2	選択	欠講
海外こども事情Ｂ	2	半2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅰ	1	春2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ピアノ奏法Ⅲ	1	春2	3	選択	
ピアノ奏法Ⅳ	1	秋2	3	選択	
教職演習	2	半2	3	選択	
インターンシップⅡ	2	通2	2	選択	
保育実習ＩＡ	2	通2	2	選択	
保育実習指導ＩＡ	1	通1/2	2	選択	
保育実習Ⅱ	2	通2	3	選択	
保育実習指導Ⅱ	1	通1/2	3	選択	
初等教育実習Ａ(事前・事後指導を含む)	5	通2	3	選択	
初等教育実習Ｂ(事前・事後指導を含む)	3	通2	3	選択	
初等教育実習Ｃ	2	通2	3	選択	
保育実習ＩＢ	2	通2	3	選択	
保育実習指導ＩＢ	1	通1/2	3	選択	
保育実習Ⅲ	2	通2	3	選択	
保育実習指導Ⅲ	1	通1/2	3	選択	

履修上の注意

必修18単位，選択必修Ｂ群より22単位を含め，最低64単位を修得すること。
選択必修Ｂ群において，22単位を超えて修得した科目の単位は，応用・各論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

次の科目を履修することができる者は，保育士養成課程学生に限る。
「こどもの食と栄養」「保育内容の理解と方法Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅱ」「乳児保育Ⅱ」「こどもの健康と安全」「障がい児保育」「社会的養護Ⅱ」「子育て支援」「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」

「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」はいずれか１科目しか履修できない。

「保育実習指導ＩＡ」「保育実習指導ＩＢ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」において，それぞれの実習科目の事前・事後指導を行うため，実習指導科目とそれに対応する実習科目はセット登録すること。
「保育実習Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」及び「保育実習指導Ⅲ」から３単位選択必修

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
幼児教育内容総論	2	保育内容総論
保育内容（ことば）	2	保育内容（言葉）
幼児教育指導法総論	2	保育内容指導法総論
幼児教育課程総論	2	保育カリキュラム論

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

個別の授業科目に関する注意

１．「インターンシップⅡ」
選考に合格した学生のみ履修できる。

２．以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。
ａ．「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育原理」「保育者論」「こどもの保健」「幼児教育内容総論」「こどもの発達心理学」「こども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「乳児保育Ⅰ」
ｂ．「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「社会福祉論」
ｃ．「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「乳児保育Ⅱ」「幼児教育課程総論」
ｄ．「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の履修前提条件は以下のとおり。
・次の科目の単位をすべて修得すること。
「保育実習ＩＡ」「保育実習指導ＩＡ」「社会的養護Ⅱ」「こども家庭支援論」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＢ」

廃止科目について

廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

2022～2023GK

共通学芸科目（必修科目 6 単位を含めて最低12単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
教育と人間				
保育原理	2	秋2	1	
教育の原理	2	半2	2	必修
発達と学習の心理学	2	半2	2	必修
教育の制度と経営	2	半2	2	必修
教職実践演習(幼・小)	2	半2	4	
人間と思想				
哲学Ａ	2	半2	1	
哲学Ｂ	2	半2	1	
西洋の思想Ａ	2	半2	1	欠講
西洋の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の思想Ａ	2	半2	1	
日本の思想Ｂ	2	半2	1	欠講
人間と環境				
宇宙の科学	2	半2	1	
地球の科学	2	半2	1	
生命の科学	2	半2	1	
自然人類学	2	半2	1	
物質の科学	2	半2	1	
生活環境の科学	2	半2	1	
自然科学史	2	半2	1	
環境社会論	2	半2	1	
科学技術と人間	2	半2	1	
心理学Ａ	2	半2	1	
心理学Ｂ	2	半2	1	
人格心理学	2	半2	1	
臨床心理学	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	
女性のための医学	2	半2	1	
人間と社会				
日本国憲法	2	半2	1	
国際社会と法	2	半2	1	
法と市民生活	2	半2	1	
国際関係論Ａ	2	半2	1	
国際関係論Ｂ	2	半2	1	
国際社会と経済Ａ	2	半2	1	
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1	
日本経済のしくみ	2	半2	1	
人間と社会Ａ	2	半2	1	
人間と社会Ｂ	2	半2	1	
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1	
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1	
情報と社会	2	半2	1	
データサイエンス基礎	2	秋2	1	2022～2023年度入学生のみ履修可 読替
社会保障と福祉	2	半2	1	
介護概説	2	半2	1	
女性と社会				
女性と社会	2	半2	1	
日本女性史	2	半2	1	
外国文学と女性Ａ	2	半2	1	
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1	
日本文学と女性	2	半2	1	
文化と歴史				
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1	
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1	
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1	
日本文化論	2	半2	1	
文化交流史	2	半2	1	
文化人類学	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1	
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1	
アジア地域研究Ａ	2	半2	1	
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1	
日本古典芸能Ａ	2	半2	1	
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1	
美術史	2	半2	1	
音楽と諸芸術	2	半2	1	
音楽と社会	2	半2	1	
現代の音楽	2	半2	1	
映像文化論	2	半2	1	
京都の文化と歴史				
京都の文化Ａ	2	半2	1	
京都の文化Ｂ	2	半2	1	
京都の文化Ｃ	2	半2	1	
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2	
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2	
京都の歴史Ａ	2	半2	1	
京都の歴史Ｂ	2	半2	1	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考
異文化体験				
海外事情(アメリカ)	4	春2	1	
海外事情(イギリス)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(ニュージーランド)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可
海外事情(中国)	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講
海外事情(カナダ)	4	春2	1	
交換留学生と学ぶ日本文化				
Japan StudiesＡ	2	秋2	1	
Japan StudiesＢ	2	秋2	1	
Japan StudiesＣ	2	秋2	1	
Japan StudiesＤ	2	秋2	1	
Japan StudiesＥ	2	秋2	1	欠講
現代の諸問題				
テーマ別講義	2	半2	1	
寄付講座	2	半2	1	
キャリア教育科目				
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1	
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2	
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2	
インターンシップＩＡ	1	通1	2	
インターンシップＩＢ	2	通2	2	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）				
日本語教育能力検定	2			

履修上の注意

共通学芸科目は備考欄に必修と記載されているものを除き，すべて選択科目である。
学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（本学Webサイト「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低履修単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配布資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月(夏期)，10月(春期)に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan StudiesＡ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
データサイエンス基礎	2	データサイエンス・AI基礎

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	選択必修	
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	2単位	
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	以上	
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級フランス語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級フランス語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	廃止
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	廃止
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	廃止
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	廃止
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
上級ドイツ語Ⅰ	1	春2	3	選択	
上級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	廃止
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	廃止
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	廃止
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	廃止
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修	
初級中国語演習	2	秋4	1	4単位	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1		
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択必修	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	4単位	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFL Ⅰ	2			選択	
TOEFL Ⅱ	2			選択	
TOEFL Ⅲ	2			選択	
TOEIC Ⅰ	2			選択	
TOEIC Ⅱ	2			選択	
TOEIC Ⅲ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTS Ⅰ	2			選択	
IELTS Ⅱ	2			選択	
IELTS Ⅲ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語 4 単位を選択必修。「1つの言語 4 単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
1年次では1つの言語のみ履修することができる。
1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計 4 単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について

「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週 2 回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

3．語学特別プログラム

国際化の進んだ今日の社会状況の中で，極めて高度な語学運用能力を身につけるため，ラピートプログラム（中国語）を実施している。
受講するためには，特別な手続を必要とする。

ラピートプログラム（中国語）

2年次からの2年間のプログラムで，日本人教員による授業を週2コマと，Native Speaker教員による授業を週2コマ，計週4コマの授業を2年間にわたって受講することになる。募集は1年次の11月下旬に実施するので，掲示等に注意しておくこと。

※プログラムに参加する場合，他の選択科目の履修の一部制約を受けることがある。不明な点については現代社会学部事務室まで問い合わせること。

4．全般事項

a．1年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。

b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

d．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修4単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する4単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，14単位＋4単位＝18単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
1年次に指定されたクラスで履修すること。

データサイエンス・AI科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
実践					
選択					
データサイエンスのためのAIプログラミング入門	2	半2	1	選択	
データサイエンスのための統計入門	2	半2	1	選択	
ことばのデータサイエンス	2	半2	1	選択	
実践から学ぶAI入門	2	半2	1	選択	

履修上の注意

1．最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
2．DWCLAデータサイエンス・AIプログラムについては，「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」のページで確認すること。

ゼミナール科目（9単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
こども学演習	1	秋2	1	必修	
応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業研究Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業研究Ⅱ	2	秋2	4	必修	

履修上の注意

ゼミナール科目はすべて必修である。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
コンピュータ活用	2	半2	1	自由選択	読替
教職特別演習Ⅰ	2	半2	3	自由選択	
教職特別演習Ⅱ	2	半2	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
コンピュータ活用	2	データサイエンス・ICT活用基礎

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目名で登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目名の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目名（授業コードは新科目コード）で行う。授業実態は新科目であるが，試験やレポート，掲示等はすべて旧科目で行われ，成績も旧科目で記録される。

カリキュラム

DWCLA データサイエンス・AI プログラム

DWCLA データサイエンス・AI プログラム

本学では，2024年度より，これまで開講していたデータサイエンス・AIに関する科目（「データサイエンス基礎」）を大幅に拡充させ，大学全体の教育プログラム「同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラムDWCLA-Educational Program for AI and Data science as Liberal Arts：(DWCLA-ADa)」として構築し，一層の充実を図ります。

そのDWCLA-ADaの一環として，所定の科目を履修，修得することにより修了証が授与される教育プログラム「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」があります。

このプログラムは卒業要件ではなく，あくまでも希望者に開かれている制度です。自律的に学ぶ意欲を持つ学生の履修を期待します。

1．課程カリキュラム及び修了要件

・次頁のとおり

2．DWCLAデータサイエンス・AIプログラム修了証授与対象者

・「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」を修了した全学部・学科学生（ただし，2021年度以前入学生で「コンピュータ活用」が開講されていない学科に所属していた場合，本プログラムの修了証授与に必要な科目をすべて履修することができないため，修了証の発行はできません。）

3．履修登録単位数上限

DWCLAデータサイエンス・AIプログラム履修者に対しても登録単位数の上限が通常通り適用されます。

4．修得単位について

DWCLAデータサイエンス・AIプログラム修了のために修得した単位は卒業に必要な単位としても有効になります。
また，当該プログラムを修了しなかった場合でも，修得した単位は卒業に必要な単位として有効です。
（ただし2023年度以前入学生が「コンピュータ活用」をプログラム修了のための科目として修得した場合，「コンピュータ活用」は自由選択科目であるため卒業に必要な単位としては算入されないので注意すること。）

5．「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム修了証」の授与方法

① （春学期成績公開時・秋学期成績公開時）認定科目の単位修得状況を確認する
↓※学生自身が修了要件を満たしていることを確認
② 各学期の成績開示日から1週間以内にD-PassにてPWCLAデータサイエンス・AIプログラムの「希望資格登録（資格＞希望資格登録）」を行う
↓※教務課にて修了要件を満たしているか確認
③ 「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム修了証」授与

6．証明書

教務課への申込みにより「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム修了証明書」を発行します。

DWCLAデータサイエンス・AIプログラム修了に必要な科目別単位等（2024年度以降入学生適用）

科目	科目数	単位数
「基礎」科目群	1科目以上	5科目10単位以上
「実践」科目群	1科目以上	
本プログラムに係る科目（※）		

プログラム修了に必要な科目一覧（2024年度以降入学生適用）

科目区分		選択必修	単位	選　択	単位
データサイエンス・AI科目	基礎	データサイエンス・AI基礎 データサイエンス・ICT活用基礎	2 2		
	実践			データサイエンスのためのAIプログラミング入門 データサイエンスのための統計入門 ことばのデータサイエンス 実践から学ぶAI入門	2 2 2 2
本プログラムに係る科目（※）				「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」の対象科目として選定された以下の科目 ・共通学芸科目 ・各学部学科の科目 ・同志社大学単位互換科目 ・大学コンソーシアム京都単位互換科目 ・放送大学科目　等	

（※）本プログラムに係る科目については，本学Webサイトにて確認すること。

DWCLAデータサイエンス・AIプログラム修了に必要な科目別単位（2023年度以前入学生適用）

科目	科目数	単位数
「基礎」科目群	1科目以上	5科目10単位以上
「実践」科目群	1科目以上	
本プログラムに係る科目（※）		

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態）
データサイエンス基礎	2	データサイエンス・AI基礎
コンピュータ活用	2	データサイエンス・ICT活用基礎

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。

プログラム修了に必要な科目一覧（2023年度以前入学生適用）

科目区分		選択必修	単位	選　択	単位
データサイエンス・AI科目	基礎（注1）			データサイエンス基礎（2022～2023年度入学生のみ履修可）（注2）（読替） コンピュータ活用（注3）（読替）	2 2
	実践			データサイエンスのためのAIプログラミング入門 データサイエンスのための統計入門 ことばのデータサイエンス 実践から学ぶAI入門	2 2 2 2
本プログラムに係る科目（※）				「DWCLAデータサイエンス・AIプログラム」の対象科目として選定された以下の科目 ・共通学芸科目 ・各学部学科の科目 ・同志社大学単位互換科目 ・大学コンソーシアム京都単位互換科目 ・放送大学科目　等	

（※）本プログラムに係る科目については，本学Webサイトにて確認すること。
注1）「データサイエンス基礎」は共通学芸科目区分に，「コンピュータ活用」は自由選択科目として開設されています。
注2）DWCLAデータサイエンス・AIプログラムの修了認定において，修得済の「データサイエンス基礎」（共通学芸科目区分）については，データサイエンス・AI科目区分の「基礎」科目群の科目として取り扱う。
注3）DWCLAデータサイエンス・AIプログラムの修了認定において，修得済の「コンピュータ活用」（自由選択科目）をデータサイエンス・AI科目区分の「基礎」科目群の科目として取り扱う。（ただし，本措置は「コンピュータ活用」を開講している音楽学科，社会システム学科，現代こども学科，日本語日本文学科に限る）

カリキュラム

女性アクティベーションプログラム

女性アクティベーションプログラム

本学では，学修を通して国際的視点に立って歴史や事象を客観的に俯瞰することで，自らの意思をもって社会に参画し社会をよりよく変えていける力，ゆたかな世界づくりにクリエイティブに寄与するうえで求められる基礎的能力の育成を目指し，2024年度より「女性アクティベーションプログラム」を設置します。このプログラムはあくまでも希望者に開かれているものです。自主的に学ぶ意欲を持つ学生の履修を期待します。

1．修了要件

下記QRコードよりWebサイトの「修了要件」に記載の『「女性アクティベーションプログラム」に選定された科目』より以下の単位を修得すること

科　目	単　位	
コア科目群	8 単位以上	14単位以上
学科提供科目群	4 単位以上※	

※学科提供科目は所属学部・学科以外の科目も履修可能です。

2．対象者

2024年度以降入学生（全学部・学科）

3．履修登録単位数上限

女性アクティベーションプログラム履修者に対しても登録単位数の上限が通常通り適用されます。

4．修得単位について

女性アクティベーションプログラム修了のために修得した単位は卒業に必要な単位としても有効になります。

5．「女性アクティベーションプログラム修了証」の授与方法

①（履修登録期間）認定対象科目を登録する

↓

②（春学期成績公開時）認定科目の履修状況を確認する

↓※修了要件を満たした、または秋学期の登録科目の単位が取得できれば修了要件を満たすことを確認

③（秋学期科目登録修正期間）D-Passにて女性アクティベーションプログラムの「希望資格登録（資格＞希望資格登録）」を行う

↓※教務課にて修了要件を満たしているか確認

④「女性アクティベーションプログラム修了証」授与

6．「女性アクティベーションプログラム修了証」授与について

卒業年次生以外：春学期

卒業年次生　　：卒業時

他学科科目一覧

他学科科目の内容については下記QRコードよりWebサイトにアクセスし，
「各種資料」内の「他学科科目一覧表」をご確認ください。

研究教育活動

教職課程センター

全学レベルで教職を目指す学生への様々なサポートをするため，京田辺・今出川両キャンパスに教職課程センター事務室・資料室を設置しています。

本センターでは，実践力のある教員養成を支援するとともに，教員採用試験合格に向けた指導も実施しています。具体的なサポート内容は，次のとおりです。真剣に教職に就くことを考えている学生は，是非とも教職課程センターを訪ねてください。

①教職に就くための各種相談受付と対応・指導
②最新の教員採用選考試験情報の提供
③関西を中心に過去の教員採用選考試験及び関連資料の提供
④小・中・高等学校での学校ボランティア，幼稚園・保育所（園）でのボランティアの活動申込
⑤教職課程研究会の開催

夏期休暇期間中及び春期休暇期間中に１～２日間の集中講座（教職教養，一般教養，集団討論など）を実施しています。その他，各学期期間中は，教員採用試験合格を目指す３・４年次生を対象に授業科目として「教職特別演習Ⅰ，Ⅱ」を開講しています。

学　会

現代社会学会

現代社会学会は現代社会学部の専任教員・在学生及び卒業生と大学院国際社会システム研究科の院生とで構成され，学部の教育研究の支援と会員相互の親睦を目的とします。

主な活動として，総会や公開講座・講演会・シンポジウムの開催，各種研究会（法律研究会，国際問題研究会，ライフ研究会，京都研究会，経済研究会，会計研究会，中国文化研究会，国際こども研究会，みらい・まちづくりファクトリー Team. 同女研究会，こどもふれあい研究会，国際教育支援研究会，ドイツ語研究会，教採合格ナビ研究会等）の支援，学会誌『現代社会フォーラム』・会報『flora』の刊行，学生委員会によるホームページの管理運営，奨学金の給付などを行っています。また，『flora』編集委員の学生が企画し，見学会を行っています。

諸規程

同志社女子大学学則

第１章　総　　則

（目　的）

第１条　本学は，教育基本法に基づき，学校教育法の定める大学として学術の教授研究を行うとともに，キリスト教の精神にしたがい，円満な人格を涵養し，国際的視野に立って建設的に，かつ責任をもって生活し得る女性を育成することを目的とする。

（自己点検・評価等）

第２条　本学は，その教育研究水準の向上を図り，前条の目的及び社会的使命を達成するため，文部科学大臣の定めるところにより，教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するとともに，その結果を踏まえ，教育研究活動等について不断の見直しを行う。

２　前項の点検及び評価に関する規程は，別に定める。

３　本学は，第１項の点検及び評価の結果について，政令で定める期間ごとに文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

（情報の公表）

第２条の２　本学は教育研究活動等の状況について，適切な体制を整えたうえで，刊行物への掲載，インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって，公表するものとする。

（教育研究上の目的）

第２条の３　本学は，人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部，学科又は専攻ごとに〔別表１〕のとおり定めるものとする。

（本学の性格）

第３条　本学の性格は，リベラル・アーツ（Liberal　Arts）の大学として規定する。

第２章　学部学科等の組織及び学生定員

（学部学科等の組織及び学生定員）

第４条　本学に次の学部を置く。

学芸学部，現代社会学部，薬学部，看護学部，表象文化学部，生活科学部

２　前項の各学部に置く学科，専攻及びその学生定員は次の表のとおりとする。

学　　部	学　　科　　等	入学定員	編入学定員 （第３年次）	収容定員
学芸学部	音楽学科演奏専攻	55名	—	220名
	音楽学科音楽文化専攻	60名	—	240名
	メディア創造学科	125名	—	500名
	国際教養学科	85名	—	340名
現代社会学部	社会システム学科	310名	—	1,240名
	現代こども学科	100名	—	400名
薬学部	医療薬学科	125名	—	750名
看護学部	看護学科	90名	—	360名
表象文化学部	英語英文学科	150名	—	600名
	日本語日本文学科	120名	—	480名
生活科学部	人間生活学科	90名	—	360名
	食物栄養科学科 　食物科学専攻	60名	—	240名
	食物栄養科学科 　管理栄養士専攻	80名	—	320名

（専攻科）

第４条の２　本学に音楽専攻科を置く。

２　音楽専攻科の学生定員は次のとおりとする。

音楽専攻科　入学定員　20名
　　収容定員　20名

３　音楽専攻科に関して必要な事項については，別に定める。

（大学院）

第５条　本学に大学院を置く。
２　大学院の学則は，別に定める。

第３章　学年，学期及び休業日

（学　年）
第６条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終る。
（学　期）
第７条　学年を春学期，秋学期の２学期に分ける。なお，期間については，別に定める本学の学年暦による。
２　１年間の授業は原則として35週にわたり行うものとする。ただし，定期試験等の期間を含む。
（休業日）
第８条　休業日は，次のとおりとする。
⑴　日曜日
⑵　「国民の祝日に関する法律」に定める日
⑶　創立記念日　11月29日
⑷　キリスト降誕日（クリスマス）12月25日
⑸　春期，夏期及び冬期休業に関しては，別に定める本学の学年暦による。
２　前項に規定する休業日において，必要ある場合は授業その他を行うことがある。また，休業日は臨時に定めることができる。

第４章　修業年限及び在学年限

（修業年限）
第９条　学部の修業年限は４年とする。
ただし，薬学部の修業年限は６年とする。
（在学年限）
第10条　学芸学部，現代社会学部，看護学部，表象文化学部及び生活科学部の在学年限は８年を超えることができない。
ただし，第17条の規定により編入学した学生は，４年を超えて在学することができない。
また，第17条の２の規定により転入学した学生は，６年を超えて在学することができない。
２　薬学部の在学年限は12年を超えることができない。

第５章　入　　学

（入学の時期）
第11条　入学の時期は学年の始めとする。
ただし，再入学については，学期の始めとすることができる。
（入学の資格）
第12条　本学に入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。
⑴　高等学校卒業者
⑵　中等教育学校卒業者
⑶　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により，これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
⑷　高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって，本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めたもの
⑸　大学への入学に関し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として，学校教育法施行規則第150条に規定された者
（入学の出願）
第13条　入学を志願する者は，入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて出願しなければならない。
（入学者の選考）
第14条　前条の入学志願者に対しては，学校教育法施行規則第165条の２第１項により定める方針に基づき，別に定めるところにより選考を行い，教授会の議を経て学長が合格者を決定する。
（入学手続及び入学許可）
第15条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は，所定の期日までに，本学所定の書類を提出するとともに，所定の学費を納入しなければならない。

2　学長は，前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（連帯保証人）

第16条　連帯保証人は父又は母（父母のいない者は，これにかわる親戚等）とする。連帯保証人は，当該学生在籍中，本学学費及び本学に損害を与えた場合の損害賠償等の債務につき，極度額の範囲において連帯保証しなければならない。極度額は〔別表３〕に定める当該学生が所属する学部・学科・専攻の２年次以降の学費１年分とする。

2　連帯保証人が転籍，転居したときは，直ちにその旨を届け出なければならない。連帯保証人が死亡した時又はその資格を失った時は，新たに連帯保証人を定めて届け出なければならない。

第６章　編入学・転入学・再入学及び転学部転学科等

（編入学）

第17条　編入学志願者に対しては，選考のうえ，教授会の議を経て学長が第３年次に編入学を許可する。

2　前項の規定により入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　大学に２年以上在学し，所定の単位を修得した者

⑵　短期大学又は高等専門学校を卒業した者

⑶　専修学校の専門課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし，学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

⑷　高等学校の専攻科の課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし，学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3　第１項により編入学した場合の単位の認定については，既修単位の一部又は全部について行う。

（転入学）

第17条の２　転入学志願者に対しては，選考のうえ，教授会の議を経て学長が第２年次に転入学を許可することがある。

2　前項の規定により入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　大学又は短期大学に１年以上在学し，所定の単位を修得した者

⑵　専修学校の専門課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし，学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3　第１項により転入学した場合の単位の認定については，既修単位の一部又は全部について行う。

（再入学）

第18条　再入学を志願する者に対しては，選考のうえ，教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することがある。ただし，通算して所定の在学年限を超える場合は，志願することができない。

2　前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い等については，教授会の議を経て学長が決定する。

（編入学・転入学及び再入学の入学手続等）

第19条　編入学・転入学及び再入学の入学手続等については，第13条，第15条第１項及び第16条を適用する。

（転学部・転学科等）

第20条　所属する学部学科等から他の学部学科等に転じることを志願する者に対しては，選考のうえ，教授会の議を経て学長がこれを許可することがある。

2　転学部・転学科等に関する必要事項は，別に定める。

第７章　休学・復学・退学・除籍及び留学

（休　学）

第21条　疾病その他やむを得ない事由により，休学しようとする者は，連帯保証人連署のうえ，所定の期日までに学長に願い出て，その許可を得なければならない。

2　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については，学長は休学を命ずることができる。

（休学期間及び復学）

第22条　休学期間は半年又は１年とする。

2　休学期間は，通算して２年を超えることができない。

3　休学期間は，第10条の在学年限に算入しない。

4　休学期間中にその事由が消滅した場合は，連帯保証人連署のうえ，学長に願い出て，その許可を得て学期始めから復学することができる。

（退　学）

第23条　退学しようとする者は，連帯保証人連署のうえ，学長に願い出て，その許可を得なければならない。

（除　籍）

第24条　次の各号の一に該当する者は，教授会の議を経て学長が除籍する。

⑴　第10条に定める在学年限を超えた者

⑵　学費の納入を怠り，督促してもなお納入しない者

⑶　第22条第２項に定める休学期間を超えてなお復学できない者

（留　学）

第25条　本学が定める他の大学又は短期大学で学修することを志願する者は，学長の許可を得て留学することができる。

２　前項の許可を得て留学した期間は，第９条及び第10条の定める修業年限及び在学年限に含めることができる。

留学に関する取扱いは，別に定める。

第８章　教育課程及び履修方法等

（授業科目）

第26条　各学部の教育課程は，学校教育法施行規則第165条の２第１項により定める方針に基づき編成し，〔別表１〕のとおりとする。

２　授業科目は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

３　本学は，文部科学大臣が別に定めるところにより，前項の授業を，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

４　本学は，第２項の授業を，外国において履修させることができる。前項の規定により，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても，同様とする。

（単位計算方法）

第27条　各授業科目の単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，次の基準により計算するものとする。

⑴　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験，実習，実技については，30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。ただし，芸術等の分野における個人指導による実技の授業については，本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　第１号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は，前２号に規定する基準を考慮して本学が定める。

２　前項の規定にかかわらず，卒業研究等の学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる授業科目については，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

（成績評価）

第28条　一の授業科目を履修した学生に対しては，試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果を評価する。

２　学修の成果に係る評価は100点法とし，60点以上を合格とする。また，秀，優，良，可等の評語をもって表わす。

（成績評価基準等の明示等）

第28条の２　本学は，学生に対して，授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

２　本学は，学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては，客観性及び厳格性を確保するため，学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに，当該基準にしたがって適切に行う。

（単位の授与）

第29条　授業科目を履修し，合格した者には，所定の単位を与える。

２　第26条第３項の授業の方法により修得することができる単位は60単位を超えないものとする。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修）

第30条　本学は，教育上有益と認めるときは，学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

２　前項の規定は，学生が外国の大学又は短期大学に留学した場合に準用する。

３　前２項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

第30条の２　外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を，第30条第１項及び第２項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

２　前項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

（大学以外の教育施設等における学修）

第31条　本学は，教育上有益と認めるときは，他の短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修，その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし，第30条第１項及び第２項並びに前条第１項により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えない範囲で，単位を認定することができる。

２　前項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

（入学前の既修得単位等の認定）

第32条　本学は，教育上有益と認めるときは，学生が本学入学以前に大学又は短期大学において修得した単位，及び短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修，その他文部科学大臣が別に定める学修については，本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

２　前項により修得したものとみなし，又は与えることのできる単位数は，編入学・転入学の場合を除き，本学において修得した単位以外のものについては，第30条第１項及び第２項，第30条の２第１項並びに前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

３　前２項の規定は，学生が外国の大学又は短期大学で修得した単位の場合にも準用する。

４　前３項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

（教育職員免許状の授与の所要資格取得）

第33条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める科目，及び〔別表２〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

２　本学の学部の学科において，当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は次の表のとおりとする。

学　　部	学　科　等	教　員　の　免　許　状　の　種　類
学芸学部	音楽学科 演奏専攻	中学校教諭一種免許状　（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）
	音楽学科 音楽文化専攻	中学校教諭一種免許状　（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）
	メディア創造学科	高等学校教諭一種免許状（情報）
現代社会学部	社会システム学科	中学校教諭一種免許状　（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（公民）
	現代こども学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状
表象文化学部	英語英文学科	中学校教諭一種免許状　（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状　（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
生活科学部	人間生活学科	中学校教諭一種免許状　（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科 食物科学専攻	中学校教諭一種免許状　（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	栄養教諭一種免許状

（学校図書館司書教諭の資格取得）

第33条の２　司書教諭の資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める小学校，中学校若しくは高等学校の教諭の教育職員免許状授与の所要資格を取得するために必要な単位を修得するとともに，〔別表２〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（司書の所要資格取得）

第33条の３　司書の所要資格を取得しようとする者は，図書館法及び図書館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

（博物館学芸員の資格取得）

第33条の４　博物館学芸員の資格を取得しようとする者は，博物館法及び博物館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

（栄養士免許状の授与の所要資格及び管理栄養士国家試験受験資格の取得）

第34条　栄養士の免許授与の所要資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，栄養士法及び栄養士法施行規則に定める科

目の単位を修得しなければならない。

2　管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，栄養士法及び管理栄養士学校指定規則に定める科目の単位を修得しなければならない。

（食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得）

第35条　食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表１〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（保育士の資格取得）

第35条の２　保育士の資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表１〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお，保育士養成課程の履修については別に定める。

（看護師国家試験受験資格取得）

第35条の３　看護師国家試験受験資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表１〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（保健師国家試験受験資格取得）

第35条の４　保健師国家試験受験資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表２〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお，保健師国家試験受験資格を取得するために必要な事項は，別に定める。

第９章　卒業及び学位

（卒業の要件）

第36条　本学学芸学部，現代社会学部，看護学部，表象文化学部，生活科学部を卒業するためには，４年以上在学し，〔別表１〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し，所定の単位を修得しなければならない。

2　本学薬学部を卒業するためには６年以上在学し，〔別表１〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し，所定の単位を修得しなければならない。なお，進級制限に関する基準は別に定める。

3　他学部，他学科，他専攻科目及び他の大学又は短期大学との単位互換により修得した科目の単位は，卒業必要単位に算入することができる。必要な事項については，別に定める。

（学位の授与）

第37条　本学を卒業した者には，次の区分により，学士の学位を授与する。

学　部	学　科　等	学　　位
学芸学部	音楽学科演奏専攻	学士（音楽）
	音楽学科音楽文化専攻	学士（音楽）
	メディア創造学科	学士（メディア創造）
	国際教養学科	学士（国際教養学）
現代社会学部	社会システム学科	学士（社会システム）
	現代こども学科	学士（現代社会）
薬学部	医療薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
表象文化学部	英語英文学科	学士（文学）
	日本語日本文学科	学士（文学）
生活科学部	人間生活学科	学士（生活科学）
	食物栄養科学科　食物科学専攻	学士（生活科学）
	食物栄養科学科　管理栄養士専攻	学士（生活科学）

第10章　教育研究実施組織

（教育研究実施組織）

第38条　本学に学長を置く。

2　学長は校務をつかさどり，所属教職員を統督する。

第38条の２　本学に学部長を置く。

2　学部長は学部に関する校務をつかさどる。

第38条の３　本学に教授，准教授，講師，助教及び助手を置く。

第38条の４　本学にその事務を遂行するため職員を置く。

第38条の５　本学は，教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため，教職員に必要な知識及び技能を習得させ，並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

（教員の職務）
第39条　教授，准教授，講師及び助教は，学生を教授し，その研究を指導し，又は研究に従事する。
2　教授，准教授，専任講師，助教は，授業科目の選択等に関し，アドバイザーとして学生の指導に当たるほか，課外活動の各分野に対し指導助言の責任を分担する。
（教育内容等の改善のための組織的な研修等）
第39条の2　本学は，授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第11章　教授会及び評議会

（教授会）
第40条　本学に教授会を置く。
2　教授会は教授をもって構成する。ただし，必要に応じて准教授，専任講師及び助教を加えることができる。
3　教授会は次に定める事項について審議し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
⑴　学生の入学及び卒業に関する事項
⑵　学位の授与に関する事項
⑶　前2号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
4　教授会は前項に規定するもののほか，学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し，及び学長の求めに応じ，意見を述べることができる。
（評議会）
第41条　本学に評議会を置く。
2　評議会は次の各号に掲げる評議員をもって構成する。
⑴　学長
⑵　部長，研究科長，学科主任
⑶　教授会から選出された教授6名（各学部1名）
3　評議会は学長の諮問に応じて次の事項を審議する。
⑴　重要な制度及び規則の制定改廃に関する事項
⑵　予算に関する事項
⑶　重要な施設の設置廃止に関する事項
⑷　人事に関する事項
⑸　各学部その他の連絡調整に関する事項
⑹　その他，大学の運営に関する重要事項

第12章　名誉教授

（名誉教授）
第42条　本学において多年勤務し，教育上又は学術上功績のあった者には名誉教授の称号を授与することができる。
名誉教授に関する規程は，別に定める。

第13章　賞　罰

（表　彰）
第43条　本学の学生として表彰に価する行為があった者は，教授会の議を経て，学長が表彰することができる。
（懲　戒）
第44条　本学の規則に違反し，又は学生としての本分に反する行為をした者は，教授会の議を経て学長が懲戒する。
2　前項の懲戒の種類は，退学，停学及び訓告とする。
3　前項の退学は，次の各号の一に該当する者に対して行う。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
⑵　学力が極めて劣等で成業の見込みがないと認められる者
⑶　正当な理由がなくて出席が常でない者
⑷　本学の秩序を乱し，その他学生としての本分に著しく反した者

第14章　科目等履修生・聴講生及び外国人留学生

（科目等履修生）

第45条　本学学生以外の者で，１又は複数の授業科目を履修することを志願する者に対しては，本学の教育に支障のない限りにおいて選考のうえ，科目開設学部の学部長，教務部長の承認を経て科目等履修生として学長が履修を許可することができる。

2　科目等履修生が履修した授業科目について試験その他本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価を受け合格したときには，所定の単位を与える。

3　科目等履修生に関し必要な事項は，別に定める。

（聴講生）

第46条　本学学生以外の者で，１又は複数の授業科目を聴講することを志願する者に対しては，本学の教育に支障のない限りにおいて選考のうえ，科目開設学部の学部長，教務部長の承認を経て学長が聴講を許可することができる。

2　聴講生に関し必要な事項は，別に定める。

（外国人留学生）

第47条　外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学を志願する者に対しては，選考のうえ，教授会の議を経て学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

2　外国人留学生に関し必要な事項は，別に定める。

第15章　学費及び入学検定料

（学費の納入）

第48条　学生は，〔別表３〕に定める学費を指定期日までに納入しなければならない。ただし，別に定めるところにより分納することができる。

2　休学期間中は，休学在籍料のみを納入するものとする。

3　既に納入した学費は返還しない。ただし，指定期日までに入学手続の取消を願い出た者については，入学金を除く学費を返還することがある。

（学費の延納）

第49条　正当な事由により，学費を延納しなければならなくなった場合は，直ちにその旨を届け出て許可を得なければならない。

（学費の完納）

第50条　所定の学費を完納しなければ，卒業することができない。

（退学・停学の場合の学費）

第51条　学期の中途で退学する者の当該学期分の学費は全額徴収する。

2　停学期間中の学費は全額徴収する。

（入学検定料）

第52条　本学の入学検定料は，〔別表４〕のとおりとする。

第16章　附属施設

（研究教育施設）

第53条　本学は，図書館等必要な研究教育施設を置く。

2　各研究教育施設の規則は，別に定める。

（学　寮）

第54条　本学に学寮を置く。

2　学寮に関する規則は，別に定める。

（厚生施設）

第55条　本学は，保健室等必要な厚生施設を置く。

第17章　公開講座

（公開講座）

第56条　学生及び社会人の教養を高め，文化の向上に資するため，本学に公開講座を開設することができる。

附　　則

本学則は2002（平成14）年４月１日からこれを適用する。

本学学芸学部英文学科は，改正後の学則第４条の規定にかかわらず1994（平成６）年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

本学家政学部家政学科，食物学科食物学専攻及び食物学科管理栄養士専攻は，改正後の学則第４条の規定にかかわらず1995（平成７）年3月31日に当該学部等に在学する者が当該学部等に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

2000（平成12）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１―2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１―２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

第４条の規定にかかわらず，1992（平成４）年度から1999（平成11）年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学　　部	学　科　等	入学定員 （1992（平成４）年度～ 1997（平成９）年度）	入学定員 （1998（平成10）年度～ 1999（平成11）年度）
学芸学部	英語英文学科	300名	300名
	日本語日本文学科	150	150
	音楽学科演奏専攻	85	85
	音楽学科音楽文化専攻	45	45
生活科学部	人間生活学科	100	100
	食物栄養科学科食物科学専攻	90	70
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	60	80
計		830	830

第４条の規定にかかわらず，2000（平成12）年度から2004（平成16）年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学　　部	学　科　等	入　学　定　員				
		2000 (平成12)年度	2001 (平成13)年度	2002 (平成14)年度	2003 (平成15)年度	2004 (平成16)年度
学芸学部	英語英文学科	295名	290名	210名	205名	200名
	日本語日本文学科	187	184	136	133	130
	音楽学科演奏専攻	89	85	82	78	75
	音楽学科音楽文化専攻	46	45	43	42	40
現代社会学部	社会システム学科	400	400	400	400	400
生活科学部	人間生活学科	96	92	88	84	80
	食物栄養科学科食物科学専攻	67	64	61	58	55
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	80	80	80	80	80

第７条第１項の規定にかかわらず，2002（平成14）年度については，次のとおりとする。

春学期　４月１日から９月29日まで

秋学期　９月30日から翌年３月31日まで

附　　則

本学則は2003（平成15）年４月１日からこれを適用する。

第７条第１項の規定にかかわらず，2003（平成15）年度については，次のとおりとする。

春学期　４月１日から９月28日まで

秋学期　９月29日から翌年３月31日まで

〔別表１〕の規定にかかわらず，生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻に2001（平成13）年度以前に入学した学生の教育課程及び履修方法は，従前の学則によるものとする。

2003（平成15）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。ただし，休学在籍料については，2003（平成15）年度以降在学の学生に適用する。

附　　則

本学則は2004（平成16）年４月１日からこれを適用する。

2004（平成16）年３月31日において，本学に在籍する者の学習の評価に関しては，改正後の学則第28条第２項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2005（平成17）年４月１日からこれを適用する。

2005（平成17）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2006（平成18）年４月１日からこれを適用する。

2006（平成18）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

2006（平成18）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2007（平成19）年４月１日からこれを適用する。

2007（平成19）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

2007（平成19）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2008（平成20）年４月１日からこれを適用する。

2008（平成20）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2009（平成21）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2009（平成21）年度入学生から適用し，2008（平成20）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2010（平成22）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2010（平成22）年度入学生から適用し，2009（平成21）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2011（平成23）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2011（平成23）年度入学生から適用し，2010（平成22）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2012（平成24）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2012（平成24）年度入学生から適用し，2011（平成23）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2013（平成25）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2013（平成25）年度入学生から適用し，2012（平成24）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2014（平成26）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2014（平成26）年度入学生から適用し，2013（平成25）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　則

本学則は2015（平成27）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2015（平成27）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2016（平成28）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2016（平成28）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2017（平成29）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2017（平成29）年度入学生から適用し，2016（平成28）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2018（平成30）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2018（平成30）年度入学生から適用し，2017（平成29）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

第４条第２項，第33条第２項及び第37条は，学芸学部情報メディア学科の学芸学部メディア創造学科への名称変更により改正・施行する。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2019（平成31）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2019（平成31）年度入学生から適用し，2018（平成30）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2019（平成31）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2020（令和２）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2020（令和２）年度入学生から適用し，2019（令和元）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2020（令和２）年９月１日からこれを適用する。

2018（平成30）年度及び2019（令和元）年度入学生のうち，2020（令和２）年度において，別に定める国際教養留学の前提条件を満たす者の教育課程の取扱いに関しては，学則第26条第１項のほか，［別表１－３］に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2021（令和３）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2021（令和３）年度入学生から適用し，2020（令和２）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2021（令和３）年９月１日からこれを適用する。

2019（令和元）年度及び2020（令和２）年度入学生のうち，2021（令和３）年度において，別に定める国際教養留学の前提条件を満たす者の教育課程の取扱いに関しては，学則第26条第１項のほか，［別表１－３］に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2022（令和４）年４月１日からこれを適用する。

学則第16条に定める連帯保証人は，2022（令和４）年度入学生から適用し，2021（令和３）年度以前の入学生は，従前の学則による

ものとする。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2022（令和４）年度入学生から適用し，2021（令和３）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2022（令和４）年９月１日からこれを適用する。

2020（令和２）年度及び2021（令和３）年度入学生のうち，2022（令和４）年度において，別に定める国際教養留学の前提条件を満たす者の教育課程の取扱いに関しては，学則第26条第１項のほか，[別表１－４] に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2023（令和５）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2023（令和５）年度入学生から適用し，2022（令和４）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2024（令和６）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては，2024（令和６）年度入学生から適用し，2023（令和５）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2024（令和６）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2025（令和７）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第1項及び第33条第1項に定める教育課程の取扱いについては，2025（令和７）年度入学生から適用し，2024（令和６）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2026（令和８）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2026（令和８）年度入学生から適用し，2025（令和７）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

1949（昭和24）年２月21日　文部省認可

同志社女子大学学位規則

（目　的）

第１条　この規則は，学校教育法第104条及び学位規則（昭和28年文部省令第９号）の定めるところにより同志社女子大学（以下「本学」という。）が，授与する学位についての必要事項を定めるものとする。

（学　位）

第２条　本学において授与する学位は学士，修士及び博士とする。学士の学位は次の区分による。

学士の学位……学士（音楽，メディア創造，国際教養学，社会システム，現代社会，薬学，看護学，文学，生活科学）

２　前項に定める修士及び博士の学位は，次の区分による。

修士の学位……修士（英語英文学，日本語日本文化，情報文化，国際社会システム，看護学，生活デザイン，食物栄養科学）

博士の学位……博士（英語英文学，日本語日本文化，薬学，看護学）

（学位授与の要件）

第３条　学士の学位は本学学部を卒業した者に授与する。

第４条　修士の学位は本大学院の修士課程又は博士課程（前期）を修了した者に授与する。

第５条　博士の学位は本大学院の博士課程（後期）及び博士課程を修了した者に授与する。

２　本大学院学則第14条第２項の定めるところにより，博士の学位は前項に規定する者のほか，本学に博士論文を提出してその審査に合格し，かつ本大学院の博士課程（後期）及び博士課程修了者と同等以上の学力があると認められたときは授与することができる。

（学位論文の提出）

第６条　修士又は博士論文（以下「学位論文」という）を提出しようとする者は，学位論文の研究課題を各研究科によって定められた期日までに所定の様式により研究科長に提出し，その承認を得なければならない。

２　所定の学費が未納の場合は，学位論文を提出することができない。

３　修士論文は，在学中に提出しなければならない。

４　博士論文は，退学後も提出できるものとする。

第７条　学位論文は，各研究科所定の用紙を用い，学年暦に示された期日までに研究科長に提出しなければならない。ただし，第５条第２項による博士論文提出者はこの限りではない。

２　学位論文は３部提出し，それぞれに要旨及び提出者の写真を添付しなければならない。

３　第５条第２項により博士の学位を申請する者は，学位申請書に博士論文３部，博士論文の要旨，参考文献，履歴書と別表に定める審査手数料を添えて審査にあたる研究科委員会を通じて学長に提出するものとする。

４　本大学院学則第11条第３項，第４項に定める期間以上（前期２年の課程又は修士課程を含む）本大学院に在学し所定の単位を修め，必要な研究指導をうけた上で退学した者が博士の学位を申請した場合は前項の規定による。

（学位論文の審査及び最終試験）

第８条　修士論文の審査及び最終試験は在学中に終了するものとする。

２　博士論文の審査は，論文を受理してから原則として１年以内に終了するものとする。

第９条　学位論文の審査は，研究科委員会の定める審査委員会がこれを行う。

２　審査委員会は，修士論文審査の場合は主査１名及び副査１名をもって構成する。

３　審査委員会は，博士論文審査の場合は主査１名及び副査２名をもって構成する。

４　研究科委員会は，審査のため必要と認めたときは，当該研究科教員以外の教員又は学外の大学院・研究所等の教員等を審査委員とすることができる。

第10条　審査委員会は学位論文審査及び最終試験を行う。

２　修士の学位の授与に係る最終試験は修士論文を中心とし，これに関連する科目について行う。この試験は口頭試問とする。ただし筆答試験を併せ行うことができる。

３　博士の学位の授与に係る最終試験は博士論文を中心とし，これに関連する科目［外国語（英，仏，独，又は羅）を含めることができる］について行う。

第11条　研究科委員会は，審査委員の報告に基づき，本大学院学則の定めるところにより課程修了の可否，学位論文及び最終試験の合否について議決する。

2　前項の議決は，研究科教授の3分の2以上の出席を必要とし，出席者の4分の3以上の賛成がなければならない。

第12条　研究科委員会が前条の議決をしたときは，研究科長は，学位論文の内容，最終試験の結果，学位授与の可否についての意見を添えて，学長に報告しなければならない。

（学位論文の審査の協力）

第13条　前条の学位の授与に係る学位論文の審査に当っては，他の大学院又は，研究所等の教員の協力を得ることができる。

（学位授与の決定）

第14条　修士又は博士の学位の授与については，学長は，第12条の報告に基づいて大学院委員会を招集し，その審議を経て可否を決定する。

2　学士の学位の授与については，学長は，教授会の議を経て可否を決定する。

（学位授与式）

第15条　学位授与の時期は3月と9月とする。

（博士論文要旨等の公表）

第16条　本学は，博士の学位を授与したときは，当該博士の学位を授与した日から3月以内に，当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を，インターネットの利用により公表するものとする。

（博士論文の公表）

第17条　博士の学位を授与された者は，当該博士の学位を授与された日から1年以内に，当該博士の学位の授与に係る論文の全文を，インターネットの利用により公表するものとする。ただし，当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは，この限りでない。

2　前項の規定にかかわらず，博士の学位を授与された者は，やむを得ない事由がある場合には，大学院委員会の承認を受けて，当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合において，本学は，その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3　博士の学位を授与された者が行う前条及び前2項の規定によるインターネットの利用による公表は，同志社女子大学学術リポジトリにより行うものとする。

（博士論文の報告）

第18条　博士の学位を授与したときは，学位を授与した日から3月以内に別記様式により文部科学大臣に報告するものとする。

（学位論文の保管）

第19条　審査に合格した学位論文は，本大学院において製本・保管する。

2　これにかかる費用は，学位論文提出者において負担する。

（学位の取消）

第20条　不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは，既に授与した学位を取消すものとする。

学位の授与を受けた者が，その名誉を汚辱する行為があったときは，その学位を取消すことができる。

（その他）

第21条　この規則以外のことは，各研究科の定めるところによる。

附　則

本規則は，2004（平成16）年4月1日からこれを適用する。

修士・博士の学位……修士（英文学）・博士（英文学）は改正後の学位規則第2条第2項の規定にかかわらず1998（平成10）年3月31日文学研究科英文学専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

学士の学位……学士（家政学）は改正後の学位規則第2条第1項の規定にかかわらず1995（平成7）年3月31日家政学部に在学する者が当該学部に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

附　則

本規則は，2005（平成17）年4月1日からこれを適用する。

附　則

本規則は，2007（平成19）年4月1日からこれを適用する。

第6条に関する取扱いに関しては，2007年度第1年次入学生から適用し，2006年度以前の入学生については，従前の学位規則による。

附　則

本規則は，2008（平成20）年4月1日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2009（平成21）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2012（平成24）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2013（平成25）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2015（平成27）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2018（平成30）年４月１日からこれを適用する。

学士の学位……学士（情報メディア）は改正後の学位規則第２条第１項の規定にかかわらず2018（平成30）年３月31日学芸学部情報メディア学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

附　　則

本規則は，2020（令和２）年４月１日からこれを適用する。

〈別　表〉博士の学位審査手数料

１．博士課程（後期）に３年以上在学又は博士課程に４年以上在学し，所定の研究指導を受けた者で退学後３年未満の期間内に博士論文を提出する者 …… 25,000円

１．博士課程（後期）に３年以上在学又は博士課程に４年以上在学し，所定の研究指導を受けた者で退学後３年以上経過した後博士論文を提出する者 …… 50,000円

１．論文提出による者 …… 50,000円

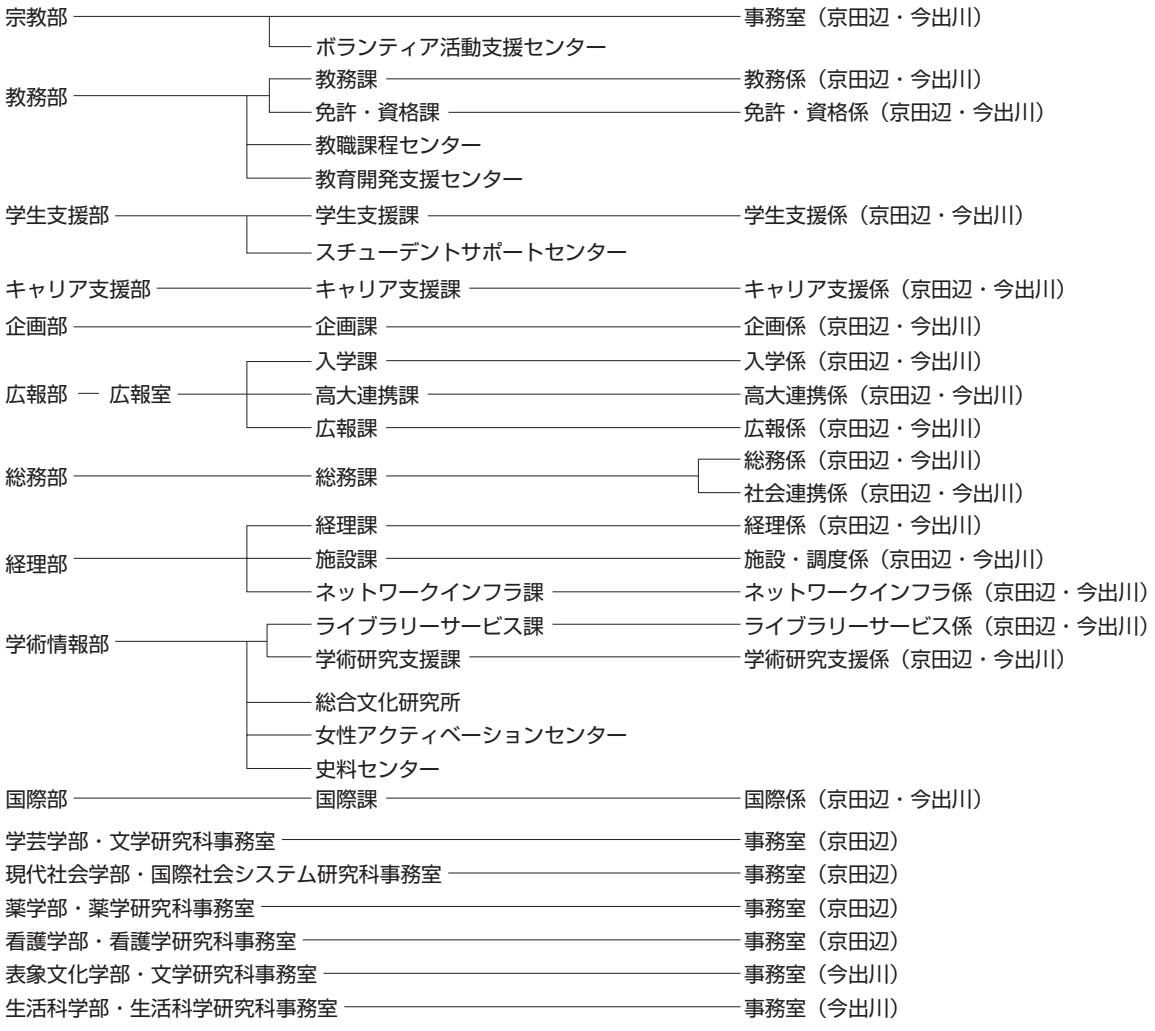
博士課程（後期）又は博士課程在籍者及び在籍中に博士論文を提出し退学した者は審査料不要

その他

同志社女子大学組織



同志社女子大学事務機構



事　務　室　一　覧

場所					窓口受付時間
京田辺キャンパス	宗教部	宗教部事務室	新島記念講堂	1階	平日　9:00～17:00 （休憩　11:30～12:30） 土曜日は休務
		ボランティア活動支援センター			
	教務部	教務課	友和館	2階	
		体育事務室	恵真館	1階	
		免許・資格課	友和館	2階	
		教職課程センター	聡恵館	5階	
		教育開発支援センター	友和館	2階	
	学生支援部	学生支援課	友和館	1階	
		保健室※	友和館	1階	
		スチューデントサポートセンター	友和館	1階	
	キャリア支援部	キャリア支援課	知徳館8号棟	1階	
	企画部	企画課	知徳館1号棟	1階	
	広報部	入学課	知徳館2号棟	1階	
		高大連携課	知徳館2号棟	1階	
		広報課	知徳館2号棟	1階	
	総務部	総務課	知徳館1号棟	1階	
	経理部	経理課	知徳館5号棟	1階	
		施設課	知徳館5号棟	1階	
		ネットワークインフラ課	知徳館2号棟	3階	
	学術情報部	ライブラリーサービス課	聡恵館	1・2階	平日　8:50～20:00，土曜日　9:50～17:00 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00，土曜日は閉館）
		図書館			
		音楽文献室			平日　8:50～19:00，土曜日は休務 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00）
		ＡＶライブラリー			
		学術研究支援課	知徳館5号棟	2階	平日　9:00～17:00 （休憩　11:30～12:30） 土曜日は休務
	国際部	国際課	聡恵館	2階	
	学部・研究科事務室	学芸学部　音楽学科	頌啓館	1階	
		学芸学部　メディア創造学科	知徳館1号棟	2階	
		学芸学部　国際教養学科	知徳館1号棟	2階	
		現代社会学部	知徳館1号棟	2階	
		薬学部	憩水館	1階	
		看護学部	蒼苑館	2階	
		文学研究科	知徳館1号棟	2階	
		国際社会システム研究科	知徳館1号棟	2階	
		薬学研究科	憩水館	1階	
		看護学研究科	蒼苑館	2階	
今出川キャンパス	宗教部	宗教部事務室	栄光館	1階	
		ボランティア活動支援センター			
	教務部	教務課	頌美館	2階	
		体育事務室	純正館	地下1階	
		免許・資格課	頌美館	2階	
		教職課程センター	楽真館	1階	
		教育開発支援センター	頌美館	2階	
	学生支援部	学生支援課	頌美館	1階	
		保健室※	心和館	1階	
		スチューデントサポートセンター	心和館	1階	
	キャリア支援部	キャリア支援課	頌美館	1階	
	企画部	企画課	心和館	1階	
	広報部	入学課	ジェームズ館	1階	
		高大連携課	ジェームズ館	1階	
		広報課	ジェームズ館	1階	
	総務部	総務課	栄光館	1階	
	経理部	経理課	心和館	1階	
		施設課	心和館	1階	
		ネットワークインフラ課	純正館	2階	
	学術情報部	ライブラリーサービス課	図書館		平日　8:50～20:00，土曜日　9:50～17:00 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00，土曜日は閉館）
		図書館			
		AV ライブラリー			平日　8:50～20:00，土曜日　9:50～16:30 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00，土曜日は閉館）
		学術研究支援課	デントン館	1階	平日　9:00～17:00 （休憩　11:30～12:30） 土曜日は休務
	国際部	国際課	楽真館	1階	
	学部・研究科事務室	表象文化学部	デントン館	1階	
		生活科学部	新心館	1階	
		文学研究科	デントン館	1階	
		生活科学研究科	新心館	1階	

注）休暇期間中や，特別の事情がある場合には時間が変更されることがありますので，注意してください。
土曜日は年間を通じて一部の事務室を除き休務となります。また，日曜日・国民の祝日のほか，創立記念日（11月29日），クリスマス（12月25日）も休務となります。

キャンパスガイド
京田辺キャンパス

▶アルファベットは各館の略号を表します

友和館……Y
創立125周年記念事業の一環として建設。地上4階，地下1階建の建物で，大時計を備えた尖塔を有します。ゆったりとした格調高いラウンジ，眺望の良い食堂，多目的スペース，課外活動のための諸施設，キャンパスストア，ブックストア，事務室等があります。

知徳館……C
キャンパスの中央に位置する，4階建7棟続きの本学でもっとも大きな建物。講義，演習室を中心に，研究室，ラウンジ，事務室等があります。

頌啓館……K
4階建の音楽棟。34室のレッスン室，55室の練習室をはじめ演習室，分奏室，アンサンブル室などがあります。東京のサントリーホールを手がけた建築事務所の設計によるホールでは，素晴らしい音響効果のなか，演奏会等が行われています。

聡恵館……T
1階と2階は東館と西館がつながった形の図書館とラーニング・コモンズ，国際交流施設。学生の能動的学修の拠点。東館2～4階が講義室・事務室，5階は研究室・ラウンジ，6階は研究室・演習室が配置されています。西館の3階・4階は講義室および演習室がならび，5階には教職課程センターや演習室，実習室があります。

恵愛館……A
ウインクルムの庭中央に位置し，緑に囲まれ，多様な家具が配置された風格ある食堂。

恵真館（体育館）……G
3階建，一部地下式の体育館。メインアリーナを中心に卓球室，格技ダンス室，トレーニング室，測定室，リハビリテーション室等があります。また，体育系・文化系のクラブボックスも設けられています。

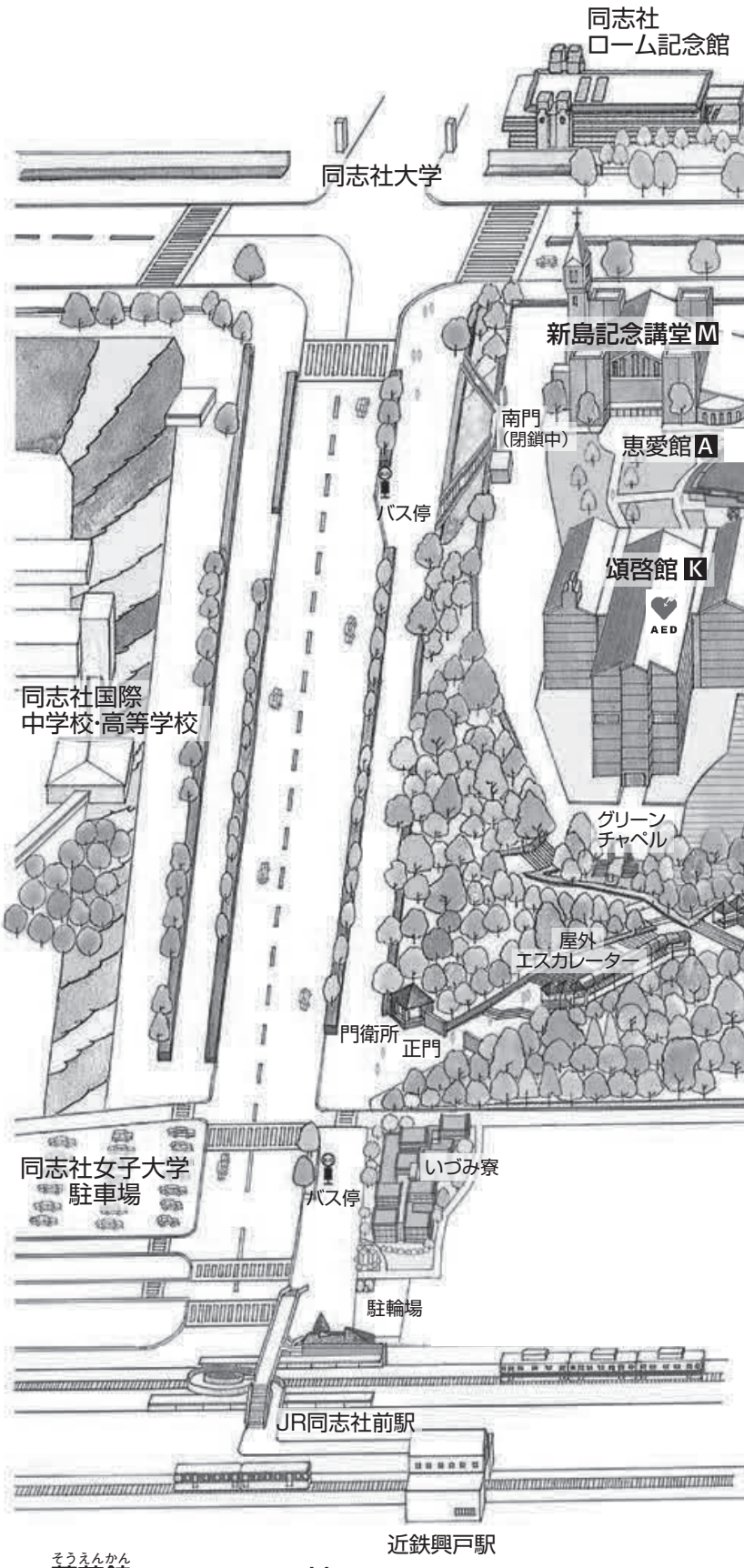
新島記念講堂……M
同志社創立111周年寄付により1988年秋に建設された，法人全体の共通施設。カリヨンベルを備えた尖塔には十字架がそびえ，象徴的な建物となっています。内部には，パイプオルガンが設置された約900名収容の大ホール，小礼拝堂，瞑想室，宗教部事務室等があり，毎日の礼拝をはじめ各種行事が催されます。

憩水館……W
薬学部の実験実習棟。地上6階，地下1階建の建物で，地階には動物実験室，共同機器室，地上階には実習室，研究室を中心にラウンジ，事務室等があります。

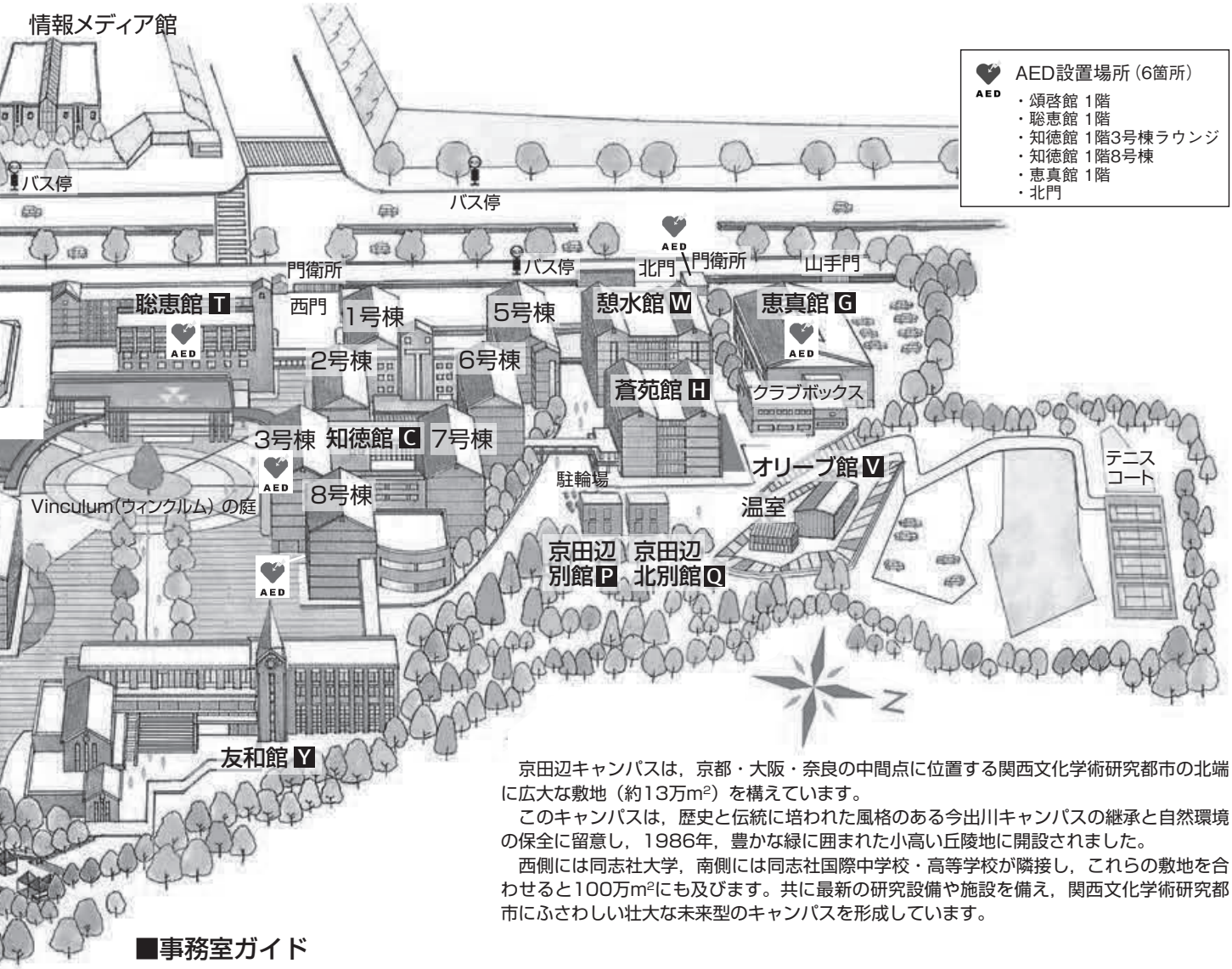
オリーブ館……V
薬用植物園管理棟となっています。

京田辺別館……P
教職課程ピアノ練習室・工作室が配置されています。

京田辺北別館……Q
メディア創造学科のプロジェクトルーム・工作室が配置されています。



蒼苑館……H
5階建の看護学部棟。基礎看護学，成人看護学，ウイメンズヘルス・小児・精神看護学，高齢者・在宅・公衆衛生看護学の各実習室を設置し，医療現場での臨地実習と直結した学びが可能となります。また，ラーニングラウンジなども設け，ゆとりを持った学修が可能です。さらには，看護学部と既設の薬学部との連携を視野に入れて，薬学部関連の設備や，看護学部と薬学部との教育・研究の連携促進のための共同研究室なども設置しています。



京田辺キャンパスは，京都・大阪・奈良の中間点に位置する関西文化学術研究都市の北端に広大な敷地（約13万m²）を構えています。

このキャンパスは，歴史と伝統に培われた風格のある今出川キャンパスの継承と自然環境の保全に留意し，1986年，豊かな緑に囲まれた小高い丘陵地に開設されました。

西側には同志社大学，南側には同志社国際中学校・高等学校が隣接し，これらの敷地を合わせると100万m²にも及びます。共に最新の研究設備や施設を備え，関西文化学術研究都市にふさわしい壮大な未来型のキャンパスを形成しています。

■事務室ガイド

部課名		建物各階	窓口受付時間	その他の主な施設
教務部	教務課	友和館 2階	平日 9:00～17:00 （休憩 11:30～12:30） 土曜日は休務	ラーニング・コモンズ―聡恵館 1館 情報処理自習室―知徳館 2号棟 2階，知徳館 7号棟 2階，知徳館 2号棟 3階 メディアサポートセンター―知徳館 6号棟 1階 キャリア支援部資料室―知徳館 8号棟 1階 宗教センター・小礼拝堂・瞑想室―新島記念講堂 1階 恵愛館デリカフェレストラン（かりん）―恵愛館 友和館食堂（えんじゅ）―友和館 3階 友和館カフェテリア（オリーブ）―友和館 4階 聡恵館ラーニング・コモンズカフェ―聡恵館 1館 友和館ブックストア（クローバー）―友和館 2階 友和館キャンパスストア（コスモス）―友和館 3階 コンビニエンスストア―知徳館 2号棟・6号棟間 ラウンジ―友和館 1階（ヒバードホール） 聡恵館 2階（グローバルラウンジ） 知徳館 3号棟 1・3階，1号棟 2階 恵真館 1階 憩水館 1階 蒼苑館 2階，3階 聡恵館 5階 卒業生ルーム―友和館 3階 学生会室―友和館地下 1階 クラブボックス（宗教部・文化部）―恵真館 2階 友和館地下 1階 クラブボックス（体育会）―恵真館地下 1階・1階
	免許・資格課	友和館 2階		
	教職課程センター	聡恵館 5階		
	体育事務室	恵真館 1階		
学生支援部	学生支援課	友和館 1階		
	保健室	友和館 1階		
	スチューデントサポートセンター	友和館 1階		
キャリア支援部	キャリア支援課	知徳館 8号棟 1階		
宗教部	宗教部事務室 ボランティア活動支援センター	新島記念講堂 1階		
国際部	国際課	聡恵館 2階		
学術情報部	学術研究支援課	知徳館 5号棟 2階		
	ライブラリーサービス課 図書館	聡恵館 1・2階	平日 8:50～20:00，土曜日 9:50～17:00 （授業・定期試験期間以外の平日は 8:50～17:00，土曜日は閉館）	
	ライブラリーサービス課 音楽文献室	聡恵館 1階	平日 8:50～19:00，土曜日は休務 （授業・定期試験期間以外の平日は 8:50～17:00）	
	ライブラリーサービス課 AVライブラリー	聡恵館 1階		
学芸学部・文学研究科事務室	音楽学科	頌啓館 1階	平日 9:00～17:00 （休憩 11:30～12:30） 土曜日は休務	
	メディア創造学科	知徳館 1号棟 2階		
	国際教養学科	知徳館 1号棟 2階		
現代社会学部・国際社会システム研究科事務室		知徳館 1号棟 2階		
薬学部・薬学研究科事務室		憩水館 1階		
看護学部・看護学研究科事務室		蒼苑館 2階		
総務部	総務課	知徳館 1号棟 1階		
経理部	経理課	知徳館 5号棟 1階		
	施設課	知徳館 5号棟 1階		
	ネットワークインフラ課	知徳館 2号棟 3階		
企画部	企画課	知徳館 1号棟 1階		
広報部	入学課	知徳館 2号棟 1階		
	高大連携課	知徳館 2号棟 1階		
	広報課	知徳館 2号棟 1階		

注）休暇期間中や，特別の事情がある場合には時間が変更されることがありますので，注意してください。
土曜日は年間を通じて一部の事務室を除き休務となります。また，日曜日・国民の祝日のほか，創立記念日（11月29日），クリスマス（12月25日）も休務となります。

キャンパスガイド
今出川キャンパス

▶アルファベットは各館の略号を表します

栄光館（えいこうかん） 登録文化財 …… E

1932年（昭和7年）デントン先生と知友のファウラー家の寄付を基金に同窓会の醸金，同志社の三者によって建てられた本学の象徴的な建物。著名な建築家，武田五一の設計。約1,600人収容できるファウラーチャペル（講堂），瞑想室，事務室等があり，講堂にはカナダ・カサバン社製のパイプオルガンが設置されています。毎日の礼拝をはじめ，入学式，卒業式，創立記念行事，キャンドルライトサービス等が行われます。

ジェームズ館（かん） 登録文化財 …… J

1914年（大正3年）デントン先生の知人であるジェームズ家の財政的援助をうけて建てられたレンガ造2階建の本学で最も古い建物。栄光館同様，武田五一の設計。事務室や講義演習室が配置されており，在学生のラウンジ等も備えるコミュニティセンターとなっています。

デントン館（かん）…… D

永年にわたり本学に多大なる貢献をされたメアリー・フローレンス・デントン先生を記念し，デントン先生と友好関係にあったジェームズ財団の援助をうけ建設された建物。表象文化学部関連の施設，事務室等があります。

心和館（しんわかん）…… N

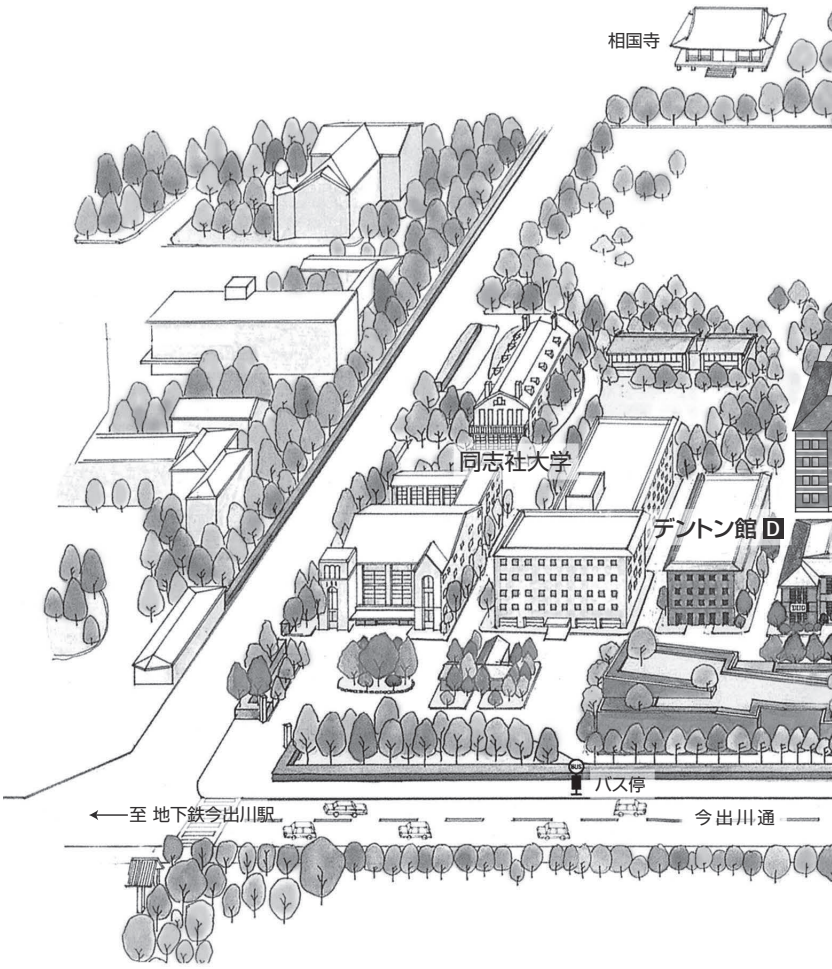
2階建，地下1階の建物。地階に食堂，キャンパスストア，地上階にラウンジ，課外活動関連施設，保健室，事務室等があります。

頌美館（しょうびかん）…… B

2階建，地下1階の建物。事務棟として機能しています。

図書館（としょかん）…… L

わが国でも珍しい地下式図書館。屋上には芝生が一面に張り巡らされていて，キャンパス全体の景観を損なわないよう配慮されています。座席数180席，蔵書数約19万3千冊を有します。



純正館（じゅんせいかん） …… S

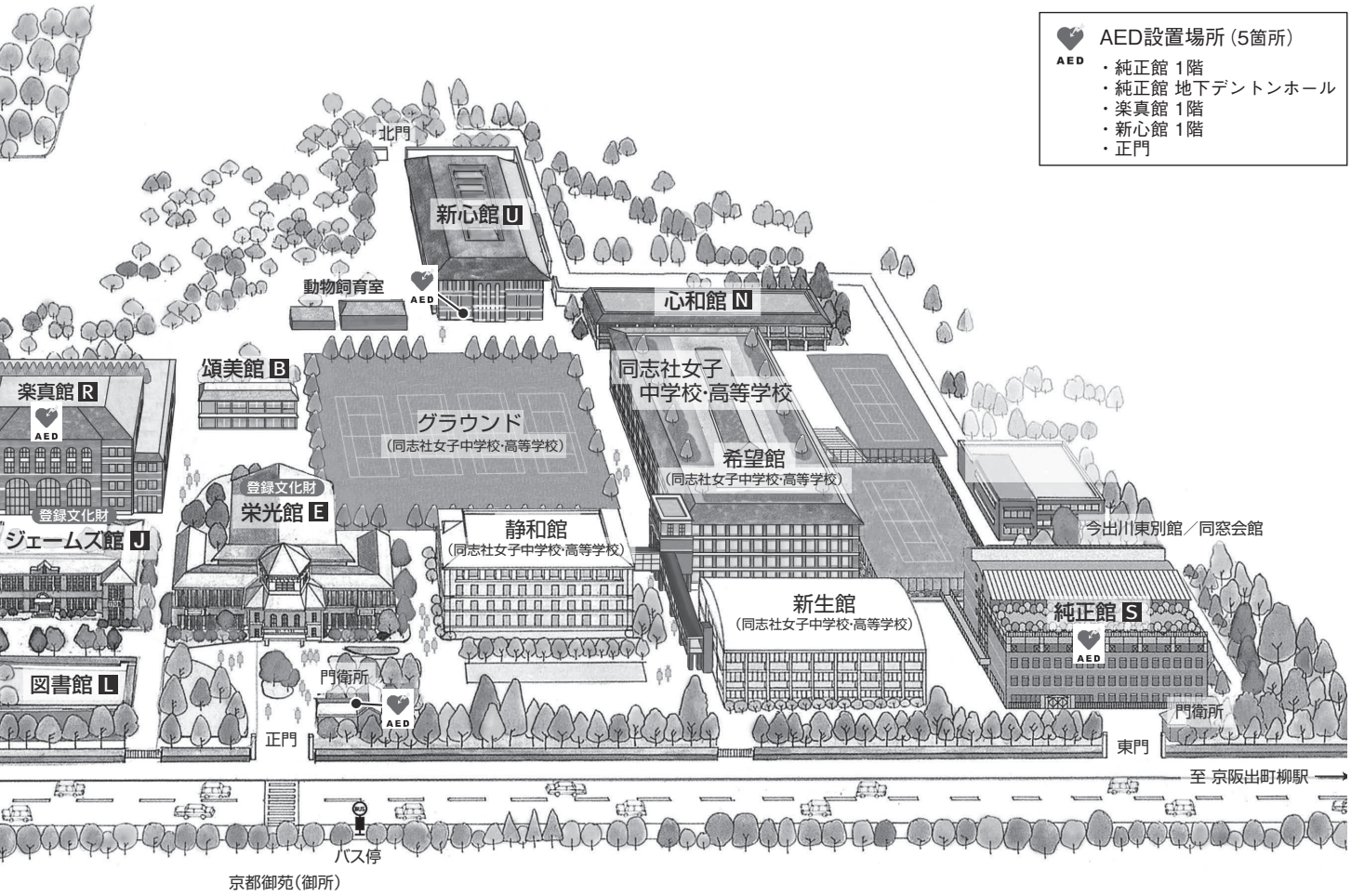
南側に地上5階，地下1階建の教室棟（講義室，情報処理室，演習室，事務室等），北側に地下通路でつながる半地下の多目的施設（アリーナ，ホール，トレーニングルーム等）が配置され，最上階には屋上庭園やアカデミックラウンジ，パソコンカフェを設置しています。

新心館（しんしんかん）…… U

3階建，地下1階の建物。食物栄養科学科関連の施設が配置されています。

楽真館（らくしんかん）…… R

4階建，地下1階の建物。ラーニング・コモンズ，国際交流関連の施設に加えて，講義室，演習室，人間生活学科関連の施設，事務室等が設けられており，学生の能動的な学修の拠点となっています。



同志社の歴史は，1875年校祖新島襄によって開設された同志社英学校に始まります。その翌年の1876年には，同志社女子大学の前身となる女子塾が京都御苑内に設立されました。現在の本学今出川キャンパスはその京都御苑の北側に位置し，西側には同志社大学，北側には相国寺があり，緑と文化と歴史・伝統に囲まれたキャンパスです。

キャンパスの建物はレンガ調に統一されており，キリスト教に根ざした，おごそかな雰囲気がかもし出されています。

■事務室ガイド

部課名		建物各階	窓口受付時間	その他の主な施設
教務部	教務課	頌美館 2階	平日 9:00～17:00 （休憩 11:30～12:30） 土曜日は休務	ラーニング・コモンズ―楽真館 1・2階 グローバルラウンジ―楽真館 1階 ラーニング・コモンズカフェ―楽真館 1階 情報処理自習室―純正館 2階 キャリア支援部資料室―頌美館地下 1階 宗教センター―栄光館 2階 小礼拝堂・瞑想室―栄光館 3階 史料センター―ジェームズ館 1階 心和館カフェテリア（VERA）―心和館地下 1階 心和館ブックストア―心和館地下 1階 心和館キャンパスストア―心和館地下 1階 ラウンジ―ジェームズ館 1階，デントン館 1階，純正館 5階 心和館 1・2階 学生会室―心和館 2階 EVE 本部―心和館 2階 クラブボックス―心和館 1・2階
	免許・資格課	頌美館 2階		
	体育事務室	純正館地下 1階		
学生支援部	学生支援課	頌美館 1階		
	保健室	心和館 1階		
	スチューデントサポートセンター	心和館 1階		
キャリア支援部	キャリア支援課	頌美館 1階		
宗教部	宗教部事務室 ボランティア活動支援センター	栄光館 1階		
国際部	国際課	楽真館 1階		
学術情報部	学術研究支援課	デントン館 1階		
	ライブラリーサービス課 図書館	図書館	平日 8:50～20:00，土曜日 9:50～17:00 （授業・定期試験期間以外の平日は 8:50～17:00，土曜日は閉館）	
	ライブラリーサービス課 AVライブラリー		平日 8:50～20:00，土曜日 9:50～16:30 （授業・定期試験期間以外の平日は 8:50～17:00，土曜日は閉館）	
表象文化学部・文学研究科事務室		デントン館 1階	平日 9:00～17:00 （休憩 11:30～12:30） 土曜日は休務	
生活科学部・生活科学研究科事務室		新心館 1階		
総務部	総務課	栄光館 1階		
経理部	経理課	心和館 1階		
	施設課	心和館 1階		
	ネットワークインフラ課	純正館 2階		
企画部	企画課	心和館 1階		
	入学課	ジェームズ館 1階		
広報部	高大連携課	ジェームズ館 1階		
	広報課	ジェームズ館 1階		

注）休暇期間中や，特別の事情がある場合には時間が変更されることがありますので，注意してください。
土曜日は年間を通じて一部の事務室を除き休務となります。また，日曜日・国民の祝日のほか，創立記念日（11月29日），クリスマス（12月25日）も休務となります。

交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講について

◎交通機関不通による休講

対象となる交通機関（イ）が，（ロ）の状況の場合は，（ハ）の通り休講となります。

（イ）対象となる交通機関	（ロ）状況
・近鉄電車（京都～奈良間，西大寺～難波間） ・阪急電車（河原町～梅田間） ・京阪電車（出町柳～淀屋橋間） ・ＪＲ東海道線（米原～神戸間） ・ＪＲ学研都市線（京橋～木津間）	左記の２以上の交通機関が全面・部分を問わず同時に不通の場合。
・京都市営バス及び地下鉄 ・近鉄電車（京都～奈良間，西大寺～難波間）	左記の２系統の交通機関のどちらかが単独で全面不通の場合。

＊事故等による一時的な運転見合せは，２系統で重なっても平常通り授業・試験を実施します。

（ハ）

午前６時30分現在不通の場合	Ⅰ，Ⅱ講時休講　※１
午前６時30分以降に不通になった場合	不通になった時刻以降休講　※１

※１ただし，いずれの場合も，午前10時30分までに開通した場合は，Ⅲ講時以降授業を行います。

◎気象警報等発令による休講

対象となる気象警報等（イ）が，（ロ）に発令された場合は，（ハ）の通り休講となります。

（イ）対象となる警報	（ロ）発令地域
暴風警報（暴風を含む警報は，すべて対象とする。） 特別警報（すべてを対象とする。）※２	京都府南部 （「京都・亀岡」「山城中部」「山城南部」「南丹・京丹波」のいずれかに発令された場合を含む） 大阪府 （「大阪市」「北大阪」「東部大阪」「南河内」「泉州」のいずれかに発令された場合を含む）

※２特別警報には，気象（大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪）に関する特別警報と津波・火山・地震（地震動）に関する特別警報がありますが，これらすべてを対象とします。

（ハ）

午前６時30分現在発令中の場合	全日休講　※３
午前６時30分以降に発令の場合	発令時刻以降休講　※３

※３ただし，上記にかかわらず，午前９時30分以前に発令が解除された場合は，Ⅲ講時以降授業を行います。

◎特別警報が出た場合，該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。
該当地域にいる学生は，各自，直ちに命を守る行動をとってください。

◎その他の場合

授業を行うことが困難あるいは危険であると学長が判断した場合，休講とすることがあります。

◎定期試験期間中も上記の措置が適用されます。

なお，中止となった試験の振替実施日は，本学ホームページにて連絡します。

◎本ページに記載の事由により，全学一斉休講となる場合は「同志社女子大学教務課（緊急連絡用）X（旧：Twitter）」（アカウント名@dwcla_kyomu）でお知らせします。

同志社女子大学
教務課
（緊急連絡用）
@dwcla_kyomu